

病院年報

第 6 卷
(令和 3 年度)



独立行政法人 地域医療機能推進機構

大阪病院

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院年報第6巻

巻 頭 言

令和三年度は、二年度に引き続きコロナの蔓延の中で始まりました。年度始めの4月からのCOVID-19感染症の第四波で、大阪や東京を中心に全国で救急の滞留と医療の混乱が起きました。そういった中、当大阪病院ではコロナの患者さんに対応するだけでなく、虚血性心疾患や脳卒中などの一般救急の患者さんを、地域を越え、できるだけ広く多く受け入れてきました。そうした令和三年度の当院の活動状況を、JCHO大阪病院年報第6巻にて報告させていただけることを大変うれしく思います。

COVID-19感染者数は波が来る毎に大きく増加してきました。三年度は、第四波に始まり、四波より五波の、五波より六波の患者数は大幅に増加しました。当院でも令和三年度には、主に中等症2の患者を429名、重症患者22名を受け入れ、可能な限りの医療を提供しました。コロナがアウトブレイクしやすい都心の総合病院としてそれなりの貢献ができたのではないかと考えます。

財務的にはCOVID-19の流行と共に一般の患者さんが減少し、非常に厳しい状況となりました。幸い国からの補助金があり、年度を超えることができました。同時に、この間に今後の大阪病院のパーパスやビジョンを考え、求められる医療に投資し医療提供体制の再構築ができつつあると思います。

大阪厚生年金病院からJCHOに改組して8年になります。この間に地域の医療環境や病院に求められる医療が変わってきました。そこで理念プロジェクトを立ち上げ、院内だけでなく地域や患者家族の皆様にもご協力いただき、大阪病院のVisionやPurpose、Credoを1年かけて創ってきました。近々、皆様にご報告ができるものと思います。

そして今後の医療や医療制度の方向性を考え、現在三つの面で強化を図っています。それは高度の急性期医療を提供できる体制を築くこと、地域や患者に開かれ地域と共働する病院になること、そして医療のIT化です。

急性期医療の提供体制に関してはICUを10床とし、専門医を配置してRapid Response Team等も組織し、人員も含め体制強化して最も高い施設基準を取っています。より充実した入院生活を送っていただくため、多職種でPFM（Patient Flow Management）を提供し、早期に問題解決できる体制にしました。治療後はICUを含め、早期からの365日リハビリテーションも提供しています。また、少しでも満足いただける療養生活を目指して委託先と協力して病院食の改善にも取り組みました。

地域に開かれ地域と共働する病院を目指し、情報提供のWEB講演会を医師会の生涯教育の一つにしました。この様な地域保健福祉活動には、マタニティクラスや糖尿病勉強会等だけでなく、多職種によるオープンキャンパスを院内で開催し、それらの情報をSNS（Facebook、Line、Instagram）等で発信始めま

した。是非ご利用ください。また、がん診療では希少がん等で国立がん研究センターとも共同しています。

IT化に関しては、コロナの流行で家族と面会できない患者さんに、タブレットで家族との面会やオンラインでの面談を提供しています。更には、オンライン予約やオンライン・セカンドオピニオンも、今はまだ診療科を限っていますが、開始しました。来年度には病院情報システムと電子カルテの更新を行います。ITベンチャーを入れて少しでも人に優しい医療提供システムを構築したいと思います。

こうした運営改善と共に働き方改革やワークライフバランスの推進にも積極的に取り組んでおり、超過勤務時間の削減や年休の適正な利用も進めております。

本年報の作成に当たり、皆様方に当院の現況を知っていただき、地域にとって役に立つ、より良い医療を提供できる病院になりたいと思っております。当院の診療活動に対する皆様方の忌憚りの無いご意見をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆様方のあたたかいご支援とご助言を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西田 俊朗

INDEX

■理 念	1
■病院概要	2
■施設基準	2
■学会認定	6
■沿 革	7
■職 員 数	8
■附属施設	8
■組 織 図	9
■医事統計	11
■病歴統計	23
■部門概要	53
■各種委員会	132
■業 績	133

JCHOの理念

我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

JCHO大阪病院の理念

1. 高度で安全な医療を目指します。
2. 患者さんの立場に立って、心温まるケアに専念します。
3. 近隣のかかりつけ医と連携し、地域の医療と福祉を推進します。
4. 職員全員が働きやすい職場づくりをすすめます。

地域医療支援病院としての基本方針

1. 小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2. 母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3. 各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4. 内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5. 慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6. 脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7. 心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8. 生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9. 各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10. 地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11. 職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

【病院概要】

開設者： 独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病院名： 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病院長： 西田 俊朗

所在地： 大阪府大阪市福島区福島4丁目2番78号

開設年月日： 平成26年4月1日

許可病床数： 565床（一般病床）

特殊病床： 特定集中治療室（ICU） 12床

脳卒中ケアユニット（SCU） 9床

新生児特定集中治療室（NICU） 9床

継続保育治療室（GCU） 6床

開放型病床15床を含む

標榜科： 整形外科、リウマチ科、形成外科、リハビリテーション科、外科、消化器外科（内視鏡）、呼吸器外科（内視鏡）、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、内科、消化器内科（内視鏡）、呼吸器内科（内視鏡）、腎臓内科（人工透析）、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、小児科、新生児内科、神経精神科、脳神経内科、放射線診断科・IVR科、放射線治療科、歯科・歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、救急科

【施設基準】

令和4年3月31日現在

入院基本料	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
入院基本料等加算	総合入院体制加算2
	超急性期脳卒上加算
	救急医療管理加算
	診療録管理体制加算1
	医師事務作業補助体制加算1（25対1）
	急性期看護補助体制加算（25対1）
	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	緩和ケア診療加算
	栄養サポートチーム加算
	医療安全対策加算1

入院基本料等加算	感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)
	患者サポート体制充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	総合評価加算
	呼吸ケアチーム加算
	後発医薬品使用体制加算 2
	病棟薬剤業務実施加算 1
	病棟薬剤業務実施加算 2
	データ提出加算 2
	入退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算)
	認知症ケア加算 1
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	地域医療体制確保加算
特定入院料	特定集中治療室管理料 3
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	新生児特定集中治療室管理料 2
	小児入院医療管理料 2
指導管理	心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	がん患者指導管理料二
	外来緩和ケア管理料
	糖尿病透析予防指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	地域連携小児夜間・休日診療料 1
	地域連携夜間・休日診療料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来放射線照射診療料
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料の注 2 に掲げる相談体制充実加算
	療養・就労両立支援指導料の注 3 に掲げる相談体制充実加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	ハイリスク妊産婦連携指導料 1
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料 1
	医療機器安全管理料 2

在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
	在宅療養後方支援病院
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検 査	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
	BRCA1/2 遺伝子検査
	HPV 核酸検出及びHPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
	検体検査管理加算（Ⅰ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	胎児心エコー法
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	ヘッドアップティルト試験
	皮下連続式グルコース測定
	神経学的検査
	小児食物アレルギー負荷検査
	内服・点滴誘発試験
	画像診断
CT 撮影及びMRI 撮影	
冠動脈CT 撮影加算	
心臓MRI 撮影加算	
乳房MRI 撮影加算	
小児鎮静下MRI 撮影加算	
頭部MRI 撮影加算	
投 薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注 射	外来化学療法加算1
	無菌製剤処理料
リハビリ	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
	がん患者リハビリテーション料
処 置	人工腎臓
	導入期加算2 及び腎代替療法実績加算
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
手 術 他	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
	椎間板内酵素注入療法
	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる）
	乳がんセンチネルリンパ節加算1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
	乳がんセンチネルリンパ節加算2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
	経カテーテル大動脈弁置換術

手術他	胸腔鏡下弁形成術
	胸腔鏡下弁置換術
	経皮的中隔心筋焼灼術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
	腹腔鏡下肝切除術
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
	生体腎移植術
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
	輸血管管理料Ⅰ
	貯血式自己血輸血管管理体制加算
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	麻酔管理料（Ⅰ）
	麻酔管理料（Ⅱ）
	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算
	高エネルギー放射線治療
	1回線量増加加算
	強度変調放射線治療（IMRT）
	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
	体外照射呼吸性移動対策加算
	定位放射線治療
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
	保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2	
悪性腫瘍病理組織標本加算	
食事療養	入院時食事療養（Ⅰ）
歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料
	歯科外来診療環境体制加算2
	クラウン・ブリッジ維持管理料
	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
	歯科口腔リハビリテーション料2
	CAD/CAM冠

【医学会認定研修等施設一覧】

- 厚生労働省臨床研修指定病院
日本内科学会認定医教育病院
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会病理専門医研修認定施設
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本神経学会専門医教育施設
日本リウマチ学会教育施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本手外科学会認定基幹研修施設
脊椎脊髓外科専門医基幹研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本透析医学会教育関連施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本核医学会専門医教育病院
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本脳卒中学会専門医研修教育病院
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本IVR学会専門医修練施設認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本食道学会全国登録認定施設
食道外科専門医準認定施設
日本不整脈学会不整脈専門医研修施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本膵臓学会認定指導施設
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設

【沿革】

昭和27年 10月	大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床）
29年 3月	外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科 新設334床
30年 4月	改築増床 計375床に
32年 7月	総合病院名称使用の承認
33年 4月	増改築増床 計560床に 福島小学校分校 併設（H22.12まで） 厚生年金病院大阪高等看護学院 開院
34年 4月 10月	下福島中学校分校 併設（H22.12まで） 神経精神科・放射線科 新設
36年 4月	麻酔科 新設
38年 4月	リウマチ科・災害外科 新設
43年 7月	臨床研修指定機関となる
45年 9月	脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設
48年 12月	病院新築工事着工（旧病院）
56年 3月	すべての新改築工事完了（旧病院）
57年 3月	10床増床 計570床に
平成 7年 2月	阪神・淡路大震災 医療支援活動
8年 2月	救急告示病院として認定
9年 3月	ICU・救急処置室 開設
12年 4月 10月	開放型病床の承認（15床） 院外処方全面発行開始
13年 7月	地域医療連絡室設置
16年 3月 4月	オーダーリングシステム導入 産科オープンシステム開始
18年 4月 10月	DPC 対象病院に指定 SCU（脳卒中ケアユニット）新設 許可病床数変更570床→565床
19年 4月 12月	院内保育園設置 地域医療支援病院の承認
20年 5月	電子カルテシステム導入
22年 4月	大阪府がん診療拠点病院の指定
23年 4月	東日本大震災 医療支援活動
25年 2月	耐震建替工事着工
26年 4月	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 改組
27年 4月 5月	新病院竣工式 新病院診療開始
28年 4月	新病院グランドオープン
令和 1年 9月	一次脳卒中センター認定
2年 4月	40床休床 NICU9床→6床、GCU6床→0床 13階東45床/西45床→13階東60床 9階西46床→45床 COVID-19 受入病床15床（13東） COVID-19 救急外来 発熱外来用コンテナ設置 COVID-19 3階図書コーナー閉鎖

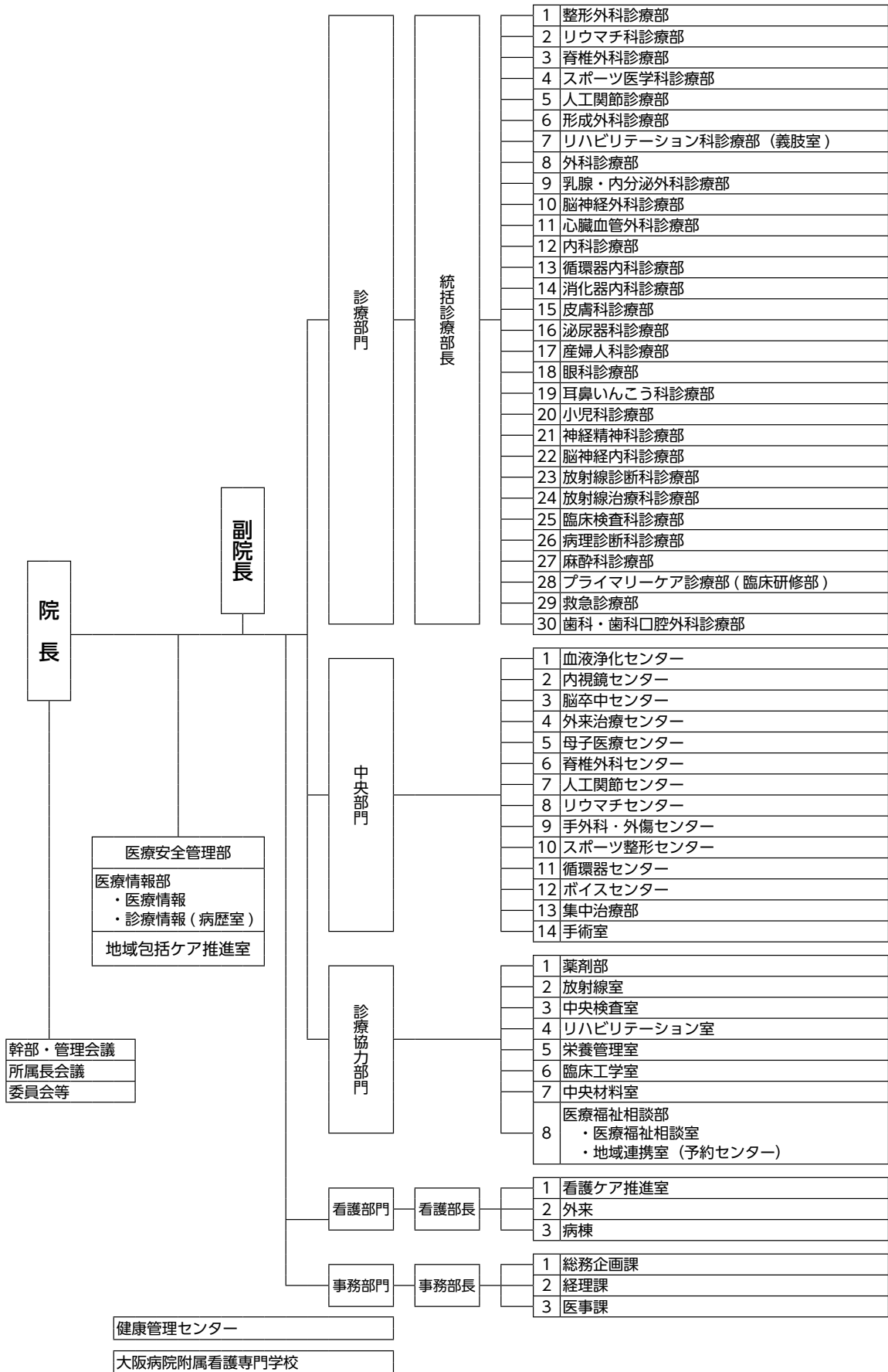
【職員数】

令和4年3月1日現在

	区分	医療職	医技職	福祉職	看護職	事務職	療養 介護職	技能職	合計
病院	常勤	185	162	7.0	522.0	33.0	30.0	3.0	942
	非常勤	3.1	5.4	0.0	13.7	19.5	8.0	0.0	49.7
	小計	188.1	167.4	7.0	535.7	52.5	38.0	3.0	991.7
	区分	教育職	事務職						合計
学校	常勤	8.0	2.0						10.0
	非常勤	0.0	0.0						0.0
	小計	8.0	2.0						10.0
合計(人)		196.1	169.4	7.0	535.7	52.5	38.0	3.0	1001.7

【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校





医事統計

■科別外来患者数 【2021年度】

外来診療日：242日

診療科	新患	再来	合計	1日平均患者数		
				新患	再来	合計
整形外科	3,215	31,508	34,723	13.3	130.2	143.5
形成外科	497	3,044	3,541	2.1	12.6	14.6
リハビリテーション科	1	5,674	5,675	0.0	23.4	23.5
外科	308	10,974	11,282	1.3	45.3	46.6
乳腺内分泌外科	520	9,547	10,067	2.1	39.5	41.6
心臓血管外科	24	1,716	1,740	0.1	7.1	7.2
脳神経外科	660	4,203	4,863	2.7	17.4	20.1
内科	2,194	34,702	36,896	9.1	143.4	152.5
消化器内科	1,366	30,393	31,759	5.6	125.6	131.2
循環器科	646	18,965	19,611	2.7	78.4	81.0
皮膚科	761	11,104	11,865	3.1	45.9	49.0
泌尿器科	322	9,969	10,291	1.3	41.2	42.5
産婦人科	1,533	17,837	19,370	6.3	73.7	80.0
眼科	815	19,597	20,412	3.4	81.0	84.3
耳鼻いんこう科	642	6,120	6,762	2.7	25.3	27.9
小児科	1,070	6,696	7,766	4.4	27.7	32.1
神経精神科	120	8,471	8,591	0.5	35.0	35.5
脳神経内科	405	4,343	4,748	1.7	17.9	19.6
放射線診断科	551	310	861	2.3	1.3	3.6
放射線治療科	4	2,731	2,735	0.0	11.3	11.3
歯科・歯科口腔外科	1,874	4,798	6,672	7.7	19.8	27.6
合計	17,528	242,702	260,230	72.4	1,002.9	1,075.3

■病棟別患者数

365日

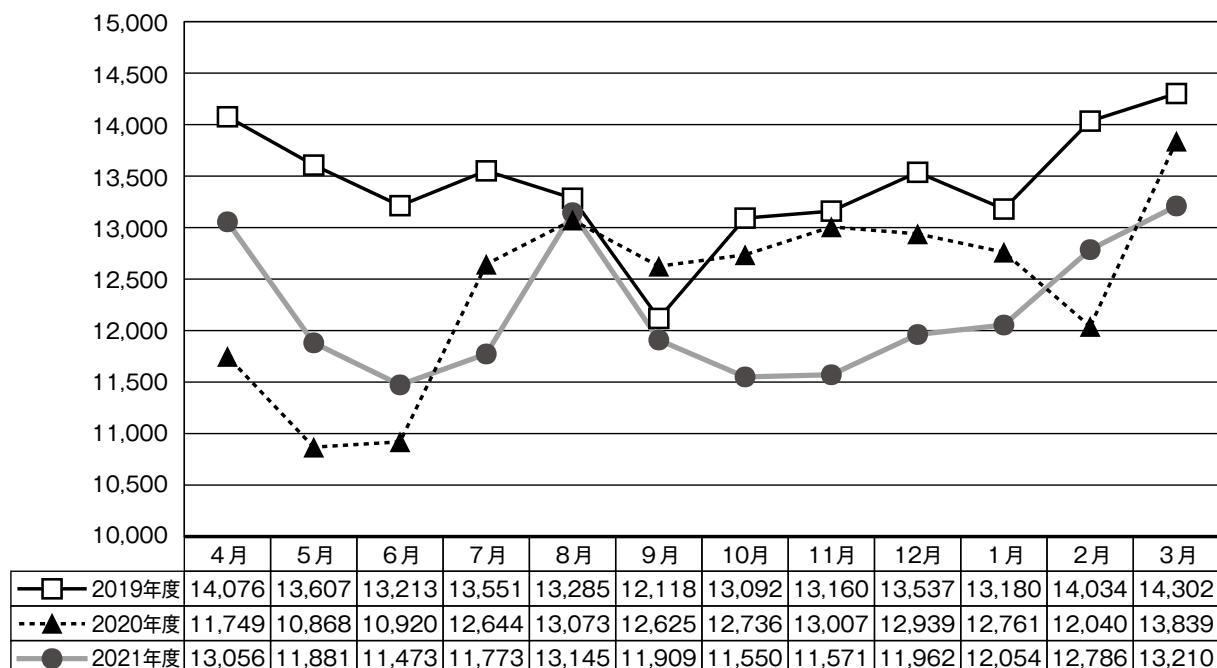
病棟名	取扱患者数	1日平均患者数
8階東	5,125	14.0
8階西	4,102	11.2
8階南	10,749	29.4
9階東	11,688	32.0
9階西	13,432	36.8
10階東	13,800	37.8
10階西	13,454	36.9
11階東	12,276	33.6
11階西	13,060	35.8
12階東	13,827	37.9
12階西	13,600	37.3
13階東	3,173	8.7
13階西	11,882	32.6
ICU	2,471	6.8
SCU	2,957	8.1
NICU	774	2.1
合計	146,370	401.0

■診療科別入院患者数 【2021年度】

入院日数：365日

診療科	繰越延患者数	新入院患者数	退院患者数		在院延患者数	取扱患者数	1日平均患者数	平均在院日数
			死亡	退院				
整形	107	1,848	2	1,875	33,796	35,673	97.7	18.1
形成	3	160	3	164	1,918	2,085	5.7	11.7
外科	30	1,096	24	1,092	12,549	13,665	37.4	11.3
乳腺	5	265	10	255	2,525	2,790	7.6	9.5
心臓	4	146	3	152	2,821	2,976	8.2	18.7
脳外	34	432	19	408	10,304	10,731	29.4	24.0
内科	52	1,451	76	1,340	19,543	20,959	57.4	13.6
消内	33	2,253	38	2,209	15,043	17,290	47.4	6.7
循環	34	1,024	31	988	10,883	11,902	32.6	10.7
皮膚	6	145	1	142	2,134	2,277	6.2	14.8
泌尿	7	429	8	425	3,575	4,008	11.0	8.3
産婦	22	1,035	3	1,046	6,325	7,374	20.2	6.1
眼科	14	921	0	923	3,027	3,950	10.8	3.3
耳鼻	5	201	0	196	1,282	1,478	4.0	6.5
小児	12	750	0	752	4,363	5,115	14.0	5.8
神内	9	246	4	237	3,767	4,008	11.0	15.5
歯科	0	30	0	29	60	89	0.2	2.0
合計	377	12,432	222	12,233	133,915	146,370	401.0	10.8

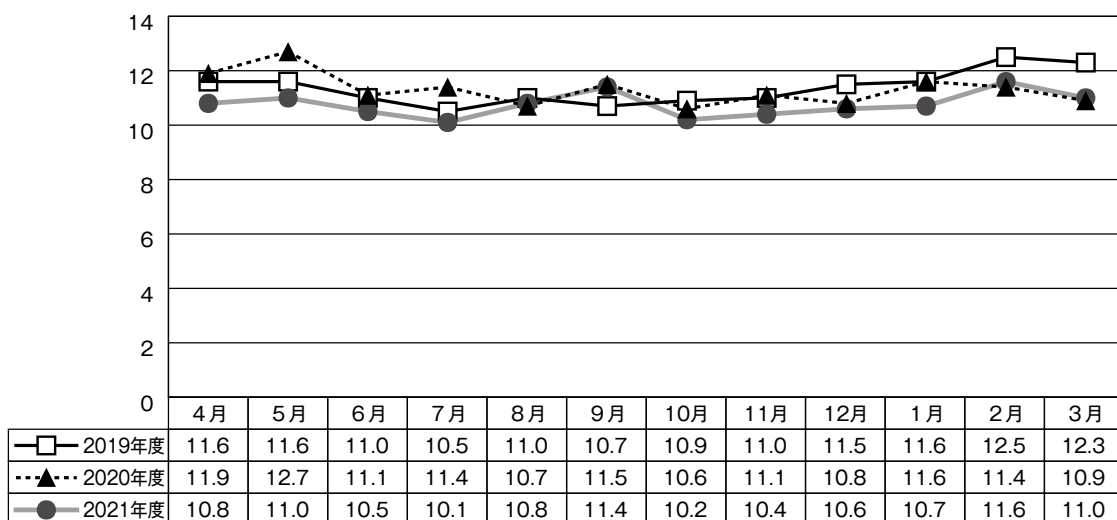
■入院延患者数の推移



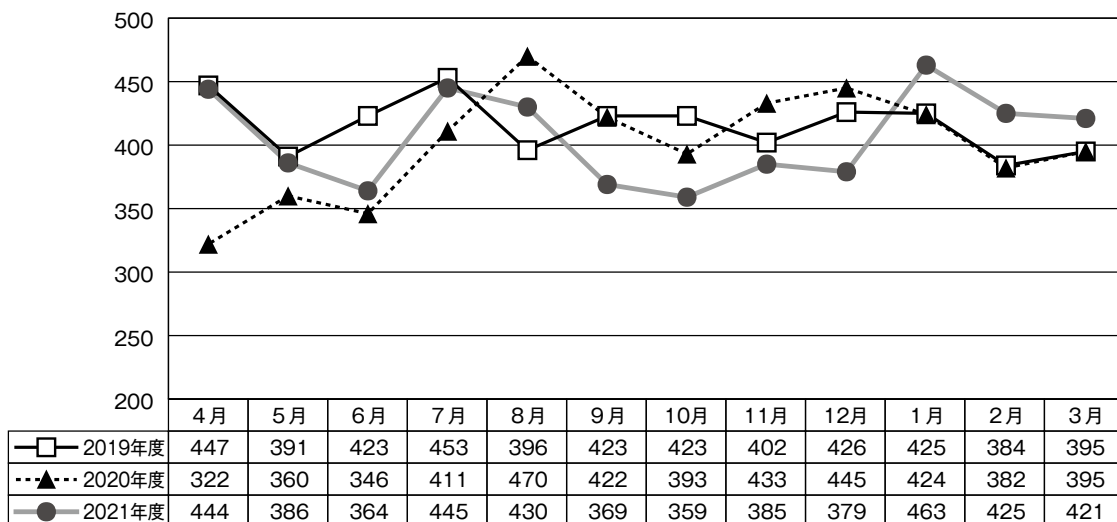
【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	3,438	2,757	2,815	2,915	3,342	3,004	2,712	2,629	3,006	2,666	3,092	3,297	35,673
形成	162	165	100	71	101	198	250	269	236	183	178	172	2,085
外科	1,034	1,113	1,149	1,266	1,109	1,035	1,150	1,303	1,131	1,121	1,052	1,202	13,665
乳腺	246	169	216	231	305	198	303	230	190	212	265	225	2,790
心臓	162	218	175	194	285	311	214	255	227	317	332	286	2,976
脳外	995	861	881	851	957	894	674	851	750	819	1,055	1,143	10,731
内科	2,045	2,008	1,512	1,618	2,101	1,749	1,365	1,407	1,501	1,680	1,950	2,023	20,959
消内	1,435	1,392	1,374	1,293	1,329	1,384	1,463	1,484	1,461	1,628	1,608	1,439	17,290
循環	1,047	861	963	956	883	929	873	878	987	1,184	1,192	1,149	11,902
皮膚	267	236	146	102	170	158	144	143	266	273	170	202	2,277
泌尿	245	298	317	344	345	282	493	406	350	312	294	322	4,008
産婦	618	564	577	647	806	589	737	668	619	529	562	458	7,374
眼科	353	300	264	310	397	335	326	319	396	363	249	338	3,950
耳鼻	177	126	137	103	97	85	116	104	138	125	70	200	1,478
小児	467	497	582	531	486	322	474	309	324	421	390	312	5,115
神内	357	309	259	332	423	432	249	313	366	211	324	433	4,008
歯科	8	7	6	9	9	4	7	3	14	10	3	9	89
合計	13,056	11,881	11,473	11,773	13,145	11,909	11,550	11,571	11,962	12,054	12,786	13,210	146,370

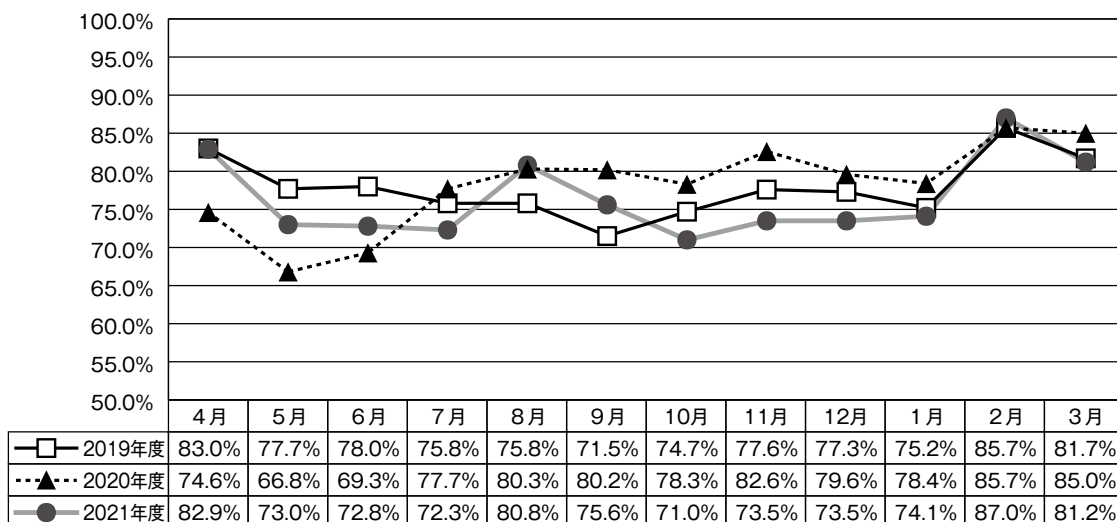
1. 平均在院日数



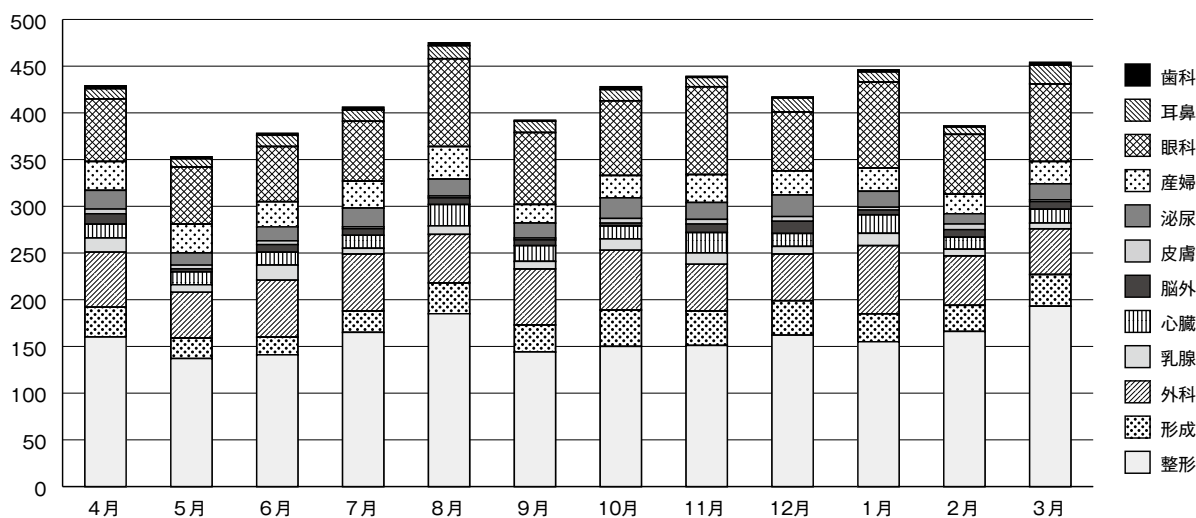
2. 直入患者数の推移



3. 病床稼働率



■診療科別手術件数(手術室実施分) 【2021年度】



【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	160	137	141	165	185	144	150	151	162	155	166	193	1,909
形成	32	22	19	23	33	29	39	37	37	30	28	34	363
外科	59	49	61	61	52	60	64	50	50	73	53	49	681
乳腺	15	8	16	6	9	8	12	12	8	13	7	6	120
心臓	15	14	14	14	23	17	14	22	14	20	13	15	195
脳外	11	3	8	7	7	6	3	9	13	5	8	8	88
皮膚	5	4	4	2	2	2	5	5	5	3	6	2	45
泌尿	20	13	15	20	18	16	22	18	23	17	11	17	210
産婦	31	31	27	29	35	20	24	30	26	25	21	24	323
眼科	67	61	59	64	94	77	80	94	63	92	64	83	898
耳鼻	11	9	12	12	14	12	12	10	15	11	8	20	146
歯科	3	2	2	3	3	1	3	1	1	2	1	3	25
合計	429	353	378	406	475	392	428	439	417	446	386	454	5,003

【2020年度】

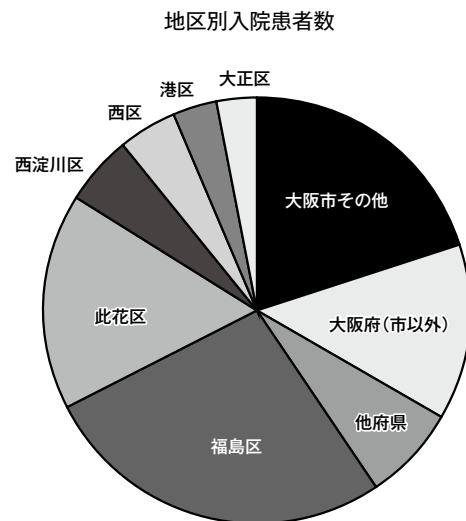
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	159	117	148	153	155	155	169	164	144	160	152	204	1,880
形成	23	14	25	32	35	38	35	29	30	28	25	39	353
外科	53	46	56	56	49	50	61	58	56	56	44	81	666
乳腺	12	17	7	11	12	8	8	10	9	7	11	11	123
心臓	9	9	12	14	8	18	13	7	12	14	10	13	139
脳外	10	12	11	9	4	11	8	10	9	14	5	9	112
皮膚	0	0	3	5	4	3	3	3	1	3	4	4	33
泌尿	23	15	16	27	15	15	13	14	16	13	15	17	199
産婦	37	23	25	26	32	30	31	38	37	28	29	40	376
眼科	43	40	56	61	75	57	91	98	79	74	66	85	825
耳鼻	5	2	13	15	14	14	17	11	17	14	11	16	149
歯科	0	0	0	4	2	0	1	0	1	2	1	0	11
合計	374	295	372	413	405	399	450	442	411	413	373	519	4,866

【2019年度】

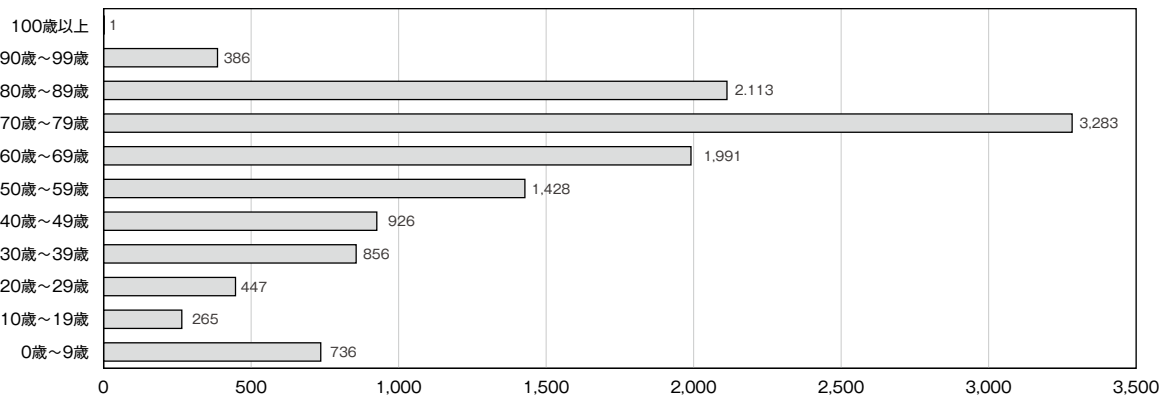
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形	150	155	140	177	171	146	158	173	157	155	143	163	1,888
形成	32	29	36	31	51	36	38	33	27	39	32	38	422
外科	50	44	53	53	56	59	57	54	53	46	53	63	641
乳腺	11	10	13	10	14	8	12	12	9	13	11	11	134
心臓	10	11	14	12	12	11	15	9	11	11	13	16	145
脳外	14	12	7	3	7	3	7	7	7	8	7	10	92
皮膚	6	8	8	10	8	2	7	6	4	3	4	3	69
泌尿	10	20	13	15	14	11	14	17	15	22	17	12	180
産婦	38	36	34	42	46	34	31	28	36	32	36	42	435
眼科	62	75	82	95	58	63	56	87	55	80	86	75	874
耳鼻	21	18	14	17	22	14	15	14	13	13	13	16	190
歯科	4	3	3	4	7	1	2	4	3	3	3	2	39
合計	408	421	417	469	466	388	412	444	390	425	418	451	5,109

■診療科別住所別入院患者数 【2021年度】

診療科	大阪市							その他 大阪府	他府県	合計
	福島区	此花区	西淀川区	西区	港区	大正区	その他			
整形外科	217	107	93	71	62	62	494	476	266	1,848
形成外科	36	35	14	4	5	9	26	21	10	160
外科	332	265	67	35	33	19	173	121	51	1,096
乳腺内分泌外科	46	46	12	6	16	20	52	46	21	265
心臓血管外科	32	18	6	8	18	5	31	22	6	146
脳神経外科	111	82	35	21	16	11	100	30	26	432
内科	361	265	67	58	68	60	389	132	51	1,451
消化器内科	661	508	118	72	45	64	295	294	196	2,253
循環器内科	278	215	75	43	65	30	190	91	37	1,024
皮膚科	45	25	17	9	7	0	24	11	7	145
泌尿器科	139	85	23	20	12	18	63	38	31	429
産婦人科	427	73	18	63	21	22	256	112	43	1,035
眼科	207	164	49	21	9	6	150	204	111	921
耳鼻いんこう科	68	37	7	11	9	10	31	20	8	201
小児科	320	54	9	119	23	10	161	26	28	750
脳神経内科	65	58	21	3	13	5	51	17	13	246
歯科・歯科口腔外科	9	5	2	1	1	0	8	2	2	30
合計	3,354	2,042	633	565	423	351	2,494	1,663	907	12,432



■年齢階層別新入院患者数【2021年度】



【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	80	79	81	85	59	38	66	57	58	54	42	37	736
10歳～19歳	14	10	17	34	23	17	24	19	28	30	17	32	265
20歳～29歳	42	32	32	35	57	26	36	37	35	36	39	40	447
30歳～39歳	78	66	68	73	86	68	75	69	61	77	67	68	856
40歳～49歳	87	78	68	93	97	87	63	64	65	79	70	75	926
50歳～59歳	121	112	119	131	134	105	120	115	103	122	109	137	1,428
60歳～69歳	170	149	162	143	174	169	166	182	152	187	165	172	1,991
70歳～79歳	304	260	254	263	317	255	251	294	223	306	262	294	3,283
80歳～89歳	178	157	163	179	160	152	185	182	183	200	184	190	2,113
90歳～99歳	27	29	23	21	30	30	24	30	39	51	41	41	386
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	1,101	972	987	1,057	1,137	947	1,010	1,049	947	1,142	996	1,087	12,432

【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	45	38	40	38	52	53	49	46	34	34	41	69	539
10歳～19歳	18	9	14	16	27	13	20	22	21	19	16	35	230
20歳～29歳	28	31	34	31	40	49	48	37	41	37	49	38	463
30歳～39歳	77	81	61	79	82	71	63	57	45	57	72	81	826
40歳～49歳	71	69	67	71	83	62	67	54	56	55	59	63	777
50歳～59歳	111	105	96	91	100	96	111	107	95	114	110	125	1,261
60歳～69歳	177	173	184	179	162	157	177	191	160	178	177	161	2,076
70歳～79歳	179	122	235	321	338	296	341	360	366	338	239	365	3,500
80歳～89歳	143	136	173	175	186	174	185	187	174	200	174	206	2,113
90歳～99歳	23	21	27	33	38	37	29	36	36	36	34	26	376
100歳以上	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
合計	872	785	932	1,034	1,108	1,008	1,090	1,097	1,029	1,069	971	1,170	12,165

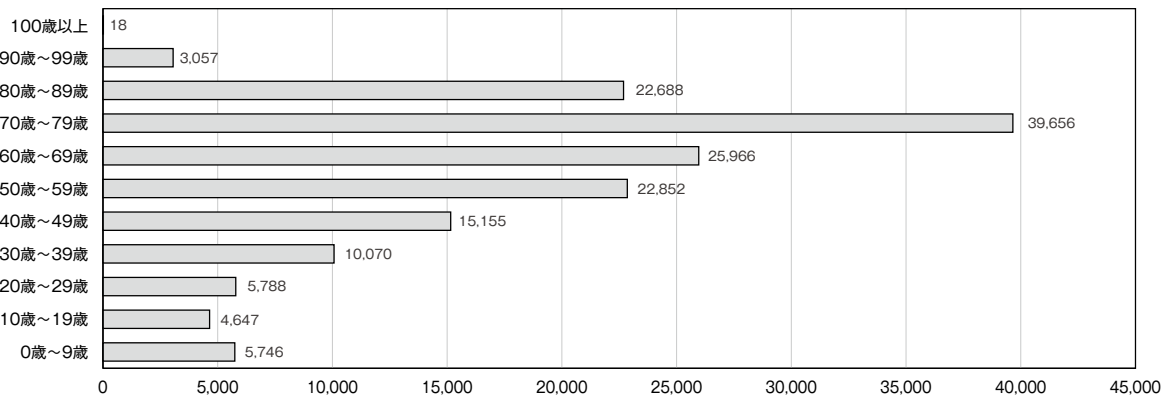
【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	89	71	92	96	83	101	81	77	59	72	64	69	954
10歳～19歳	19	21	18	43	30	26	34	22	41	23	16	24	317
20歳～29歳	39	41	40	43	45	42	56	41	35	37	33	46	498
30歳～39歳	82	86	66	84	87	76	68	62	50	62	77	86	886
40歳～49歳	76	74	72	76	88	67	72	59	61	60	64	68	837
50歳～59歳	116	110	101	96	105	101	116	112	100	119	115	130	1,321
60歳～69歳	182	178	189	184	167	162	182	196	165	183	182	166	2,136
70歳～79歳	298	294	317	341	292	280	302	306	302	328	263	296	3,619
80歳～89歳	179	172	185	202	152	167	179	184	176	200	187	172	2,155
90歳～99歳	21	25	26	22	28	22	28	21	35	36	28	22	314
100歳以上	1	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	8
合計	1,102	1,073	1,106	1,187	1,078	1,044	1,118	1,082	1,024	1,121	1,029	1,081	13,045

【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	58	56	84	91	67	82	76	75	61	79	54	88	871
10歳～19歳	23	14	19	30	47	20	22	19	27	30	12	30	293
20歳～29歳	30	34	36	42	53	39	54	40	38	31	46	38	481
30歳～39歳	50	60	69	97	93	79	83	78	67	68	69	94	907
40歳～49歳	59	63	61	74	84	66	79	80	67	82	68	68	851
50歳～59歳	97	102	123	98	120	114	95	121	107	131	101	98	1,307
60歳～69歳	199	208	208	195	174	193	218	215	183	211	194	207	2,405
70歳～79歳	284	337	303	324	316	254	347	334	266	331	305	315	3,716
80歳～89歳	183	181	202	202	151	155	166	188	181	207	200	182	2,198
90歳～99歳	28	22	35	34	28	27	27	25	21	25	27	25	324
100歳以上	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	5
合計	1,011	1,077	1,140	1,187	1,134	1,029	1,169	1,175	1,019	1,195	1,076	1,146	13,358

■年齢階層別外来実患者数の推移【2021年度】



【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	498	474	571	512	509	440	462	481	499	412	390	498	5,746
10歳～19歳	413	262	318	403	555	341	359	352	434	376	309	525	4,647
20歳～29歳	483	410	463	504	522	479	447	439	465	494	499	583	5,788
30歳～39歳	821	777	859	824	849	888	859	821	838	850	799	885	10,070
40歳～49歳	1,307	1,206	1,323	1,302	1,254	1,284	1,284	1,259	1,248	1,215	1,178	1,295	15,155
50歳～59歳	1,891	1,742	1,982	1,876	1,860	1,955	1,935	1,887	1,999	1,896	1,798	2,031	22,852
60歳～69歳	2,174	2,002	2,218	2,155	2,094	2,208	2,236	2,263	2,184	2,124	2,028	2,280	25,966
70歳～79歳	3,330	3,141	3,425	3,337	3,219	3,332	3,423	3,400	3,379	3,153	3,036	3,481	39,656
80歳～89歳	1,901	1,728	1,900	1,894	1,737	1,913	1,978	1,972	1,967	1,829	1,784	2,085	22,688
90歳～99歳	238	203	271	248	231	259	247	226	252	348	249	285	3,057
100歳以上	4	0	0	2	0	1	1	0	3	2	2	3	18
合計	13,060	11,945	13,330	13,057	12,830	13,100	13,231	13,100	13,268	12,699	12,072	13,951	155,643

【2020年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	675	169	626	689	632	614	632	618	631	594	471	524	6,875
10歳～19歳	378	357	355	457	567	323	366	345	445	376	325	431	4,725
20歳～29歳	517	488	477	558	507	467	468	488	457	411	458	500	5,796
30歳～39歳	925	899	885	893	864	866	923	808	851	820	780	815	10,329
40歳～49歳	1,368	1,295	1,358	1,356	1,304	1,247	1,304	1,224	1,262	1,203	1,155	1,218	15,294
50歳～59歳	1,786	1,729	1,772	1,797	1,734	1,663	1,839	1,730	1,785	1,668	1,612	1,744	20,859
60歳～69歳	2,485	2,308	2,330	2,361	2,160	2,203	2,335	2,186	2,211	2,159	2,102	2,112	26,952
70歳～79歳	3,544	3,337	3,445	3,487	3,178	3,312	3,424	3,252	3,314	3,173	3,136	3,162	39,764
80歳～89歳	1,865	1,741	1,730	1,805	1,622	1,700	1,729	1,707	1,679	1,746	1,587	1,592	20,503
90歳～99歳	182	182	164	181	156	177	184	184	166	192	169	184	2,121
100歳以上	9	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	42
合計	13,734	12,509	13,147	13,587	12,728	12,574	13,210	12,546	12,801	12,344	11,795	12,285	153,260

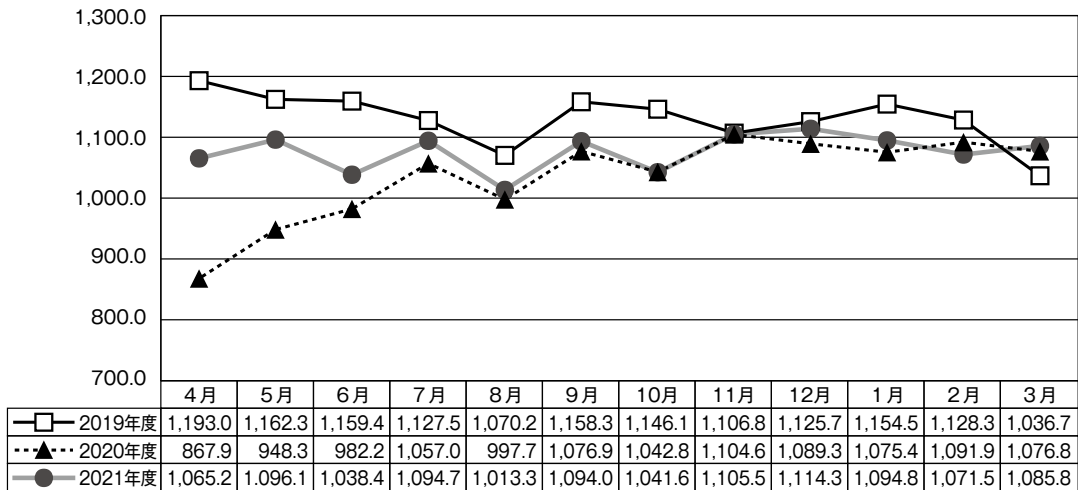
【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	735	184	682	750	688	668	688	673	687	647	513	571	7,486
10歳～19歳	411	389	387	498	617	352	399	376	485	409	354	469	5,146
20歳～29歳	563	531	519	607	552	508	510	531	498	447	499	544	6,309
30歳～39歳	1,007	979	964	972	941	943	1,005	880	926	893	849	887	11,246
40歳～49歳	1,489	1,410	1,478	1,476	1,420	1,358	1,420	1,333	1,374	1,310	1,258	1,326	16,652
50歳～59歳	1,944	1,882	1,929	1,956	1,888	1,811	2,002	1,883	1,943	1,816	1,755	1,899	22,708
60歳～69歳	2,706	2,513	2,537	2,570	2,352	2,398	2,542	2,380	2,407	2,351	2,289	2,299	29,344
70歳～79歳	3,858	3,633	3,751	3,796	3,460	3,606	3,728	3,540	3,608	3,454	3,414	3,443	43,291
80歳～89歳	2,031	1,896	1,883	1,965	1,766	1,851	1,882	1,858	1,828	1,901	1,728	1,733	22,322
90歳～99歳	198	198	179	197	170	193	200	200	181	209	184	200	2,309
100歳以上	10	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	43
合計	14,952	13,619	14,314	14,790	13,858	13,690	14,382	13,658	13,937	13,439	12,843	13,374	166,856

【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	600	707	561	713	758	644	698	615	676	631	586	676	7,865
10歳～19歳	410	349	335	479	611	306	373	347	489	400	336	570	5,005
20歳～29歳	427	458	442	485	570	482	514	504	515	582	538	625	6,142
30歳～39歳	915	976	959	969	965	909	1,075	999	1,017	937	961	990	11,672
40歳～49歳	1,264	1,354	1,332	1,357	1,402	1,317	1,527	1,406	1,452	1,388	1,383	1,452	16,634
50歳～59歳	1,721	1,807	1,840	1,823	1,833	1,705	1,951	1,934	1,828	1,842	1,821	1,956	22,061
60歳～69歳	2,435	2,376	2,453	2,489	2,464	2,249	2,685	2,429	2,408	2,547	2,427	2,603	29,565
70歳～79歳	3,529	3,506	3,679	3,577	3,542	3,303	3,725	3,563	3,511	3,393	3,486	3,625	42,439
80歳～89歳	2,003	1,987	1,999	2,037	1,860	1,840	2,075	1,998	1,877	1,849	1,793	1,879	23,197
90歳～99歳	218	218	227	222	216	202	225	210	190	170	159	196	2,453
100歳以上	3	4	2	3	4	3	5	2	2	3	3	4	38
合計	13,525	13,742	13,829	14,154	14,225	12,960	14,853	14,007	13,965	13,742	13,493	14,576	167,071

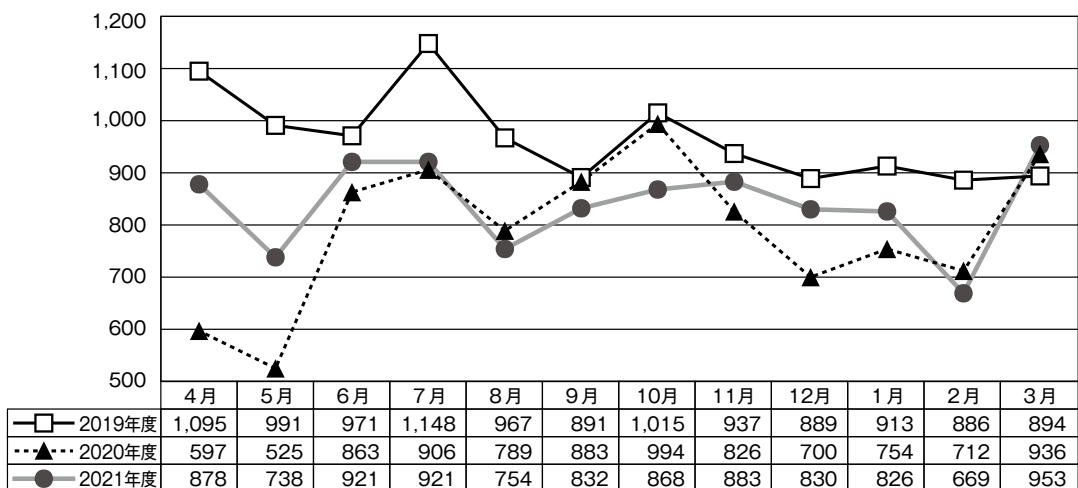
■ 1日平均外来患者数の推移



【2021年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来日数	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242
整形	142.5	146.1	138.8	151.9	137.8	140.9	142.1	154.4	145.9	139.7	138.3	143.7	143.5
形成	15.2	12.2	12.4	16.0	13.6	14.4	15.7	17.1	15.3	14.0	14.1	15.5	14.6
リハ	20.5	24.0	23.4	25.3	22.7	22.5	22.3	22.7	23.4	25.8	24.9	24.5	23.5
外科	46.1	52.3	46.2	48.4	43.5	47.0	46.1	46.6	48.2	46.7	46.9	42.7	46.7
乳腺	40.7	42.2	42.8	40.2	37.7	45.5	42.1	41.9	43.8	41.6	39.9	40.9	41.6
心臓	7.1	7.6	6.8	7.1	7.0	7.6	6.7	7.3	7.3	6.7	7.4	7.7	7.2
脳外	19.0	19.8	19.4	19.3	19.3	19.5	20.6	21.0	23.9	19.4	18.7	21.1	20.1
内科	153.1	161.8	144.4	152.1	145.1	152.5	137.2	151.9	147.4	170.2	165.8	153.0	152.9
消内	124.5	130.2	132.2	133.6	117.8	138.8	135.5	132.3	136.8	134.3	133.1	127.0	131.3
循環	88.1	76.8	73.5	80.6	75.1	78.6	80.5	86.0	86.7	80.8	82.4	83.5	81.1
皮膚	46.1	48.1	44.2	50.2	45.7	52.4	49.0	50.7	53.3	53.5	47.7	48.4	49.1
泌尿	41.6	44.8	38.6	42.5	40.0	43.5	41.0	44.8	47.9	42.5	41.1	42.8	42.6
産婦	81.0	81.8	81.9	83.9	76.7	83.3	76.0	81.1	77.8	76.0	76.9	83.7	80.0
眼科	85.2	88.2	79.4	84.3	80.2	91.7	72.9	82.5	87.3	87.5	84.5	89.7	84.5
耳鼻	28.1	30.8	25.2	30.6	25.2	27.6	26.6	29.0	26.9	27.1	27.6	31.0	28.0
小児	29.7	29.1	35.7	35.1	34.8	32.0	30.3	32.8	34.9	29.6	25.1	34.5	32.0
神経	35.8	36.7	32.6	35.9	36.2	35.6	35.7	35.9	37.5	35.3	35.1	34.2	35.5
脳内	20.5	21.7	18.8	20.2	17.4	20.2	20.0	20.9	20.3	19.2	17.3	19.1	19.6
放診	3.6	2.4	3.9	4.0	2.8	3.6	3.4	4.3	3.6	3.7	3.3	3.9	3.5
放治	8.5	11.1	9.5	5.7	9.3	10.5	11.7	12.0	16.8	13.5	13.7	13.8	11.3
歯科	28.3	28.4	28.7	27.8	25.4	26.3	26.2	30.3	29.3	27.7	27.7	25.1	27.6
合計	1,065.2	1,096.1	1,038.4	1,094.7	1,013.3	1,094.0	1,041.6	1,105.5	1,114.3	1,094.8	1,071.5	1,085.8	1,076.3

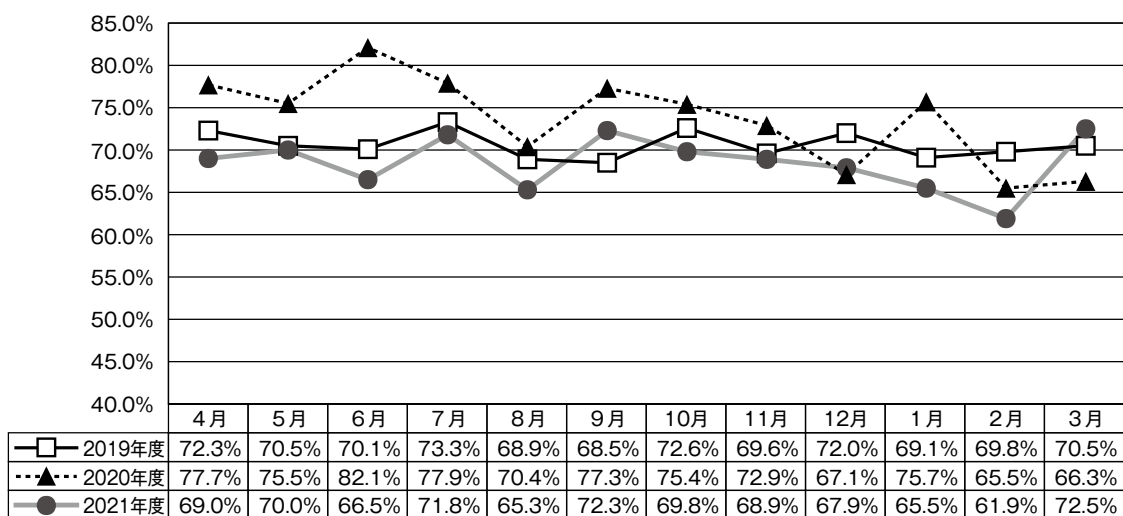
■ 紹介患者数の推移



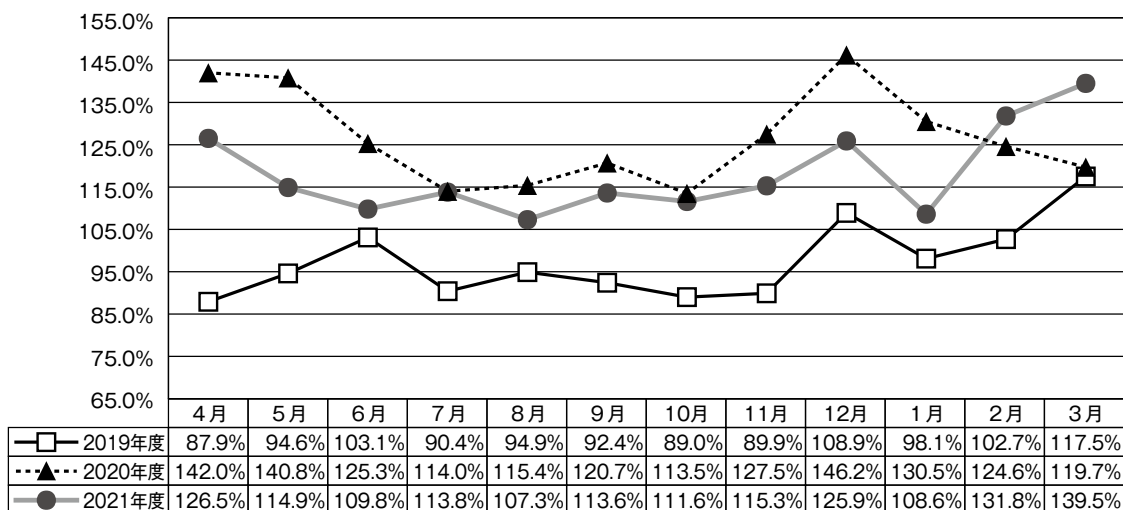
■地域医療支援病院 紹介率と逆紹介率の推移

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2019年度	紹介率	72.3%	70.5%	70.1%	73.3%	68.9%	68.5%	72.6%	69.6%	72.0%	69.1%	69.8%	70.5%	70.7%
	逆紹介率	87.9%	94.6%	103.1%	90.4%	94.9%	92.4%	89.0%	89.9%	108.9%	98.1%	102.7%	117.5%	97.0%
2020年度	紹介率	77.7%	75.5%	82.1%	77.9%	70.4%	77.3%	75.4%	72.9%	67.1%	75.7%	65.5%	66.3%	73.3%
	逆紹介率	142.0%	140.8%	125.3%	114.0%	115.4%	120.7%	113.5%	127.5%	146.2%	130.5%	124.6%	119.7%	125.2%
2021年度	紹介率	69.0%	70.0%	66.5%	71.8%	65.3%	72.3%	69.8%	68.9%	67.9%	65.5%	61.9%	72.5%	68.5%
	逆紹介率	126.5%	114.9%	109.8%	113.8%	107.3%	113.6%	111.6%	115.3%	125.9%	108.6%	131.8%	139.5%	118.2%

地域医療支援病院 紹介率の推移



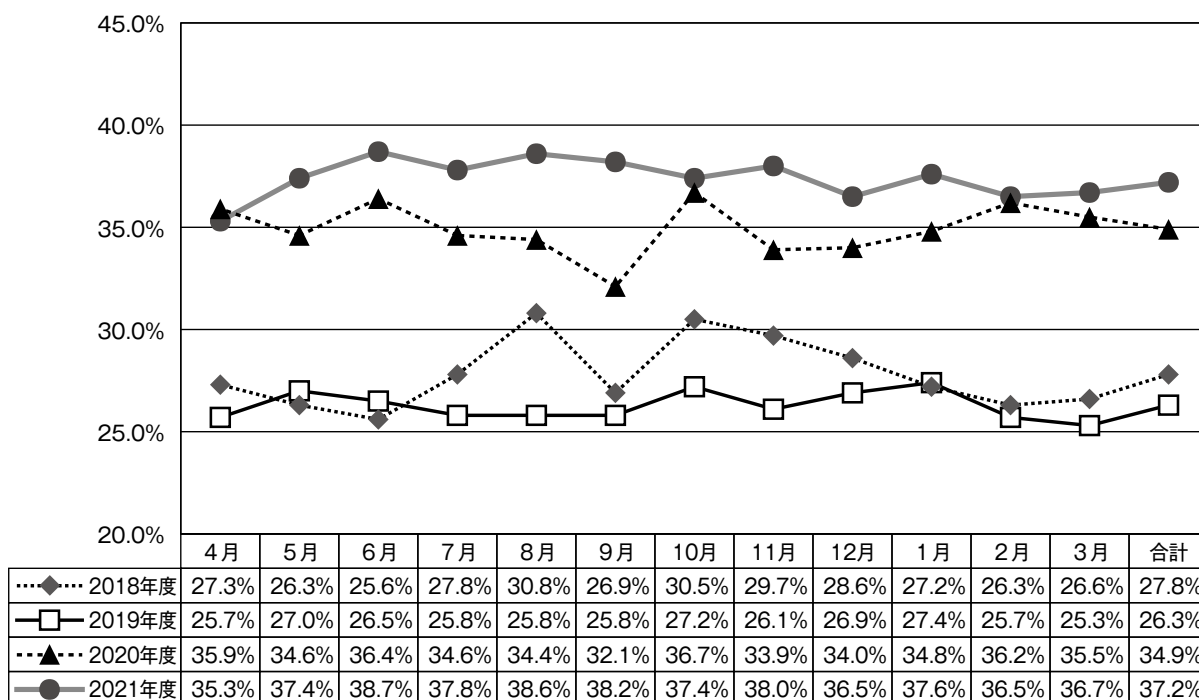
地域医療支援病院 逆紹介率の推移



紹介率 (地域医療支援病院) (65%以上) = $\frac{\text{紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

逆紹介率 (40%以上) = $\frac{\text{逆紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移



2020年4月より、評価項目の変更あり、重症度、医療・看護必要度Ⅱ(29%以上必要)で表記

【2021年度】

月 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8南	33.0%	39.9%	42.9%	38.9%	41.4%	44.6%	41.0%	44.3%	40.4%	41.4%	33.8%	31.4%	38.3%
9東	21.8%	20.0%	30.3%	21.8%	21.0%	20.8%	27.1%	25.8%	26.9%	28.1%	22.7%	16.5%	23.3%
9西	46.8%	42.8%	41.9%	48.0%	43.5%	47.4%	40.4%	41.9%	42.0%	37.4%	39.4%	47.2%	44.9%
10東	35.1%	43.0%	35.9%	37.5%	38.1%	33.3%	33.0%	31.3%	36.1%	33.6%	32.6%	30.7%	37.8%
10西	38.8%	34.9%	38.0%	37.2%	38.6%	37.2%	39.9%	34.3%	37.4%	35.9%	37.1%	38.9%	37.2%
11東	27.0%	32.2%	37.3%	34.0%	36.7%	29.5%	28.2%	34.5%	25.4%	44.4%	33.9%	28.9%	32.3%
11西	41.8%	40.8%	38.6%	41.7%	42.1%	43.4%	39.8%	41.9%	45.3%	44.2%	37.6%	46.4%	40.8%
12東	31.4%	37.6%	42.7%	42.0%	40.6%	39.3%	41.8%	48.7%	40.0%	41.5%	41.3%	38.8%	38.2%
12西	40.7%	35.0%	41.1%	40.8%	42.0%	44.4%	43.0%	43.0%	43.4%	37.4%	42.2%	46.5%	39.5%
13東	69.5%	87.6%	73.1%	65.9%	76.5%	80.7%	80.0%	42.7%	100.0%	53.9%	70.6%	67.1%	75.3%
13西	25.2%	27.7%	31.4%	23.6%	26.8%	31.8%	36.2%	33.5%	27.3%	30.2%	23.2%	27.9%	26.9%
計	35.3%	37.4%	38.7%	37.8%	38.6%	38.2%	37.4%	38.0%	36.5%	37.6%	36.5%	36.7%	37.2%



病 歷 統 計



■退院患者数及び平均在院日数

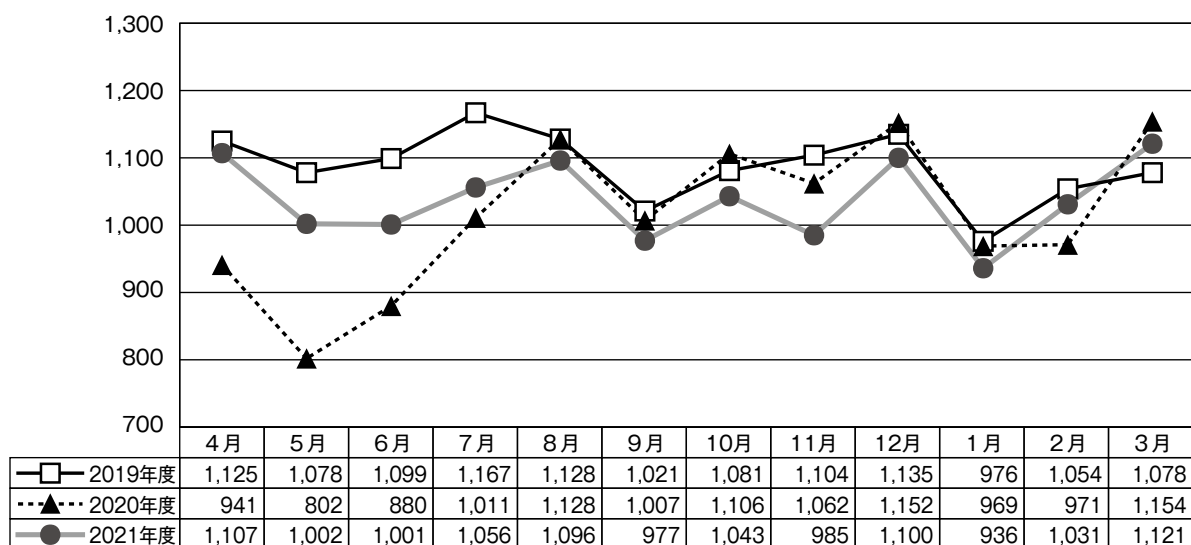
【2021年度】

大分類表		退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1	感染症及び寄生虫症	A00-B99	122	130	252	1,641	1,209	2,850	13.45	9.30	11.31
2	新生物	C00-D48	1,201	1,267	2,468	13,975	13,179	27,154	11.64	10.40	11.00
3	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	17	47	372	179	305	484	10.53	6.49	1.30
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-90	170	185	355	2,118	2,005	4,123	12.46	10.84	11.61
5	精神および行動の障害	F00-90	4	5	9	86	43	129	21.50	8.60	14.33
6	神経系の疾患	G00-99	118	109	227	1,083	1,131	2,214	9.18	10.38	9.75
7	眼および付属器の疾患	H00-59	393	455	848	1,665	1,784	3,449	4.24	3.92	4.07
8	耳および乳様突起の疾患	H60-95	18	28	46	110	103	213	6.11	3.68	4.63
9	循環器系の疾患	I00-99	878	595	1,473	13,219	9,760	22,979	15.06	16.40	15.60
10	呼吸器系の疾患	J00-99	397	251	648	5,503	3,240	8,743	13.86	12.91	13.49
11	消化器系の疾患	K00-93	1,038	838	1,876	7,453	6,061	13,514	7.18	7.23	7.20
12	皮膚および皮下組織の疾患	L00-99	74	59	133	1,305	1,053	2,358	17.64	17.85	17.73
13	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-99	549	760	1,309	9,715	16,787	26,502	14.66	22.09	20.25
14	尿路性器系の疾患	N00-99	255	320	575	3,739	3,296	7,035	14.66	10.30	12.23
15	妊娠、分娩および産じょく(褥)	O00-99		589	589		4,138	4,138		7.03	7.03
16	周産期に発生した病態	P00-96	132	110	242	1,046	971	2,017	7.92	8.83	8.33
17	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-99	31	23	54	182	193	375	5.87	8.39	6.94
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-99	51	41	92	357	221	578	7.00	5.39	6.28
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	419	354	773	6,377	6,675	13,052	15.22	18.86	16.88
20	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	Z00-99	2	3	5	40	23	63	20.00	7.67	12.60
21	特殊目的コード	U00-U89	243	174	417	2,682	1,884	4,566	11.04	10.83	10.95
合 計			6,112	6,343	12,455	72,475	74,061	146,536	11.86	11.68	11.77

【2021年度】

診療科	退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
整形外科	820	1,057	1,877	13,874	22,191	36,065	16.92	20.99	19.21
形成外科	89	78	167	1,345	937	2,282	15.11	12.01	13.66
外科	694	422	1,116	8,911	5,017	13,928	12.84	11.89	12.48
乳腺内分泌外科	3	262	265	29	2,685	2,714	9.67	10.25	10.24
心臓血管外科	110	45	155	2,006	950	2,956	18.24	21.11	19.07
脳神経外科	241	186	427	6,138	4,328	10,466	25.47	23.27	24.51
内科	816	600	1,416	12,353	8,489	20,842	15.14	14.15	14.72
消化器内科	1,258	989	2,247	10,016	7,340	17,356	7.96	7.42	7.72
循環器内科	581	438	1,019	5,861	5,741	11,602	10.09	13.11	11.39
皮膚科	71	72	143	1,020	1,113	2,133	14.37	15.46	14.92
泌尿器科	305	128	433	2,628	1,442	4,070	8.62	11.27	9.40
産婦人科		1,049	1,049		7,489	7,489		7.14	7.14
眼科	433	490	923	1,854	2,099	3,953	4.28	4.28	4.28
耳鼻いんこう科	108	88	196	844	602	1,446	7.81	6.84	7.38
小児科	433	319	752	3,165	2,018	5,183	7.31	6.33	6.89
脳神経内科	141	100	241	2,405	1,558	3,963	17.06	15.58	16.44
歯科・歯科口腔外科	9	20	29	26	62	88	2.89	3.10	3.03
合 計	6,112	6,343	12,455	72,475	74,061	146,536	11.86	11.68	11.77

■退院患者数の推移



■診療科別 退院患者数・手術件数・合併症数 【2021年度】

診療科	退院患者数	手術件数(*)	ESD件数	カテ治療件数	合併症		合併症内訳					
					合併症総数	発生率	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	機械的合併症	その他
整形外科	1,877	1,864			48	2.6%	15	4	14	9	3	3
形成外科	167	178			2	1.1%	1		1			
外科	1,116	690		2	32	4.6%	16	4	6	3		3
乳腺内分泌外科	265	120			0	0.0%						
心血管外科	155	163			4	2.5%	2	2				
脳神経外科	427	87		24	1	0.9%		1				
内科	1,416	9		23	0	0.0%						
消化器内科	2,247	7(3*1)	205	3	3	1.4%		3				
循環器内科	1,019	19(1*2)		355	8	2.1%	1	2		4	1	
皮膚科	143	9			0	0.0%						
泌尿器科	433	215			1	0.5%						1
産婦人科	1,049	333			8	2.4%	3		2	3		
眼科	923	868			1	0.1%						1
耳鼻いんこう科	196	144			1	0.7%				1		
小児科	752											
脳神経内科	241			1	0	0.0%						
歯科・ 歯科口腔外科	29	25			0	0.0%						
合計	12,455	※4,731(4)	205	408	109	2.0%	38	16	23	20	4	8

*手術件数は手術室で行った手術の件数 ※手術室で行ったESD(*1)、カテ治療(*2)は()をもって再掲とする

■悪性新生物部位別 術後合併症件数 【2021年度】

	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	その他	計
胃	1	1	3			5
大腸(含直腸)	8	1	2	3	1	15
胆・肝・膵	1	1			1	3
肺	1	1				2
耳下腺				1		1
卵巣				1		1
胸椎			1			1

※ESDは含まない

■死亡原因別死亡数 【2021年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
診療科別死亡数	2	3	24	10	3	19	76	38	31	1	8	3				4		222
麻酔による死亡数(再掲)																		0
術後1ヶ月以内の死亡数(再掲)	2	1	1		1	5	1		2									13
産婦出生による死亡数(再掲)																		0
生後28日以内の新生児死亡数(再掲)																		0
入院48時間以内死亡数(再掲)			4	1		4	15	7	11		3							45

■手術件数・麻酔件数 【2021年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
手術件数	1,864	178	690	120	163	87	9	7	19	9	215	333	868	144			25	4,731
麻酔件数	1,864	172	684	120	163	86	9	3	18	9	212	327	868	142			25	4,702
全身麻酔件数(再掲)	1,653	82	633	111	127	57	1	1	17	131	157	148	12				21	3,151

■分娩件数・新生児数 【2021年度】

分娩件数	447
帝王切開(再掲)	(94)
新生児数	442
院外出生(再掲)	(5)

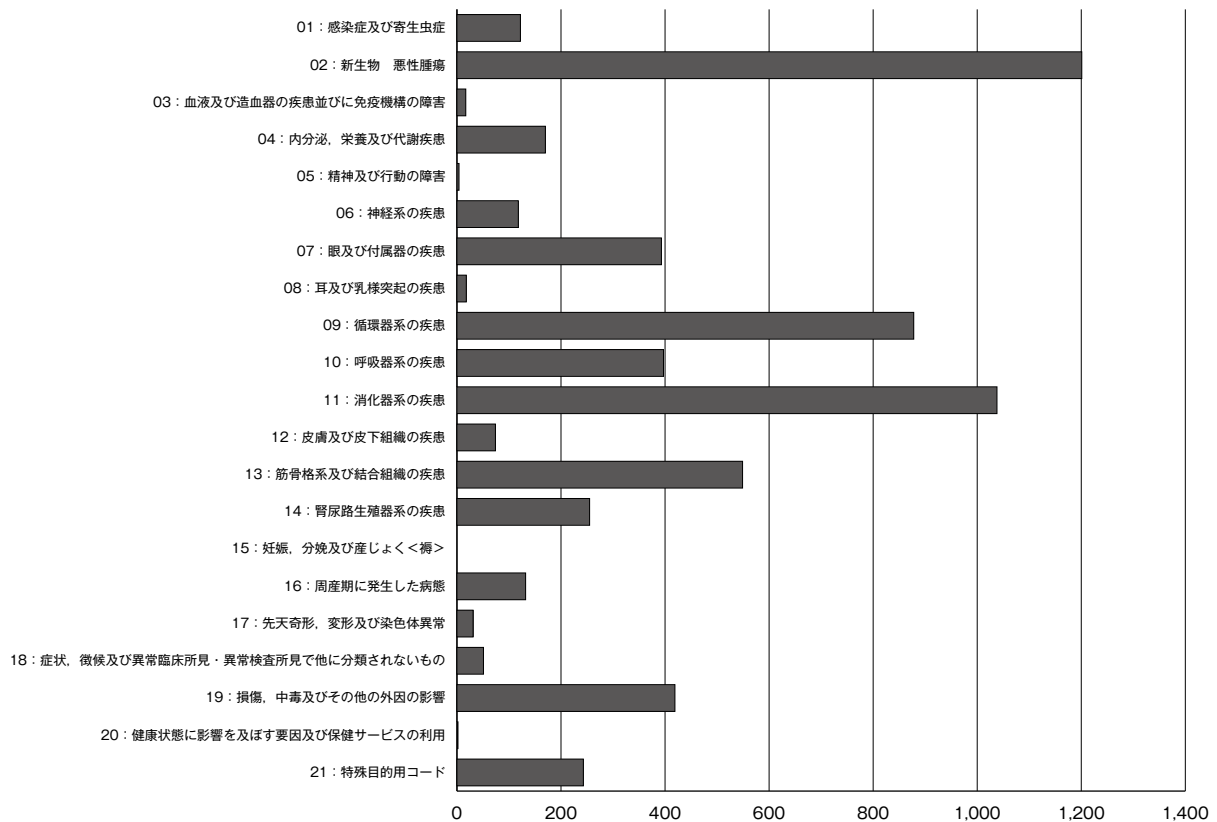
注)分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は()をもって再掲とする。

■退院患者診療科別転帰統計 【2021年度】

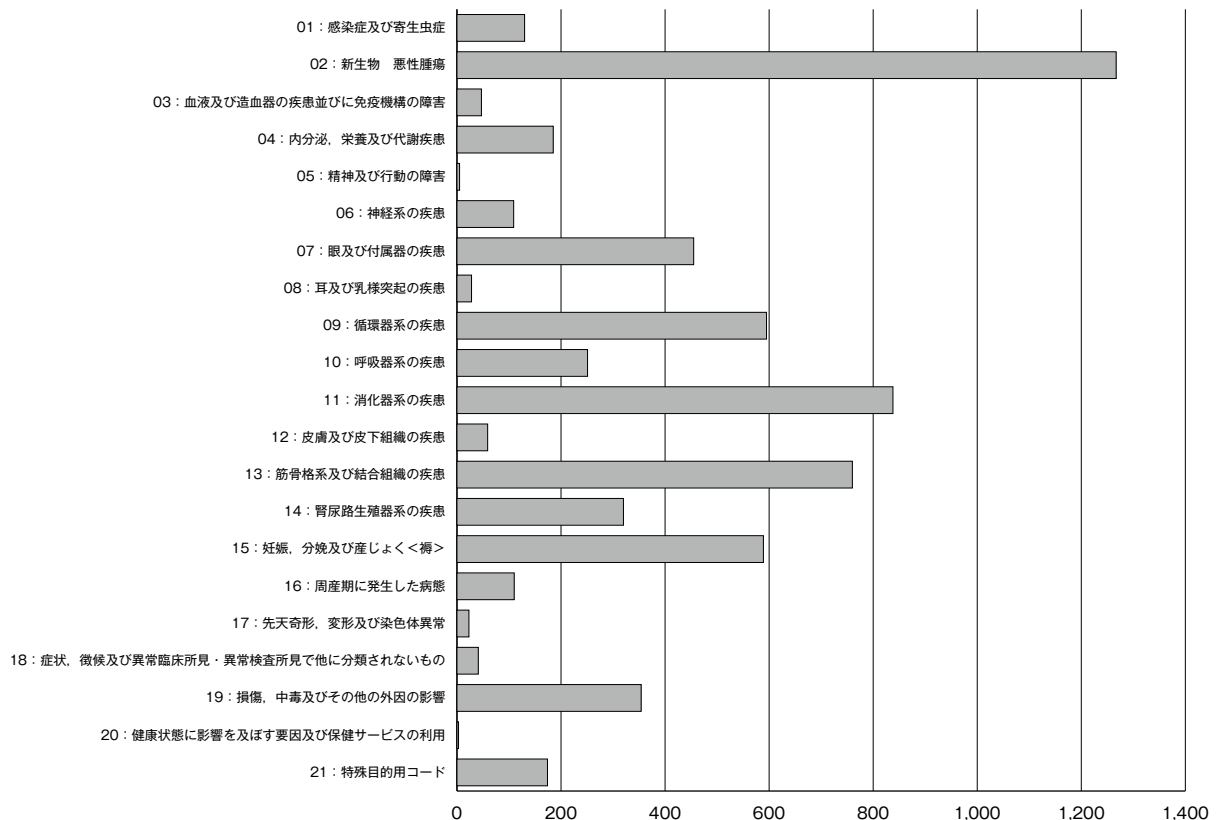
	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
治癒			1				2		1		2						4	10
軽快	1,694	158	1,014	231	111	248	1,027	1,891	793	121	335	556	904	190	654	187	25	10,139
不変	4		43	19	2	1	25	31	13	1	1	15	5	2	5	4		171
増悪							4						1					5
死亡	2	3	24	10	3	19	76	38	31	1	8	3					4	222
(剖検)							(3)	(1)	(1)									(5)
転院	171	6	26	4	13	126	135	45	76	16	11	8	1	2	12	40		692
検了	5		7	1	26	28	144	237	103	4	76	22	12	2	81	5		753
自己退院	1		1			5	3	5	2			1				1		19
分娩												444						444
合計	1,877	167	1,116	265	155	427	1,416	2,247	1,019	143	433	1,049	923	196	752	241	29	12,455

注)死亡欄で剖検数は()をもって再掲とする。

■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(男) 【2021年度】



■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(女) 【2021年度】



■疾病別・年齢階層別・退院患者数(男) 【2021年度】

2021年度 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 9歳	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											122	1,641
A00-A09	腸管感染症		12	2	1		3	1	2	11	6	38	245
A15-A19	結核									3	1	4	18
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	2	3			2	3		7	10	8	35	848
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				1		1	1	1			4	38
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	2	2		1	2	1	3	1	5	4	21	178
B15-B19	ウイルス性肝炎				2	3	1	1	1	4	1	13	233
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	2	1	1								4	23
B35-B49	真菌症									2	1	3	58
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											1,122	13,398
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>								1	2		3	26
C15	食道の悪性新生物					2	3	5	35	23	18	86	1,352
C16	胃の悪性新生物					4	3	14	33	54	33	141	1,627
C17	小腸の悪性新生物							1	2	4		7	91
C18	結腸の悪性新生物				1	7	39	30	40	27		144	1,552
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物				2	27	16	40	30	7		122	1,172
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物								4	1		5	203
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						5	10	29	42	31	117	1,466
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							3	2	7	7	19	329
C25	膵の悪性新生物						7	4	5	19	12	47	563
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							17	34	79	27	157	2,232
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>						2		1	6	2	11	119
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>									1	2	3	63
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>												
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>				1		1	3	28	56	17	106	549
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						2	6	19	30	18	75	751
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>				2	1	1	1				5	250
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>							1		2		3	31
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>						2	2	8	20	10	42	682
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>				1			10	5	5	4	25	300
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>									4		4	40
II -2	新生物(腫瘍)良性											79	577
D10-D36	良性新生物<腫瘍>				1	3	6	8	15	11	3	47	326
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1		2	4	1	9	2	6	7	32	251
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											17	179
D50-D53	栄養性貧血								2	2	2	6	59
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血									1	1	2	29
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		2								1	3	24
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								2	2		4	50
D80-D89	免疫機構の障害					1		1				2	17
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											170	2,118
E00-E07	甲状腺障害						1			1		2	14
E10-E14	糖尿病			1	1	8	11	13	17	30	11	92	1,372
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		3							2	3	8	72
E20-E35	その他の内分泌腺障害		13	7			2	5	4	2	2	35	229
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2021年度 (男)		0歳	1歳 と 9歳	10歳 と 19歳	20歳 と 29歳	30歳 と 39歳	40歳 と 49歳	50歳 と 59歳	60歳 と 69歳	70歳 と 79歳	80歳 と	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害	1	2	3				3	3	11	10	33	431
V 精神及び行動の障害												4	86
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害							1	1	1		3	84
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		1									1	2
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												118	1,083
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患						1	1	1	2		5	106
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					2		1	4	1	1	9	196
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							1		3		4	27
G30-G32	神経系のその他の変性疾患									1	1	2	21
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患					1			1			2	94
G40-G47	挿間性及び発作性障害		3	7	1	2	13	5	4			35	243
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			3	1	6	8	12	8	6		44	192
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				1			1				2	43
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患			1				1	1		1	4	30
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	1					1					2	15
G90-G99	神経系のその他の障害							2	2	2	3	9	116
VII 眼及び付属器の疾患												393	1,665
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害								2	5	3	10	46
H10-H13	結膜の障害										1	1	2
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害								1			1	7
H25-H28	水晶体の障害						8	21	42	121	66	258	588
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害					2	6	9	4	17	4	42	486
H40-H42	緑内障				1	3	4	15	8	14	9	54	340
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					1	3	9	3	6	3	25	168
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害					1				1		2	28
VIII 耳及び乳様突起の疾患												18	110
H60-H62	外耳疾患			1								1	6
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		5	1								7	31
H80-H83	内耳疾患							2		1		3	17
H90-H95	耳のその他の障害						3		2	2		7	56
IX 循環器系の疾患												878	13,219
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								3	1		4	58
I10-I15	高血圧性疾患								1	2		3	57
I20-I25	虚血性心疾患				1	2	14	28	36	52	37	170	1,247
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患					1		1		3		5	59
I30-I52	その他の型の心疾患			1	2	3	11	33	57	91	102	300	3,547
I60-I69	脳血管疾患			3	1	5	9	36	45	92	59	250	5,848
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					1	9	8	24	47	23	112	1,967
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				1		2	3	5	14	7	32	374
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害									2		2	62
X 呼吸器系の疾患												397	5,503
J00-J06	急性上気道感染症		7		2	1	2	2		1		15	77
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	2	17	1		1			8	19	47	95	1,272
J20-J22	その他の急性下気道感染症	28	29		1						1	59	390
J30-J39	上気道のその他の疾患	1	10	3	3	7	9	1	5	6		45	328
J40-J47	慢性下気道疾患	2	19					1	2	3	5	32	368
J60-J70	外的因子による肺疾患			1		1		2	7	21	38	70	1,391
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						1	2	5	7	7	22	645
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態								2	5		7	162
J90-J94	胸膜のその他の疾患			4	4	1	2	4	4	6	8	33	491
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	1		3	2			3	3	3	4	19	379
XI 消化器系の疾患												1,038	7,453
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		3		2		2	1	1	3		12	47
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患		1		2	1	3	8	6	10	10	41	577

2021年度 (男)		0歳	1歳 と 9歳	10歳 と 19歳	20歳 と 29歳	30歳 と 39歳	40歳 と 49歳	50歳 と 59歳	60歳 と 69歳	70歳 と 79歳	80歳 と	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		1	4	11	4	6	8	3	6	1	44	313
K40-K46	ヘルニア				4	1	4	8	11	24	13	65	358
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			4	1	4	4	5	2			20	168
K55	腸の血行障害							2	1	4	4	11	80
K56	腸閉塞	1		1	1	1	2	2	2	17	5	32	391
K57	腸の憩室性疾患				2	5	4	6	9	6	3	35	417
K58-K59	その他の腸の機能障害		1				1	1		1		4	19
K60-K62	肛門及び直腸の疾患					1	2	3	3		3	12	98
K63	結腸のその他の疾患					2	23	75	136	189	71	496	1,261
K64	痔核				1		1	1	2		1	6	21
K65-K67	腹膜の疾患					1	1		1	3	1	7	243
K70-K77	肝疾患					2	15	8	8	10	4	47	875
K80-K87	胆のう<囊>, 胆管及び膵の障害				3	6	14	20	31	51	47	172	2,226
K90-K93	消化器系のその他の疾患			1				5	6	15	7	34	359
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												74	1,305
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	1	2	1	1	4	4	6	6	9	10	44	774
L10-L14	水疱症								1	1		2	34
L20-L30	皮膚炎及び湿疹								1	4		5	113
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑	1	2			1						4	38
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害				1		1	1		1		4	16
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					2		4	4	1	4	15	330
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												549	9,715
M00-M03	感染性関節障害			1	1		1	2		1		6	144
M05-M14	炎症性多発性関節障害				1	1			2	4	5	13	191
M15-M19	関節症			2	1	3	6	16	27	25	17	97	2,251
M20-M25	その他の関節障害		1	16	15	10	13	13	4	5		77	837
M30-M36	全身性結合組織障害	2	4			6				2	1	15	252
M40-M43	変形性脊柱障害						1	2	6	6	4	19	467
M45-M49	脊椎障害					3	7	19	39	50	30	148	3,229
M50-M54	その他の脊柱障害			1	4	13	9	8	6	4	1	46	669
M60-M63	筋障害								2	1		3	97
M65-M68	滑膜及び腱の障害			3	9	4	5	7	8	4	1	41	167
M70-M79	その他の軟部組織障害				2	2	5	11	5	4	1	30	415
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			2	2	2		1	2	1	1	11	99
M86-M90	その他の骨障害			1			2	7	4	5		19	618
M91-M94	軟骨障害			15		2	1			1		19	130
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害			1		2				2		5	149
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												255	3,739
N00-N08	糸球体疾患		7	7	2	5	3	3	7	4	3	41	718
N10-N16	腎尿管間質性疾患			1		4	5	4	7	10	16	47	572
N17-N19	腎不全				1	1	7	9	12	22	25	77	1,517
N20-N23	尿路結石症						5	1	5	13	3	27	205
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害						1			2	3	6	58
N30-N39	尿路系のその他の障害	13	1						2	7	14	37	449
N40-N51	男性生殖器の疾患			1		1	1	3	3	6	3	18	209
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害					1					1	2	11
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												132	1,046
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	16										16	128
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	13										13	161
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	59										59	508

2021年度 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	1										1	6
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	23										23	91
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	17										17	131
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	3										3	21
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												31	182
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1										1	2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		2			1	1					4	14
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		1		5	1	1					8	86
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂	2										2	16
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形	1										1	2
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形								1			1	14
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	4	2	3								9	32
Q80-Q89	その他の先天奇形		4			1						5	16
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												51	357
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候		1					1	1	1		4	99
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		1	2							1	4	27
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候									1	1	2	28
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候									2		2	13
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候												
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	3	24				1			5	4	37	165
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの											1	23
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの		1									1	2
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												419	6,377
S00-S09	頭部損傷	1	2	3		2	5	3	2	11	9	38	673
S10-S19	頸部損傷						1		1	1	2	5	77
S20-S29	胸部<郭>損傷									2	1	3	93
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷						1			3	2	6	162
S40-S49	肩及び上腕の損傷		4	9	5	2	2	16	13	11		62	847
S50-S59	肘及び前腕の損傷		6	11	5	6	3	7	3	1		42	279
S60-S69	手首及び手の損傷			4	6	3	2	1	3			19	52
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					1	1	3	4	3	3	15	599
S80-S89	膝及び下腿の損傷			20	12	19	12	6	4	4	3	80	1,490
S90-S99	足首及び足の損傷			3				1		1		5	68
T00-T07	多部位の損傷			1								1	7
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		3						1	1		5	10
T20-T32	熱傷及び腐食		1						1			2	26
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒											1	6
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	5	4	3		1	2		1	1	1	18	61
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの				1		6	18	27	37	24	113	1,872
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症			3								4	55
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												2	40
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							1	1			2	40
XXII 特殊目的コード												243	2,682
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	3	8	2	14	17	48	46	31	43	31	243	2,682
合計		212	217	158	158	214	432	758	1,098	1,755	1,110	6,112	72,475

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(女)【2021年度】

2021年度 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 9歳	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											130	1,209
A00-A09	腸管感染症		13	2	5	6	3	1	4	2	9	45	272
A15-A19	結核							1			2	3	27
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	1	4					3	1	9	11	29	480
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				1	1	1		1			4	32
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症						2	1	1		2	6	72
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	1	1	1	1		3	3	5	5	3	23	189
B15-B19	ウイルス性肝炎				1		2	1	4		2	10	70
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患		3	1		1						5	31
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんぐ虫症					1			1	1	1	4	22
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症				1							1	14
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											1,066	11,621
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>												
C15	食道の悪性新生物								3	3	13	19	371
C16	胃の悪性新生物					1	2	3	13	28	16	63	595
C17	小腸の悪性新生物							2	6	1	1	10	147
C18	結腸の悪性新生物						5	21	33	51	30	140	1,374
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					4	6	5	24	16	9	64	665
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								2	12	15	29	365
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								4	4	6	14	262
C25	膵の悪性新生物							25	11	18	9	63	650
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							1	17	67	14	99	1,518
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									3	3	6	56
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>							3	8	5		16	116
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					10	51	65	49	40	19	234	2,408
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					9	12	40	49	39	8	157	1,577
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>							3	8	15	11	37	376
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>										1	1	126
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>		1			1		2	1	4		9	92
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>						3	3	5	13	8	32	467
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							3	19	21	2	45	374
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>				5	12	6	1		3	1	28	82
II -2	新生物(腫瘍)良性											201	1,558
D10-D36	良性新生物<腫瘍>		1	2	19	28	44	23	12	17	6	152	1,192
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		3		2	7	5	7	9	9	7	49	366
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											47	305
D50-D53	栄養性貧血				1		1	1	3	5	3	14	83
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								1		3	4	38
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		2			1			7	2	2	14	102
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患							1	1	3		5	26
D80-D89	免疫機構の障害					1		2	2	3	2	10	56
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											185	2,005
E00-E07	甲状腺障害					3	1			1		5	87
E10-E14	糖尿病				1	3	3	10	11	32	25	85	1,244
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害									1	1	2	25
E20-E35	その他の内分泌腺障害		25	12		1	5	3	2	3		51	183
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2021年度（女）		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害	1	4		1		4	1	1	9	21	42	466
V 精神及び行動の障害												5	43
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害									1		1	2
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害					1						1	6
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群			1								1	31
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		2									2	4
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												109	1,131
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患			1				2		1	1	5	135
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症			1						1		2	7
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動									2	2	4	75
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							1		2		3	72
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患				4		1	1		1		7	122
G40-G47	挿間性及び発作性障害			1	1	1	3	1	3	11	8	29	280
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			1	4	1	6	6	8	11	13	50	242
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害							2				3	29
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					1						1	2
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害					1				3	1	5	167
VII 眼及び付属器の疾患												455	1,784
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害			1	1			2	2	8	3	17	86
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害			1				1				2	25
H25-H28	水晶体の障害			1		3	4	22	71	141	80	322	801
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				2	1	2	12	8	13	3	41	438
H40-H42	緑内障			2	1		2	13	9	13	9	49	280
H43-H45	硝子体及び眼球の障害				1	1	1	7	2	8	3	23	142
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害									1		1	12
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												28	103
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	2	4									6	16
H80-H83	内耳疾患					1	3	4	3	5	2	18	55
H90-H95	耳のその他の障害				1		1		1	1		4	32
IX 循環器系の疾患												595	9,760
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									1	2	3	52
I10-I15	高血圧性疾患										1	1	2
I20-I25	虚血性心疾患					2	1	5	16	24	26	74	555
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						1		1	4	4	10	170
I30-I52	その他の型の心疾患			1	3	1	4	10	17	70	157	263	3,900
I60-I69	脳血管疾患				2	4	5	15	13	38	72	149	3,711
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					3	6	5	8	29	21	72	1,146
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの			1		3	1	3	1	6	7	22	213
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害					1						1	11
X 呼吸器系の疾患												251	3,240
J00-J06	急性上気道感染症	1	4	1	2	4	1	1	1		1	16	113
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	5	19	1	1	2		1		7	42	78	828
J20-J22	その他の急性下気道感染症	20	17							1		38	196
J30-J39	上気道のその他の疾患		1	2	4	3	4	6	9	9		38	278
J40-J47	慢性下気道疾患		11				1	1	1	2	2	18	167
J60-J70	外的因子による肺疾患						2		1	9	28	40	892
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患								1	1	3	2	7
J85-J86	下気道の化膿性及び<えく壊>死性病態											1	37
J90-J94	胸膜のその他の疾患			1	1			1	1	3	3	10	207
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患								2	2	1	5	319
XI 消化器系の疾患												838	6,061
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患			3		2	2	3	2	3	2	17	53
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患						2	2	3	22	8	37	413

2021年度（女）		0歳	1歳 と 9歳	10歳 と 19歳	20歳 と 29歳	30歳 と 39歳	40歳 と 49歳	50歳 と 59歳	60歳 と 69歳	70歳 と 79歳	80歳 と	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患			2	11	8	11	6	4	2	3	47	368
K40-K46	ヘルニア						1		3	7	7	18	138
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			2	1	2			7	2		14	170
K55	腸の血行障害					1	1	4	5	9	8	28	334
K56	腸閉塞		1			1	1	9	6	3	9	30	357
K57	腸の憩室性疾患			2	1			5	2	6	7	23	222
K58-K59	その他の腸の機能障害		1							1	3	5	47
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						1	1	1	5	7	15	81
K63	結腸のその他の疾患					5	26	45	60	135	109	380	1,030
K64	痔核							1				1	3
K65-K67	腹膜の疾患					1						1	93
K70-K77	肝疾患				1	1	6	12	5	10	14	49	725
K80-K87	胆のう<囊>, 胆管及び膵の障害			3	7	15	18	16	35	39		133	1,553
K90-K93	消化器系のその他の疾患					1	2	5	2	10	20	40	474
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												59	1,053
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		1			1	2	1	6	4	14	29	516
L10-L14	水疱症										1	1	18
L20-L30	皮膚炎及び湿疹									3		3	28
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		2				1				1	4	47
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害				1		2	2	1			6	32
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害				2	1		1	1	1	10	16	412
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												760	16,787
M00-M03	感染性関節障害									1	3	4	102
M05-M14	炎症性多発性関節障害					2		5	3	9	7	26	529
M15-M19	関節症					1	12	55	109	150	69	396	10,130
M20-M25	その他の関節障害			9	9	8	8	9	15	10		68	1,188
M30-M36	全身性結合組織障害		7					2		3	1	13	324
M40-M43	変形性脊柱障害						2	4	6	13	5	30	662
M45-M49	脊椎障害					1	4	4	14	30	28	81	1,945
M50-M54	その他の脊柱障害			3		1	4	2	4	2	3	19	264
M60-M63	筋障害									1	4	5	62
M65-M68	滑膜及び腱の障害			3	5	3	6	16	9	11	4	57	289
M70-M79	その他の軟部組織障害				1	1	1	3	8	9		23	492
M80-M85	骨の密度及び構造の障害						1			2		3	35
M86-M90	その他の骨障害			2		2	1	5	7	4	2	23	447
M91-M94	軟骨障害			2			1				1	4	33
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								1	2	5	8	285
XIV 腎尿路生殖器系の疾患												320	3,296
N00-N08	糸球体疾患			1		3	8	3	2	6	2	25	290
N10-N16	腎尿細管間質性疾患			1	6	1	3	7	16	12	22	68	815
N17-N19	腎不全						4	3	3	13	19	42	785
N20-N23	尿路結石症							2	7	6	1	16	156
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害			1						1		2	24
N30-N39	尿路系のその他の障害	2			1	2	1		2	13	24	45	630
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害				1	1	1					3	12
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			2	4	7	5	1			5	24	216
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害				9	32	31	18	2	3		95	368
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												589	4,138
O00-O08	流産に終わった妊娠			1	23	44	16					84	242
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害				1	13	3					17	153
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				10	10	2					22	207
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題		1		12	45	9					67	426
O60-O75	分娩の合併症			1	6	26	8					41	415
O80-O84	分娩			1	83	235	38					357	2,690
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症					1						1	5
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												110	971
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	13										13	107
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	14										14	205
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	48										48	443

2021年度（女）		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	2										2	22
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	17										17	79
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	11										11	84
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	2										2	13
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	3										3	18
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												23	193
Q00-Q07	神経系の先天奇形	1										1	2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形			1								1	2
Q20-Q28	循環器系の先天奇形					2	3	1	1			7	98
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形							1				1	30
Q50-Q56	生殖器の先天奇形					1	3					4	15
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形						1			1		2	20
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		4	1		1						6	21
Q80-Q89	その他の先天奇形							1				1	5
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												41	221
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候						1	1		1	4	7	55
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		2	1		1	1	2			2	9	25
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候	1									1	2	9
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候				1						4	5	36
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	3	6	2	1		1		2	1	1	17	86
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの										1	1	10
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												354	6,675
S00-S09	頭部損傷			2	3				1	4	14	24	318
S10-S19	顔部損傷						1			2	3	6	132
S20-S29	胸部＜郭＞損傷							1		2	6	9	249
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷					1				3	13	17	539
S40-S49	肩及び上腕の損傷		4	1		2	1	5	4	6	1	24	364
S50-S59	肘及び前腕の損傷		6	4	3	2	2	6	12	7	11	53	339
S60-S69	手首及び手の損傷			3	1	1		2	1	1	2	11	36
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷						2	2	8	9	32	53	1,625
S80-S89	膝及び下腿の損傷			23	8	4	7	10	5	6	2	65	1,470
S90-S99	足首及び足の損傷			2	1				2	2		7	233
T00-T07	多部位の損傷										1	1	31
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用							2		1		3	9
T20-T32	熱傷及び腐食										1	1	42
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	1	7	1	1	2		1	1	1	2	17	82
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの			1		1	3	2	14	21	19	61	1,184
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症							1		1		2	22
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												3	23
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者							1	1	1		3	23
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード												174	1,884
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類		5	2	13	31	11	23	22	27	40	174	1,884
合計		149	162	109	292	644	489	674	904	1,531	1,389	6,343	74,061

■疾病別・年齢階層別・在院日数(男)【2021年度】

2021年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計	
I 感染症及び寄生虫症													1,641
A00-A09	腸管感染症		57	11	5		13	10	14	83	52	245	
A15-A19	結核									13	5	18	
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	21	16			14	51		218	298	230	848	
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				3		4	16	15			38	
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	10	7		8	14	15	24	8	41	51	178	
B15-B19	ウイルス性肝炎				87	90	2	23	3	18	10	233	
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	11	4	8								23	
B35-B49	真菌症									50	8	58	
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1 新生物(腫瘍)悪性													13,398
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>								8	18		26	
C15	食道の悪性新生物					14	36	129	559	412	202	1,352	
C16	胃の悪性新生物					48	40	138	388	629	384	1,627	
C17	小腸の悪性新生物							16	20	55		91	
C18	結腸の悪性新生物				4	49	296	263	393	547		1,552	
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物				10	197	196	294	365	110		1,172	
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物								201	2		203	
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						83	151	351	466	415	1,466	
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							30	6	154	139	329	
C25	膵の悪性新生物						41	24	36	249	213	563	
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							354	409	1,175	294	2,232	
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>						8		3	31	77	119	
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>									17	46	63	
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>												
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>			8		2	6	184	283	66		549	
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>					120	46	185	233	167		751	
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>			90	56	44	60					250	
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>						8			23		31	
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>						15	27	195	275	170	682	
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>			6				36	10	172	76	300	
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>									40		40	
II -2 新生物(腫瘍)良性													577
D10-D36	良性新生物<腫瘍>				4	21	53	104	63	68	13	326	
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		2		8	11	3	75	18	50	84	251	
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害													179
D50-D53	栄養性貧血								5	22	32	59	
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血									10	19	29	
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		15								9	24	
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患								20	30		50	
D80-D89	免疫機構の障害					2		15				17	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患													2,118
E00-E07	甲状腺障害						6			8		14	
E10-E14	糖尿病			15	20	114	136	184	309	419	175	1,372	
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		11							24	37	72	
E20-E35	その他の内分泌腺障害		36	22			15	19	53	6	78	229	
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2021年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>											
E70-E90	代謝障害	2	5	12				29	23	230	130	431
V 精神及び行動の障害												86
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害											
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害							2	67	15		84
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害											
F30-F39	気分[感情]障害											
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害											
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群											
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害<精神遅滞>											
F80-F89	心理的発達障害		2									2
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI 神経系の疾患												1,083
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患						16	8	38	44		106
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					4		21	113	41	17	196
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動							4		23		27
G30-G32	神経系のその他の変性疾患									6	15	21
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患					14			80			94
G40-G47	挿間性及び発作性障害		6		47	4	7	80	48	51		243
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害				12	2	46	41	56	21	14	192
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				12			31				43
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患			2				14	5		9	30
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	1					14					15
G90-G99	神経系のその他の障害							35	25	10	46	116
VII 眼及び付属器の疾患												1,665
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害								10	26	10	46
H10-H13	結膜の障害										2	2
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害								7			7
H25-H28	水晶体の障害						19	39	87	289	154	588
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害					78	72	105	30	158	43	486
H40-H42	緑内障				6	18	13	79	47	102	75	340
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					8	15	48	26	44	27	168
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害											
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害											
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>											
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害					2				26		28
VIII 耳及び乳様突起の疾患												110
H60-H62	外耳疾患			6								6
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		15	8						8		31
H80-H83	内耳疾患							3		14		17
H90-H95	耳のその他の障害						24		16	16		56
IX 循環器系の疾患												13,219
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								37	21		58
I10-I15	高血圧性疾患								21	36		57
I20-I25	虚血性心疾患				3	27	134	221	221	415	226	1,247
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患					8		4		47		59
I30-I52	その他の型の心疾患			3	17	19	130	295	641	1,075	1,367	3,547
I60-I69	脳血管疾患			24	39	91	164	731	959	2,010	1,830	5,848
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					27	151	92	393	913	391	1,967
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				28		18	65	53	145	65	374
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害									62		62
X 呼吸器系の疾患												5,503
J00-J06	急性上気道感染症		32		17	3	8	12		5		77
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	13	126	10		9			86	299	729	1,272
J20-J22	その他の急性下気道感染症	166	177		12						35	390
J30-J39	上気道のその他の疾患	16	69	18	22	56	58	5	36	48		328
J40-J47	慢性下気道疾患	12	123					13	64	47	109	368
J60-J70	外的因子による肺疾患			9		10		25	198	417	732	1,391
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患						5	12	304	151	173	645
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態								58	104		162
J90-J94	胸膜のその他の疾患			37	36	9	32	59	34	120	164	491
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	2		36	21			93	174	22	31	379
XI 消化器系の疾患												7,453
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		14		6		6	3	3	15		47
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患		2		24	10	17	85	59	158	222	577

2021年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合計
K35-K38	虫垂の疾患		4	23	56	24	50	57	20	62	17	313
K40-K46	ヘルニア				16	6	14	42	62	147	71	358
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			56	24	13	47	8	20			168
K55	腸の血行障害							21	8	26	25	80
K56	腸閉塞	3		9	3	3	15	17	16	255	70	391
K57	腸の腔室性疾患				14	73	28	65	152	67	18	417
K58-K59	その他の腸の機能障害		6				3	5		5		19
K60-K62	肛門及び直腸の疾患					9	4	47	10		28	98
K63	結腸のその他の疾患					4	47	173	363	475	199	1,261
K64	痔核				3		2	2	12		2	21
K65-K67	腹膜の疾患					7	9		15	55	157	243
K70-K77	肝疾患					49	212	153	176	201	84	875
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害				35	58	91	428	257	695	662	2,226
K90-K93	消化器系のその他の疾患				11			44	67	195	42	359
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												1,305
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	5	12	5	14	58	41	127	127	237	148	774
L10-L14	水疱症								26	8		34
L20-L30	皮膚炎及び湿疹								10	103		113
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害											
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑	2	11			25						38
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害											
L60-L75	皮膚付属器の障害				4		4	4		4		16
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					38		69	105	12	106	330
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												9,715
M00-M03	感染性関節障害			6	32		6	65		35		144
M05-M14	炎症性多発性関節障害				9	5			32	71	74	191
M15-M19	関節症			17	5	42	59	351	700	671	406	2,251
M20-M25	その他の関節障害		2	200	168	133	151	131	19	33		837
M30-M36	全身性結合組織障害	16	40			15				132	49	252
M40-M43	変形性脊柱障害						20	38	146	131	132	467
M45-M49	脊椎障害					56	109	352	851	1,220	641	3,229
M50-M54	その他の脊柱障害			11	34	210	146	117	90	56	5	669
M60-M63	筋障害								95	2		97
M65-M68	滑膜及び腱の障害			9	32	18	19	25	28	16	20	167
M70-M79	その他の軟部組織障害				9	9	33	147	86	89	42	415
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			8	11	10		4	13	6	47	99
M86-M90	その他の骨障害			22			38	212	95	251		618
M91-M94	軟骨障害			83		34	9			4		130
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害			3			26			120		149
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,739
N00-N08	糸球体疾患		293	217	15	24	9	10	64	57	29	718
N10-N16	腎尿細管間質性疾患			1		12	34	21	142	149	213	572
N17-N19	腎不全				5	4	163	133	236	538	438	1,517
N20-N23	尿路結石症						19	2	38	107	39	205
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害						4			8	46	58
N30-N39	尿路系のその他の障害	179	7						4	53	206	449
N40-N51	男性生殖器の疾患			3		7	4	75	21	38	61	209
N60-N64	乳房の障害											
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患											
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害											
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害						3				8	11
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												
O00-O08	流産に終わった妊娠											
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害											
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害											
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題											
O60-O75	分娩の合併症											
O80-O84	分娩											
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症											
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの											
XVI 周産期に発生した病態												1,046
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	128										128
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	161										161
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	508										508

2021年度 在院日数 (男)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計
P35-P39	周産期に特異的な感染症	6										6
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	91										91
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	131										131
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態											
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	21										21
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												182
Q00-Q07	神経系の先天奇形	2										2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		8			3	3					14
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		2		67	11	6					86
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂	16										16
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形	2										2
Q50-Q56	生殖器の先天奇形											
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形								14			14
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	18	2	12								32
Q80-Q89	その他の先天奇形		8			8						16
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												357
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候		2					8	76	13		99
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		3	10							14	27
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候											
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候									8	20	28
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候									13		13
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候											
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候											
R50-R69	全身症状及び徴候	19	85				2			40	19	165
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの										23	23
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの		2									2
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												6,377
S00-S09	頭部損傷	4	4	8		7	45	32	42	163	368	673
S10-S19	頸部損傷						4		20	22	31	77
S20-S29	胸部<郭>損傷									57	36	93
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷						10			130	22	162
S40-S49	肩及び上腕の損傷		13	34	23	9	29	224	242	273		847
S50-S59	肘及び前腕の損傷		17	50	29	42	42	75	14	10		279
S60-S69	手首及び手の損傷			12	17	10	5	2	6			52
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					20	34	212	113	94	126	599
S80-S89	膝及び下腿の損傷			382	210	376	230	89	35	81	87	1,490
S90-S99	足首及び足の損傷			15				45		8		68
T00-T07	多部位の損傷			7								7
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用		5						2	3		10
T20-T32	熱傷及び腐食		9						17			26
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒										6	6
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	9	10	8		2	23		2	5	2	61
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの				2		49	211	532	527	551	1,872
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症			32							23	55
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												40
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者											
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							36	4			40
XXII 特殊目的コード												2,682
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	22	56	9	105	129	420	424	374	694	449	2,682
合 計		1,597	1,320	1,473	1,494	2,360	4,211	8,536	13,456	21,841	16,187	72,475

■疾病別・年齢階層別・在院日数(女)【2021年度】

2021年度 在院日数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計	
I 感染症及び寄生虫症													1,209
A00-A09	腸管感染症		42	10	28	32	11	5	30	7	107	272	
A15-A19	結核							15			12	27	
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患	10	18					31	11	208	202	480	
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症				1	6	16		9			32	
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症						26	15	16		15	72	
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	3	4	8	7		20	23	40	38	46	189	
B15-B19	ウイルス性肝炎				7		10	9	24		20	70	
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患		16	8		7						31	
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんぐも虫症					2			2	5	13	22	
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症				14							14	
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1 新生物(腫瘍)悪性													11,621
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>												
C15	食道の悪性新生物								79	34	258	371	
C16	胃の悪性新生物					7	21	28	111	285	143	595	
C17	小腸の悪性新生物							37	67	8	35	147	
C18	結腸の悪性新生物						29	193	193	542	417	1,374	
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					26	68	44	215	177	135	665	
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								27	163	175	365	
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								80	58	124	262	
C25	膵の悪性新生物							147	114	246	143	650	
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							17	234	1,080	187	1,518	
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									18	38	56	
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>							15	52	49		116	
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					53	505	500	489	489	372	2,408	
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					114	92	470	353	482	66	1,577	
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>							23	69	135	149	376	
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>										126	126	
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>		8			11		26	7	40		92	
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>						8	42	39	262	116	467	
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							9	181	163	21	374	
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>				15	36	18	3		8	2	82	
II -2 新生物(腫瘍)良性													1,558
D10-D36	良性新生物<腫瘍>		4	11	112	171	325	204	84	242	39	1,192	
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		7		11	65	36	38	65	57	87	366	
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害													305
D50-D53	栄養性貧血				6		2	6	9	39	21	83	
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血								13		25	38	
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		17			8			14	29	34	102	
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患							5	6	15		26	
D80-D89	免疫機構の障害					2		4	4	42	4	56	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患													2,005
E00-E07	甲状腺障害					38	23			26		87	
E10-E14	糖尿病				14	39	40	116	152	508	375	1,244	
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害									23	2	25	
E20-E35	その他の内分泌腺障害		62	31		3	19	18	19	31		183	
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2021年度 在院日数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>											
E70-E90	代謝障害	3	15		8		45	8	7	97	283	466
V 精神及び行動の障害												43
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害											
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害											
F20-F29	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害									2		2
F30-F39	気分[感情]障害											
F40-F48	神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害					6						6
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群			31								31
F60-F69	成人の人格及び行動の障害											
F70-F79	知的障害<精神遅滞>											
F80-F89	心理的発達障害		4									4
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害											
F99	詳細不明の精神障害											
VI 神経系の疾患												1,131
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患			6				28		16	85	135
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症			2						5		7
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動									37	38	75
G30-G32	神経系のその他の変性疾患							62		10		72
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患				54		12	27		29		122
G40-G47	挿間性及び発作性障害			2	2	2	18	2	7	158	89	280
G50-G59	神経, 神経根及び神経そう<叢>の障害			3	26	8	12	77	19	34	63	242
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害							18			11	29
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					2						2
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群											
G90-G99	神経系のその他の障害					15				24	128	167
VII 眼及び付属器の疾患												1,784
H00-H06	眼瞼, 涙器及び眼窩の障害			2	2			6	12	34	30	86
H10-H13	結膜の障害											
H15-H22	強膜, 角膜, 虹彩及び毛様体の障害				9			16				25
H25-H28	水晶体の障害			1		9	6	53	162	345	225	801
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害				20	11	19	125	79	127	57	438
H40-H42	緑内障			10	3		9	95	41	71	51	280
H43-H45	硝子体及び眼球の障害				10	5	5	49	10	46	17	142
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害									12		12
H49-H52	眼筋, 眼球運動, 調節及び屈折の障害											
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>											
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害											
VIII 耳及び乳様突起の疾患												103
H60-H62	外耳疾患											
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	6	10									16
H80-H83	内耳疾患					1	11	15	8	14	6	55
H90-H95	耳のその他の障害				8		8		9	7		32
IX 循環器系の疾患												9,760
I00-I02	急性リウマチ熱											
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									4	48	52
I10-I15	高血圧性疾患											2
I20-I25	虚血性心疾患					9	3	23	115	165	240	555
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						4		23	37	106	170
I30-I52	その他の型の心疾患			8	9	24	25	62	192	931	2,649	3,900
I60-I69	脳血管疾患				15	63	93	208	281	843	2,208	3,711
I70-I79	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患					62	37	110	94	514	329	1,146
I80-I89	静脈, リンパ管及びリンパ節の疾患, 他に分類されないもの			3		19	9	26	4	39	113	213
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害					11						11
X 呼吸器系の疾患												3,240
J00-J06	急性上気道感染症	5	15	8	13	34	8	8	14		8	113
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	27	111	4	11	12		8		80	575	828
J20-J22	その他の急性下気道感染症	105	83						8			196
J30-J39	上気道のその他の疾患		8	16	32	24	27	44	65	62		278
J40-J47	慢性下気道疾患		80				3	5	20	21	38	167
J60-J70	外的因子による肺疾患						61		23	175	633	892
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							19	16	33	135	203
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態											37
J90-J94	胸膜のその他の疾患				9	14		9	42	92	41	207
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患								225	68	26	319
XI 消化器系の疾患												6,061
K00-K14	口腔, 唾液腺及び顎の疾患			8		6	6	9	7	13	4	53
K20-K31	食道, 胃及び十二指腸の疾患						15	36	77	207	78	413

2021年度 在院日数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 ?	合 計
K35-K38	虫垂の疾患			9	59	50	90	64	29	29	38	368
K40-K46	ヘルニア						3		15	39	81	138
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎				73	13	5		73	6		170
K55	腸の血行障害					4	7	22	46	171	84	334
K56	腸閉塞		6			19	2	70	45	37	178	357
K57	腸の憩室性疾患				13	6		47	16	50	90	222
K58-K59	その他の腸の機能障害		2							16	29	47
K60-K62	肛門及び直腸の疾患						3	2	2	37	37	81
K63	結腸のその他の疾患					11	75	100	152	360	332	1,030
K64	痔核							3				3
K65-K67	腹膜の疾患					93						93
K70-K77	肝疾患				51	40	74	173	37	126	224	725
K80-K87	胆のう<囊>, 胆管及び膵の障害				31	54	144	118	175	384	647	1,553
K90-K93	消化器系のその他の疾患					7	17	80	29	91	250	474
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												1,053
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		3			3	10	14	76	126	284	516
L10-L14	水疱症										18	18
L20-L30	皮膚炎及び湿疹									28		28
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害											
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		7				16				24	47
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害											
L60-L75	皮膚付属器の障害				4		8	6	14			32
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害				26	23		28	3	41	291	412
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												16,787
M00-M03	感染性関節障害									40	62	102
M05-M14	炎症性多発性関節障害					10		69	55	174	221	529
M15-M19	関節症					29	320	1,437	2,764	3,846	1,734	10,130
M20-M25	その他の関節障害			211	149	126	111	161	214	216		1,188
M30-M36	全身性結合組織障害		64					94		87	79	324
M40-M43	変形性脊柱障害						35	89	114	314	110	662
M45-M49	脊椎障害					23	91	76	319	753	683	1,945
M50-M54	その他の脊柱障害			23		13	66	29	61	35	37	264
M60-M63	筋障害									5	57	62
M65-M68	滑膜及び腱の障害			9	15	9	18	86	45	67	40	289
M70-M79	その他の軟部組織障害				14	4	6	59	157	252		492
M80-M85	骨の密度及び構造の障害						3			32		35
M86-M90	その他の骨障害			16		27	20	83	161	105	35	447
M91-M94	軟骨障害			10			10				13	33
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害								3	108	174	285
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,296
N00-N08	糸球体疾患			4		21	79	76	30	26	54	290
N10-N16	腎尿細管間質性疾患			52	29	8	31	53	146	153	343	815
N17-N19	腎不全						93	32	54	234	372	785
N20-N23	尿路結石症							16	48	65	27	156
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害			9						15		24
N30-N39	尿路系のその他の障害	18			4	7	6		56	170	369	630
N40-N51	男性生殖器の疾患											
N60-N64	乳房の障害				5	5	2					12
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			17	22	52	26	1			98	216
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害				37	135	124	60	4	8		368
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害											
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												4,138
O00-O08	流産に終わった妊娠			2	69	126	45					242
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害				10	108	35					153
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				92	97	18					207
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題		2		77	290	57					426
O60-O75	分娩の合併症			13	62	280	60					415
O80-O84	分娩			7	600	1,773	310					2,690
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症					5						5
O94-O99	その他の産科的病態, 他に分類されないもの											
XVI 周産期に発生した病態												971
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	107										107
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	205										205
P10-P15	出産外傷											
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	443										443

2021年度 在院日数 (女)		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 89歳	合 計
P35-P39	周産期に特異的な感染症	22										22
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	79										79
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	84										84
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害											
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	13										13
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	18										18
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												193
Q00-Q07	神経系の先天奇形	2										2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形			2								2
Q20-Q28	循環器系の先天奇形					8	18	2	70			98
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形											
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂											
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形							30				30
Q50-Q56	生殖器の先天奇形					3	12					15
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形						6			14		20
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		14	4		3						21
Q80-Q89	その他の先天奇形							5				5
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの											
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												221
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候						7	6		2	40	55
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		6	3		2	2	6			6	25
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候	7									2	9
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候											
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候											
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候				5						31	36
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候											
R50-R69	全身症状及び徴候	13	18	13	2		6		28	4	2	86
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの										10	10
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの											
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの											
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡											
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												6,675
S00-S09	頭部損傷			5	11				4	41	257	318
S10-S19	頸部損傷						15			48	69	132
S20-S29	胸部<郭>損傷							12		107	130	249
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷					2				152	385	539
S40-S49	肩及び上腕の損傷		13	3		17	4	70	99	147	11	364
S50-S59	肘及び前腕の損傷		14	16	7	5	4	24	55	50	164	339
S60-S69	手首及び手の損傷			8	6	2		10	2	3	5	36
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷						88	44	259	269	965	1,625
S80-S89	膝及び下腿の損傷			499	146	101	157	266	116	131	54	1,470
S90-S99	足首及び足の損傷			14	10				133	76		233
T00-T07	多部位の損傷										31	31
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷											
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用							7		2		9
T20-T32	熱傷及び腐食										42	42
T33-T35	凍傷											
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒											
T51-T65	薬用を主としでない物質の毒作用											
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	3	29	2	2	4		25	2	2	13	82
T79	外傷の早期合併症											
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの			4		2	60	16	358	389	355	1,184
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症							2		20		22
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												23
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者											
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者											
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者							2	10	11		23
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者											
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者											
XXII 特殊目的コード												1,884
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類		31	11	63	265	84	215	224	484	507	1,884
合 計		1,173	713	1,138	2,140	4,842	4,188	7,081	10,671	20,059	22,056	74,061

■疾病別・年齢階層別・死亡退院患者数【2021年度】

2021年度（死亡）		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 9歳	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症									1		10	90
A00-A09	腸管感染症									1		1	3
A15-A19	結核										1	1	2
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患								1	2	4	7	73
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症												
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症												
B15-B19	ウイルス性肝炎										1	1	12
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患												
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											70	1,653
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>												
C15	食道の悪性新生物								2		2	4	30
C16	胃の悪性新生物								5	4	2	11	161
C17	小腸の悪性新生物												
C18	結腸の悪性新生物							1	2	4	1	8	158
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物								2	1		3	52
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物								1			1	172
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物					2	1	2	2			7	150
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物									1		1	31
C25	膵の悪性新生物									2		2	14
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							4	1	5	3	13	290
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>												
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>										1	1	11
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>				1	1	2			3	2	9	246
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>								1	1	1	3	62
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>					1		1		1		3	133
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>												
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>												
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>								1	1	1	3	123
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>										1	1	20
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>												
II -2	新生物(腫瘍)良性											1	11
D10-D36	良性新生物<腫瘍>												
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>										1	1	11
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											1	1
D50-D53	栄養性貧血												
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血												
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態									1		1	1
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患												
D80-D89	免疫機構の障害												
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											3	109
E00-E07	甲状腺障害												
E10-E14	糖尿病												
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害										1	1	23
E20-E35	その他の内分泌腺障害												
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2021年度（死亡）		0歳	1歳 と 9歳	10歳 と 19歳	20歳 と 29歳	30歳 と 39歳	40歳 と 49歳	50歳 と 59歳	60歳 と 69歳	70歳 と 79歳	80歳 と	合 計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害									1	1	2	86
V 精神及び行動の障害													
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												1	1
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患												
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症												
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動												
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害												
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害												
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害												
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患												
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害										1	1	1
VII 眼及び付属器の疾患													
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害												
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害												
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害												
H40-H42	緑内障												
H43-H45	硝子体及び眼球の障害												
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患													
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患												
H80-H83	内耳疾患												
H90-H95	耳のその他の障害												
IX 循環器系の疾患												46	1,156
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性疾患												
I20-I25	虚血性心疾患						1				2	3	14
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患												
I30-I52	その他の型の心疾患							1		6	11	18	246
I60-I69	脳血管疾患					1		1	1	6	13	22	784
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患									1	2	3	112
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの												
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
X 呼吸器系の疾患												37	748
J00-J06	急性上気道感染症												
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎							1		2	9	12	131
J20-J22	その他の急性下気道感染症												
J30-J39	上気道のその他の疾患												
J40-J47	慢性下気道疾患												
J60-J70	外的因子による肺疾患								1	3	8	12	194
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患								1	2	3	6	183
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態												
J90-J94	胸膜のその他の疾患									2	1	3	152
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患								2		2	4	88
XI 消化器系の疾患												17	464
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患												
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患												

2021年度（死亡）		0歳	1歳 と 9歳	10歳 と 19歳	20歳 と 29歳	30歳 と 39歳	40歳 と 49歳	50歳 と 59歳	60歳 と 69歳	70歳 と 79歳	80歳 と	合 計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患												
K40-K46	ヘルニア												
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎												
K55	腸の血行障害									1	1	2	13
K56	腸閉塞								1			1	3
K57	腸の憩室性疾患												
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患												
K63	結腸のその他の疾患												
K64	痔核												
K65-K67	腹膜の疾患									1		1	15
K70-K77	肝疾患						1		2	2	3	8	298
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害							1		1	2	4	98
K90-K93	消化器系のその他の疾患										1	1	37
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												3	137
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症									2		2	120
L10-L14	水疱症												
L20-L30	皮膚炎及び湿疹												
L40-L45	丘疹落せつ<屑><くりんせつ><鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻>疹及び紅斑												
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害												
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害							1				1	17
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												5	116
M00-M03	感染性関節障害												
M05-M14	炎症性多発性関節障害												
M15-M19	関節症												
M20-M25	その他の関節障害												
M30-M36	全身性結合組織障害												
M40-M43	変形性脊柱障害												
M45-M49	脊椎障害							1		1	1	3	41
M50-M54	その他の脊柱障害												
M60-M63	筋障害									1		1	2
M65-M68	滑膜及び腱の障害												
M70-M79	その他の軟部組織障害									1		1	73
M80-M85	骨の密度及び構造の障害												
M86-M90	その他の骨障害												
M91-M94	軟骨障害												
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害												
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												8	120
N00-N08	糸球体疾患										1	1	42
N10-N16	腎尿細管間質性疾患										1	1	2
N17-N19	腎不全						1			3		4	56
N20-N23	尿路結石症												
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									1		1	1
N30-N39	尿路系のその他の障害										1	1	19
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態													
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児												
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害												
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害												

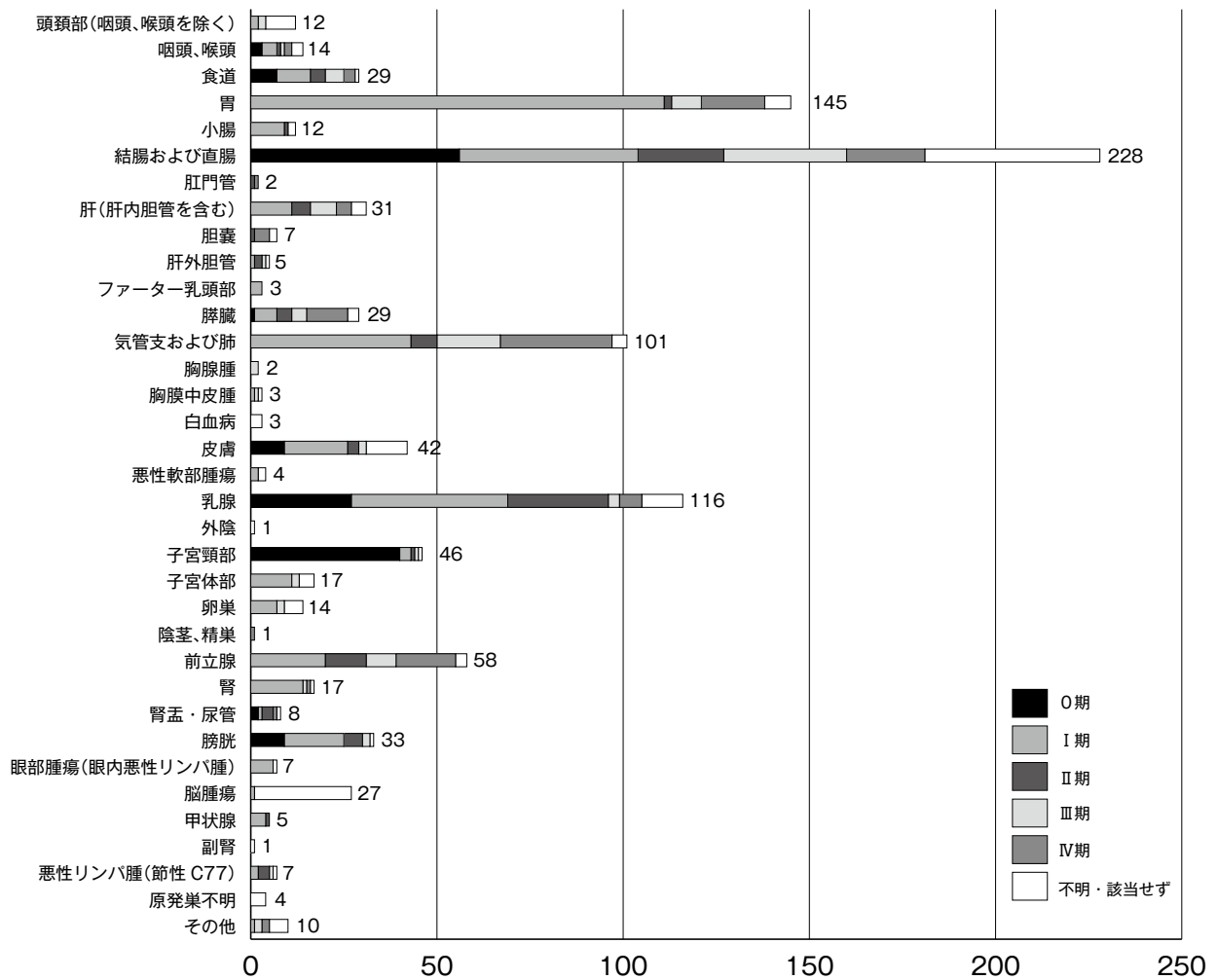
2021年度（死亡）		0歳	1歳 9歳	10歳 19歳	20歳 29歳	30歳 39歳	40歳 49歳	50歳 59歳	60歳 69歳	70歳 79歳	80歳 99歳	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害												
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害												
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害												
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常													
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形												
Q20-Q28	循環器系の先天奇形												
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形												
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形												
Q80-Q89	その他の先天奇形												
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												2	4
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候												
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候									1		1	2
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候									1		1	2
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候												
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												1	11
S00-S09	頭部損傷										1	1	11
S10-S19	頸部損傷												
S20-S29	胸部＜郭＞損傷												
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷												
S40-S49	肩及び上腕の損傷												
S50-S59	肘及び前腕の損傷												
S60-S69	手首及び手の損傷												
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷												
S80-S89	膝及び下腿の損傷												
S90-S99	足首及び足の損傷												
T00-T07	多部位の損傷												
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用												
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用												
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの												
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健													
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード												17	262
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類									1	16	17	262
合計						2	7	15	26	66	106	222	4,883

■がん登録 【2020年】

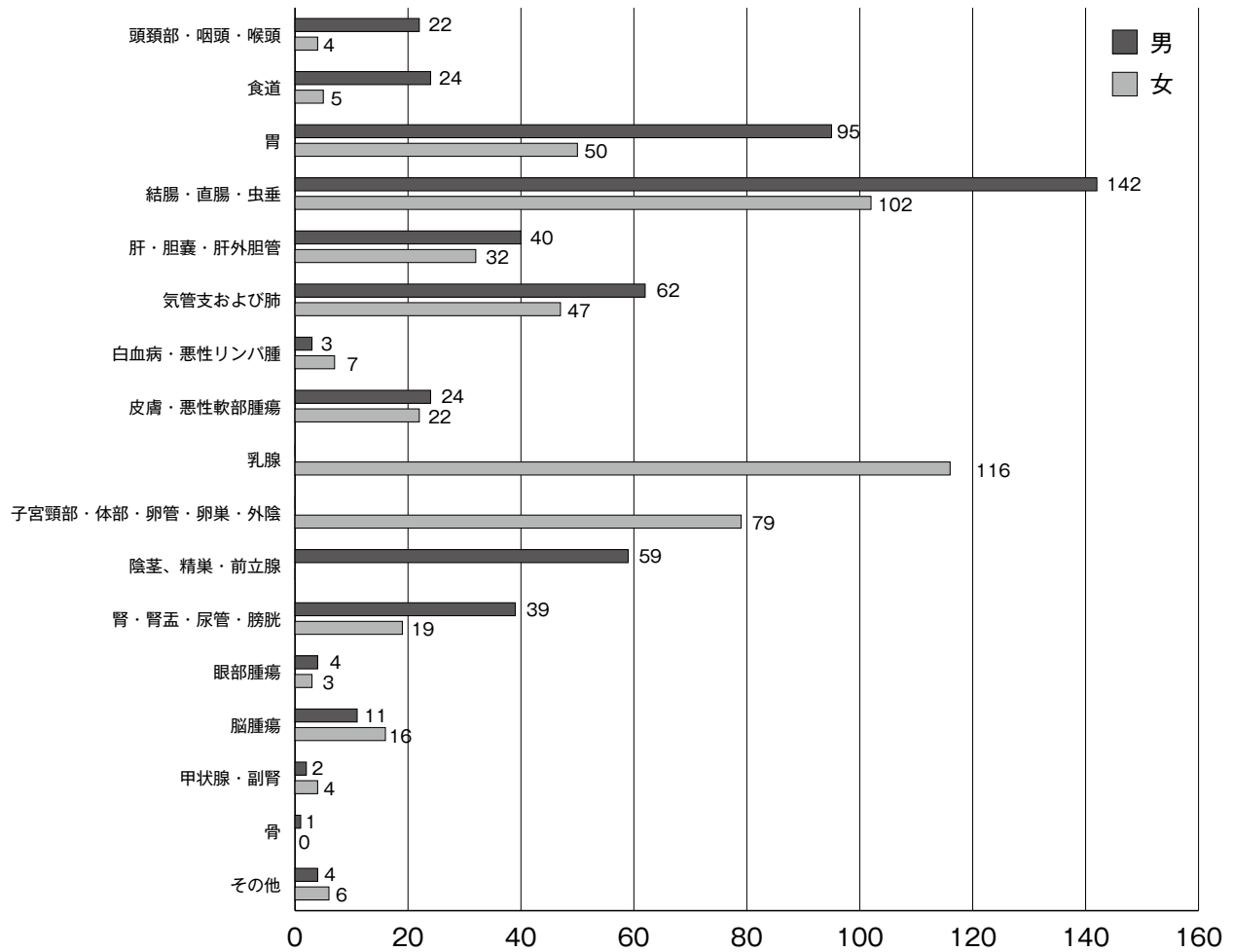
診断年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
提出件数	687	739	774	870	954	923	1,043	1,044

2020年診断	1位	2位	3位	4位	5位
全体	結腸および直腸	胃	乳 腺	気管支および肺	前立腺
男 性	胃	結腸および直腸	気管支および肺	前立腺	膀 胱
女 性	乳 腺	結腸および直腸	胃	気管支および肺	子宮体部

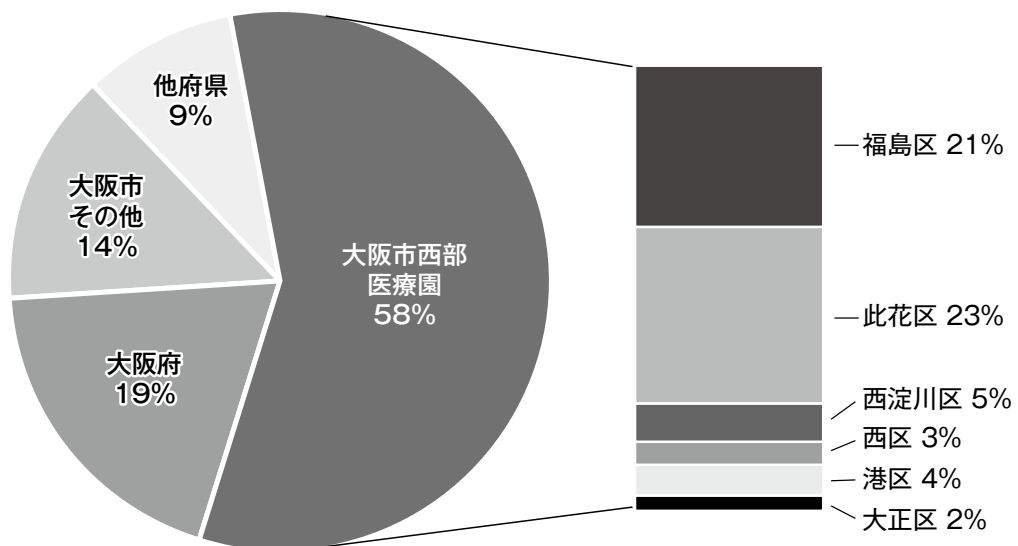
■がん登録 2020年診断 部位別ステージ別



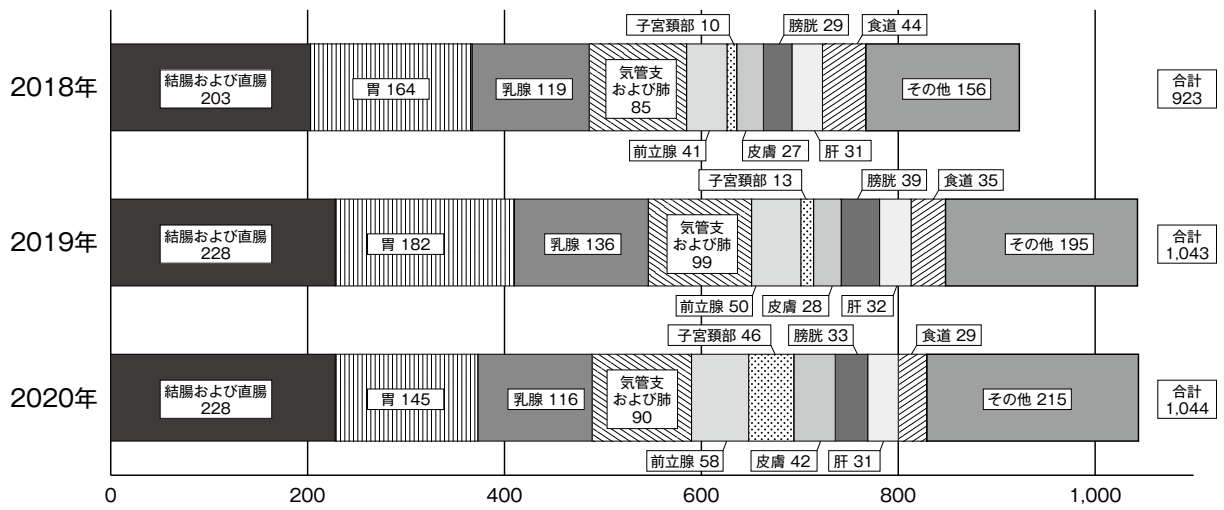
■がん登録 2020年診断 部位別 男女別



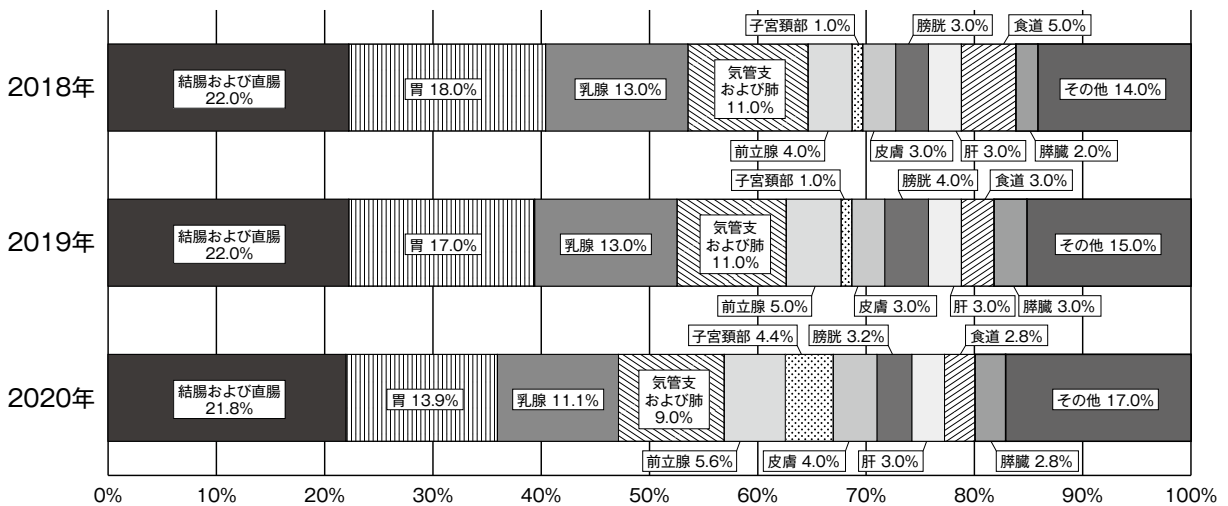
■がん登録患者 地域別 2020年



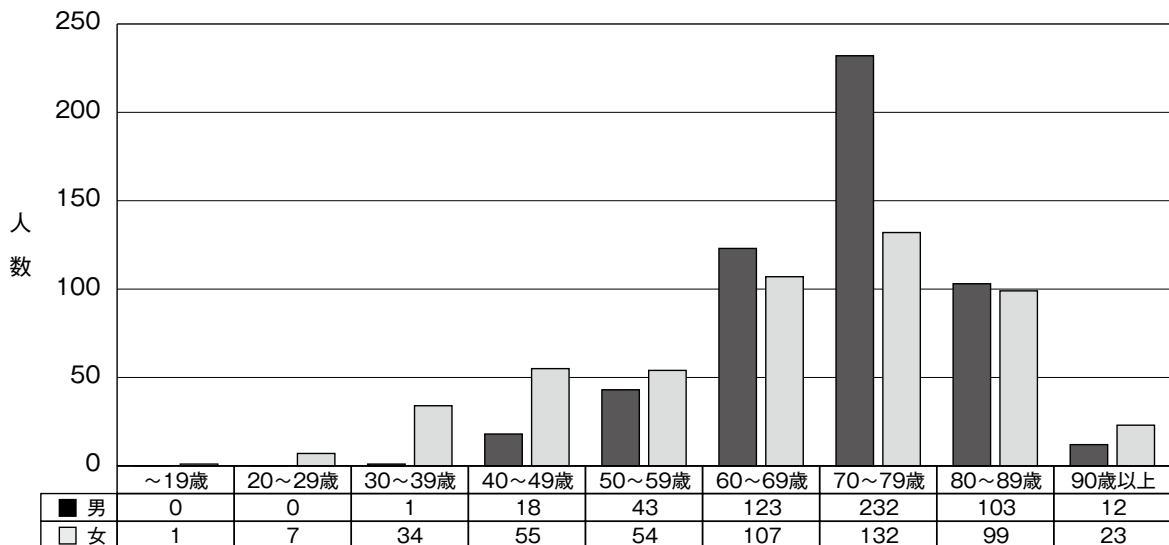
■2018～2020年経年変化(実数)



■2018～2020年経年変化(割合)



■2020年症例 年齢別 男女別





部門概要



◆スタッフ欄は、令和4年3月1日現在の配置を記す。

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田幸造、（院長補佐・主任部長）中田活也、◎西川昌孝、◎坂浦博伸、◎中谷宏幸、◎北圭介、◎轉法輪光、池上大督、西本竜史、岡本恭典、草野雅司、金山完哲、中矢亮太、山田修太郎、三好祐史、藏谷幸祐、秋森太郎、田中雄大、清本誠貴

◆概要

整形外科は最新かつ高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。具体的には、脊椎外科センター、人工関節センター、リウマチセンター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センターの5部門に分かれている。島田副院長の下、大阪大学整形外科の主要関連病院として19名の整形外科医を擁し、個々の専門領域に応じて各センターに所属し診療に従事している。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も多く、日本整形外科学会専門医16名が3名の後期研修（整形外科専攻）医を指導する教育体制も完備している。特に専攻医の手術技術向上にも積極的に取り組むべく教育システムを改善してきた。診療、研究、教育を3つの柱として医療に貢献するのが当整形外科のポリシーである。

◆実績

2021年度の整形外科の新規来院患者数は2,506名であった。手術件数は2,019件で、2020年度よりも150件以上増加していた。COVID-19により通常診療には復帰できていないが、2年半以上に亘るコロナ禍中においても手術症例数を伸ばすことができたのは、近隣医療機関の先生方からのご紹介に加えて、院内感染対策を怠りなく実施し、未だ大規模なクラスターが発生していないことが大きな理由ではないかと考えている。

臨床研究の業績としては、7編の英語論文を含む20編の論文・著書、20回の講演を含む47回の国内外学会発表を行った。各部門長は国内外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面でも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院の初期研修医から整形外科専攻医への志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大阪大学を始め多くの基幹病院で習練した後、当院の中堅スタッフとして整形外科の活力を高めるといふ好循環が実現しつつある。若手医師の育成により整形外科の底上げと更なる発展に一役を担える診療科を目指してゆく。

昭和27年の旧大阪厚生年金病院開設当初から当整形外科は存在しており70年の歴史がある。整形外科診療の「最後の砦」としてのブランドが構築されてきた事実がある。一方、そのブランド力が当整形外科への受診の敷居を高くしてきたのも事実である。当科では昨年から近隣医療機関への訪問を行っている。旧厚生年金時代からの固定観念打破のためである。診断に難渋すること、手術適応の是非に苦慮することは診療の日常茶飯事であり、クリニックも基幹病院でも同様に抱えている課題である。近隣医療機関の先生方と協力して、迅速対応・緊密連絡・相互連携をモットーとした風通しの良い地域医療機能を構築していくことが当整形外科の目指すべき新しい姿であると考えている。

今後も紹介患者数を増加させ、ますます地域に根付いた整形外科診療を実施し、更にこれまでに築き上げた整形外科診療のレベルを維持しつつ、大阪市内は勿論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度の整形外科治療を求める患者を開拓し、そのニーズに応えていきたいと考えている。

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）大脇 肇、◎西川昌孝、◎中谷宏幸、三宅 佑、宮田佐崇、李 知香

◆概 要

2021年度のリウマチセンターは整形外科の3人の常勤医師と後期研修医3人により構成されていた。大脇肇副院長、西川昌孝リウマチ科診療部長、中谷宏幸リウマチ外科担当部長の体制は昨年と同様であった。後期研修医がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは三宅佑、宮田佐崇、李知香であった。

◆実 績

2021年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が960人で昨年度より15人増加した。新規紹介患者のうち当センターでの治療を開始した患者数は42人で昨年度と同程度であった。

生物学的製剤は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンボニー）/CZP（シムジア）/TCZ（アクテムラ）/ABT（オレンシア）/SAR（ケブザラ）を使用しているが、抗TNF製剤の使用が減少し、抗IL-6抗体の使用が増加していた。一方、キナーゼ阻害薬はTOF（ゼルヤンツ）、BARI（オルミエント）、PEFI（スマイラフ）、UPA（リンヴォック）、ジセレカ（FIL）と5剤になり、生物製剤に比較しキナーゼ阻害薬の増加が目立った。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチグループが行っている他の手術として、足関節・足部疾患があるが、これは昨年度12例から2021年度は9例と減少した。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

◆スタッフ（◎部長）

◎坂浦博伸、池上大督、金山完哲、山田修太郎

◆概要

腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎分離（すべり）症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、頸椎変性疾患（頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、頸椎後縦靭帯骨化症、頸椎椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼など）、胸椎変性疾患（胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症、変形性胸椎症、胸椎椎間板ヘルニアなど）、脊柱変形（思春期特発性側弯症、変性（後）側弯症など）、脊椎外傷（圧迫骨折後偽関節など）、脊椎腫瘍（原発性脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍）、脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、脊椎炎症性疾患（化膿性脊椎炎、リウマチ性脊椎疾患など）、透析性脊椎疾患などほぼすべての脊椎疾患を対象にしている。

治療を担当するのは4名の脊椎外科専門医を中心としたスタッフで、日本整形外科学会専門医および脊椎脊髄病医の資格に加えて日本脊椎脊髄病学会指導医や日本脊椎脊髄病学会・日本脊髄外科学会専門医の資格を有している医師もおり、さらにBKP資格医、OLIF資格医や日本整形外科学会経皮的内視鏡視下腰椎椎間板摘出術講習修了医もいる。手術室や病棟のスタッフも脊椎外科の専門的な治療、ケアに習熟しており、内科をはじめとする他科との連携を密にとることで、心臓病や糖尿病、透析等の合併疾患がある方でも安心して手術を受けていただける環境が整っている。

超高齢社会の到来や生活習慣の欧米化にともない、様々な疾患を合併した加齢による脊椎脊髄疾患に苦しまれる患者数は年々増えており、社会における脊椎外科の役割はますます大きくなっているため、脊椎疾患だけでなく患者さん全体やその背景までを含め、総合的に診る姿勢を大切にしながら、Evidence Based Medicineをベースに外科的治療を中心としたテーラーメイドの全人的医療を提供している。

◆実績

当院脊椎外科センターではまず服薬やコルセットなどを用いた保存療法を試み、どうしても症状の改善しない方には手術治療を適応している。令和3年度の手術件数は376件で、内訳としては腰椎除圧術（部分椎弓切除術）、腰椎固定術（通常の椎弓根スクリューあるいはCBTスクリュー法による後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（従来法、経皮的内視鏡視下手術PED）、頸椎椎弓形成術（人工骨あるいは金属プレート使用）、頸椎後方固定術（椎弓根スクリューあるいは外側塊スクリュー使用）、頸椎前方固定術（ケージ使用の椎体間固定術、自家骨+プレート使用の垂全摘前方固定術）、後側弯症矯正固定術（前方・後方2期的手術）などを行っている。また、近年低侵襲手術のひとつとして注目されているOLIF（側方進入椎体間固定術）を腰椎前方後方固定術や後側弯症矯正固定術において積極的に取り入れている。さらにハイブリッド手術室内に設置されているSIEMENS社のArtis Zeegoを用いることでリアルタイムに術中CT撮影をすることができ、より正確かつ安全な手術を行うことが可能となっている。

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎北 圭介、◎轉法輪 光、西本竜史、草野雅司、宮村 聡、藏谷幸祐

◆概 要

スポーツ医学センターは整形外科の中の一分野として、特にスポーツ傷害に苦しむアスリートたちをサポートすべく活動している。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や設備、またそれをアシストするリハビリテーション部門が必要となる。さらにスポーツ復帰のためには単に病気や怪我を治すだけでは十分ではなく、「よく治す」ことが必要であり、そのために磨かれた技術や小侵襲手術を可能にする関節鏡などの手術器具は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく一般の患者さんの治療にも応用される。怪我をした方の社会復帰、生き活きた生活を送りたいという現代人の健康志向、それらに応え人々の健康維持に寄与するため、スポーツ医学科は日夜励んでいる。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の3部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

◆実 績

2021年度手術件数

膝関節グループ：408件

（鏡視下膝十字靭帯再建、その他鏡視下靭帯再建、鏡視下半月板手術、高位脛骨骨切り、その他の関節鏡視下手術など）

肩関節グループ：113件

（鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など）

手・肘関節グループ：診療部門「手の外科・外傷」参照

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など）

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎轉法輪 光、宮村 聡

◆概 要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）であり、また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

またそういった道具であるがゆえに、工作中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使って治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

◆実 績

2021年度手術件数

手外科・外傷センター：487件

(骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎(肋骨移植を含む)、関節鏡視下手術)

◆スタッフ（◎部長）

◎中田活也、◎西川昌孝、◎中谷宏幸、岡本泰典、中矢亮太

◆概 要

2015年4月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが4室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。近隣医療機関との連携にも注力しており、変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介いただいた患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、3次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別の実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実 績（2021年度）：計509件

人工股関節置換術：281件（うち再置換術：12件）

人工膝関節置換術：174件（うち単顆置換術：9件、再置換術：4件）

大腿骨頸部骨折・人工関節周囲骨折：54件

◆スタッフ（◎部長）

◎波多祐紀、北原和子、竹村文吾、榎 由華子

◆概 要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格・再建マイクロサージャリー分野指導医資格を含む人員で高度な医療を提供する。また、診療科としては以下の認定を得ている。

- ・形成外科学会認定施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設
- ・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

◆実 績

2021年（令和3年）の臨床活動の概要は下表の通りである。

集計期間 2021年1月1日～2021年12月31日

	入 院	外 来	計
全身麻酔での手技数	69		69
腰麻・伝達麻酔での手技数	6	2	6
局所麻酔・その他での手技数	54	176	230

疾患大分類手技数	入 院			外 来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	4	1	2			22	29
先天異常	2		3			2	7
腫瘍	29	1	19			143	192
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	3		5			7	15
難治性潰瘍	22	1	3				26
炎症・変性疾患	7	3	9			1	20
美容(手術)							
その他	2		13			1	16

◆スタッフ (◎部長)

◎寺川晴彦、前田 香、丸本明彬、(理学療法士長) 榎藤 要、他理学療法士25名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、事務員2名

◆概要

リハビリテーション科専任医師3名 [専門医2名 (内、指導医1名)]、理学療法士26名 [内、育児短時間勤務1名、育児休業中1名]、作業療法士6名 [内、育児休業中1名]、言語聴覚士2名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、クラーク2名。

セラピスト:心臓リハビリテーション指導士5名、3学会合同呼吸療法認定士12名、がんのリハビリテーション研修修了32名、サルコペニア・フレイル指導士2名、日本理学療法士協会専門理学療法士1名 (神経系)/認定理学療法士17名 (循環3名、運動器7名、脳卒中3名、呼吸4名)、日本作業療法士協会認定作業療法士2名。

◆実績

■リハビリテーション科/室

① 新規オーダー件数(件) PT、OT、ST合計

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	328	310	326	327	361	327	311	339	306	366	355	396	4,052

② 疾患別件数(件) PT、OT、ST合計

疾患別	運動器リハ	脳血管リハ	がんリハ	心大血管リハ	呼吸器リハ	廃用症候群リハ	合計
件数	1969	619	423	450	187	453	4,101

③ 実施単位数(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
PT	8,671	7,654	9,656	9,059	9,281	8,715	9,148	8,915	8,814	8,536	8,232	9,409	106,090
OT	2,216	1,744	2,167	2,014	2,074	1,838	1,907	2,027	1,962	1,727	1,888	2,097	23,661
ST	321	224	376	388	354	350	262	352	203	331	343	412	3,916

④ 心リハ外来(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単 位	133	139	179	180	224	173	213	278	280	228	163	192	2,382

⑤ がんリハ(単位数・対象実人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単 位	909	644	1,033	821	923	671	1,158	1,033	898	617	619	639	10,144
実人数	66	51	66	71	64	42	68	73	55	50	52	51	732

⑤ リハ処方された退院時リハビリテーション指導料(件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	239	193	211	209	236	254	221	273	293	247	329	253	2,958

■義肢装具室

院内依頼総件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	166	158	163	163	151	146	140	135	154	160	139	190	1,865

■健康運動指導士

運動指導等(延べ総件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	66	32	52	20	90	95	40	48	45	42	48	48	626

◆スタッフ（◎部長）

（院長）西田俊朗、（副院長）畑中信良、◎森本修邦、◎井出義人、◎出村公一、村上剛平、大澤日出樹、大橋朋史、瀬戸寛人、中本連之助

◆概要・実績

＜消化器外科全般＞

2020年の消化器外科の手術件数は653件、そのうち全身麻酔症例は600件であった。大阪府がん診療拠点病院として、食道癌13、胃癌42、大腸癌139、肝がん32、膵癌17例の手術を施行した。また放射線治療、化学療法、終末期の緩和ケアも多数担っており、消化器癌の治療に関しては、手術だけでなく、早期がんから緩和ケアまで悪性疾患のあらゆる段階での治療に対応した。

また、救急外来に搬送された急性腹症にもオンコール体制で対応し、消化管穿孔、腸管虚血、腸閉塞、急性胆嚢炎、急性虫垂炎などの手術を施行した。良性疾患については虫垂切除術55、腹膜炎手術48、胆嚢摘出術123、ヘルニア80例などを行った。

近年の外科手術のなかで内視鏡手術の占める割合は増加し続けており、当院でも2021年は510件で全身麻酔手術の85%を占めた。今後さらに増加することが予想される。

＜上部消化管＞

食道癌、胃癌、胃GIST（粘膜下腫瘍）、胃十二指腸潰瘍穿孔が主な治療の対象になる。担当部長；出村公一、医長；村上剛平、の2名を中心に運営している。心肺有合併症例、高齢者の手術が増加するなか、質の高い医療を目指し積極的に診療に臨んだ。

食道癌：本年は13例の手術症例を経験した。うち胸部食道癌に対する根治術は9例であり、全例を腹臥位胸腔鏡下に行った（一部は大阪大学山崎誠准教授を招聘し、指導を仰いだ）。食道癌は他の消化器癌と異なり、放射線療法、化学療法の効果が期待できるので、手術と組み合わせた集学的治療により、治療成績のさらなる向上を図ることができる。本年も消化器内科、放射線科、などと連携した非切除症例の治療も数多く担当した。

胃 癌：本年度の胃癌手術症例は42例であり、わずかに増加した。近年、内視鏡治療の適応拡大、HP感染率の減少に伴い、胃がん外科手術数は減少しているが、出村部長の赴任により、腹腔鏡下手術率の上昇は顕著であり、2021年は約95%が腹腔鏡下に行われた。腹腔鏡下手術は今後も増加が予想される。当科は大阪大学消化器外科分科会などの治験に多く参加するとともに、大阪大学消化器外科先進化学療法開発部とそれぞれの症例を検討させて頂いている。胃癌、食道癌にたいする新規抗がん剤であるNivolumabは広く用いられるようになったが、進行癌においては術前後の化学療法と手術の組み合わせが必須であり、今後の課題でもある。

＜下部消化管＞

大腸癌、大腸癌イレウス、憩室穿孔腹膜炎、GIST が主たる治療の対象となる。下部消化管は担当部長；井出義人、医長；大澤日出樹の2名が担当した。

大腸癌は本年男女合わせると死亡率は癌の中で一番高く、今後は更に患者数が増加することが予想される。

当院では腸閉塞を来すような進行癌症例に加え、ESD後の追加切除に至るまで多く行われている。

手術は大部分が腹腔鏡手術で行われ、minimal invasive surgeryの典型的なものとなっている。2021年は結腸癌切除72例、そのうち腹腔鏡手術は71例（腹腔鏡手術割合98.6%）、直腸癌切除手術32例、全例が腹腔鏡下に行われた。上部消化管と比較すると腹腔鏡手術の割合は高かった。また、虫垂炎手術も全例腹腔鏡下に行われた。

術後補助化学療法は、UFT/LV、Xelodaといった経口抗がん剤とともにmFOLFOXを選択してきたが、最近はより簡便なXeloxに移行している。Stage IV症例を含めた進行再発大腸癌に対してはmFOLFOX、XELOX、FOLFIRI、IRISに、分子標的薬アバスチン、アービタックス、ベクティビックスを併用した、多剤併用療法を行っている。

<肝胆膵外科>

2021年は森本修邦担当部長、大橋医長の2名で担当した。

胆石症、胆嚢炎、肝嚢胞、膵嚢胞、脾腫などの良性疾患から肝臓癌、胆道癌、膵臓癌などの悪性疾患までさまざまな疾患に対応して診療を行った。診断、治療方針の決定については消化器内科、放射線診断科と定期的に症例検討会を行い、密に連携をとることにより安全かつ良質な医療を提供することを心掛けた。

悪性疾患に関しては癌の進行度と患者様の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法（抗がん剤）・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めた。また、他診療科医師、がん看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などの多職種で連携し、患者様にとって常にベストの医療を選択出来るように心掛けた。手術方法に関しては根治を目指した拡大手術から、安全性、根治性を検討しながら腹腔鏡下肝切除・膵切除などの低侵襲手術までさまざまな手術が行われた。

良性疾患に関しては、低侵襲で整容性に優れた腹腔鏡手術を積極的に行った。特に急性胆嚢炎に対する治療方針は「急性胆管炎、胆嚢炎診療ガイドライン（Tokyo Guideline 2018（TG18）」に準じて早期手術を行う方針を遵守した。

肝胆膵外科の2021年の手術実績は以下のとおり。

肝 がん：32例（区域切除以上：8例）

膵領域がん：17例（膵頭十二指腸切除術9例など）

良 性 疾 患：123例（腹腔鏡下胆摘：118例、開腹胆摘：5例）

<一般外科、その他>

ヘルニア手術を80例（うち腹腔鏡手術72例）、婦人科を中心に他科応援手術を多数行った。

◆スタッフ（◎部長）

◎岩崎輝夫、（外科医員）乾 元晴、中本蓮之助

◆概要

外科チームの一つとして、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。毎週、呼吸器内科と合同で呼吸器合同カンファレンスを開催している。多彩な呼吸器疾患に対して、診断や治療方針などを検討している。特に、肺がんに関しては治療方針の決定と共に、術前治療や術後補助化学療法、更に再発症例に対する化学療法（分子標的治療や免疫療法を含む）や放射線治療に関しても検討しており、集学的治療が円滑に行われるように努めている。個々の肺がん患者さんに関して診断から治療、そして再発時に至るまで外科と内科で情報共有できる体制をとっている。

原発性肺がんに対する手術は胸腔鏡補助（併用）下手術（いわゆる hybrid VATS）を基本としている。外科専門医を目指す後期研修医には、気胸、転移性肺腫瘍や一部の縦隔腫瘍に対する手術の術者を経験できるように指導している。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実績

2021年全身麻酔下手術総数は48例で内訳は以下の通りである。

原発性悪性肺腫瘍：27例（部分切除 12例、区域切除 2例、葉切除 11例、試験開胸 2例）
気胸：12例（原発性 7例、続発性 5例）
転移性肺腫瘍：2例（大腸 1例、睪 1例）
良性腫瘍：1例（過誤腫 1例）
縦隔腫瘍：1例（胸腺腫 1例）
その他の全身麻酔下手術 4例、全身麻酔下生検 1例

手術死亡および在院死亡は無かった。

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本文音、大谷陽子、南 有紀、笠原千聖

◆概 要

スタッフの体制は部長1名、医長1名、専攻医2名。診療内容は乳腺・甲状腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayはすべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っています。また、初診は予約枠を設けているが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れています。

確定診断が難しい微小乳癌や非触知乳癌が、当科では乳房専用の吸引式組織生検システムにより診断可能。

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する取り組み：遺伝性乳癌が疑われる方には、遺伝相談外来における遺伝カウンセリングの場を設けています。HBOCと診断され、かつ既に乳癌あるいは卵巣癌と診断された方では2020年4月より、がんがまだ発症していない部位の予防的切除が保険診療となりました（リスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術）。当科でもリスク低減乳房切除術に対応しています。

がん患者さんに対するアピアランスケア：乳癌患者生活コーディネーター（抗がん剤、放射線治療の経験者）による、抗がん剤、ホルモン剤、放射線療法などの治療を行う際のメイク、下着、かつらや、その他生活全般に関する疑問、悩みに関する相談をお受けする場を設けています。

将来の出産を希望されている患者さんには、当院の産婦人科の「生殖医療の専門医」を紹介するサポート体制があります。

◆実 績

乳癌手術	96例
乳腺良性病変に対する手術	9例
甲状腺癌に対する手術	7例
甲状腺良性病変に対する手術	2例
その他	8例

◆スタッフ（◎部長）

◎北林克清、◎丸本明彬、谷岡秀樹、深井照美（診療看護師）

◆概要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。これに加えて2019年4月より大阪市西部地区では唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の実施設認定を取得しました。以降、ハートチームとして循環器内科との連携が継続されており、コロナ禍で外来患者数、他院からの紹介患者数が減少する中、引き続き開心術症例数が増加しています。ハートチームは救急医療にも積極的に対応し、循環器ホットラインを駆使して24時間365日体制でも協力して運営しています。

低侵襲心臓手術（MICS）、ステントグラフト内挿術（TEVAR、EVAR）を積極的に取り入れるなど、今後もそれぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

心・大血管疾患のみならず、近年の糖尿病・透析患者の増加に伴い、末梢血管疾患にも対応をはじめ、手術症例数が増加しています。

◆実績

2021年（1月1日～12月31日）

手術総数 241例

心・胸部大血管疾患 86例（重複なし）

冠動脈：17例 弁膜症：38例（TAVI 17例） 胸部大動脈：26例 その他：5例

腹部骨盤血管疾患及び末梢血管疾患

腹部骨盤：19例（EVAR 17例）

末梢血管疾患：57例

◆スタッフ（◎部長）

◎岩本文徳、◎山際啓典、呉村有紀

◆概要

当科は昭和43年5月に開設された伝統ある科です。開設以来、市内はもとより近隣市より患者さんを紹介していただき、治療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドックを担当しています。脳卒中センターは24時間365日体制で神経内科と協力して運営しています。

従来の開頭手術だけでなく、内視鏡手術、定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）など低侵襲な治療にも積極的に取り組んでいます。脳血管内治療では、脳動脈瘤に対してのコイル塞栓術、脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻に対しての塞栓術、脳梗塞に対する機械的血栓回収術、内頸動脈狭窄症に対してのステント留置術など多岐にわたる疾患に対応しています。特に超急性期脳梗塞においてはtPA治療、機械的血栓除去術ともに標準的な治療となっています。当院でも脳卒中専門の医師に直接つながる脳卒中Hot callを24時間365日体制で運用しています。

脳腫瘍においてはナビゲーションシステムを用いた精度の高い治療を心掛けております。傍トルコ鞍部腫瘍に対しては内視鏡手術を導入し、専門的スタッフの協力、最新の機器、物品の整備を行い、着実に症例数を増やしつつあります。悪性神経膠腫を始めとした悪性脳腫瘍の治療に関しては、形態学的な病理診断学に加えて分子診断が診療に寄与する時代が到来しつつあります。当院では関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに加わり、グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメイド治療法の作成に関しての臨床治験に参加しており充実した治療体制を構築しております。更に手術療法、化学療法、放射線療法に次ぐ、新しい治療として交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実績

手術件数（2021/1/1～2021/12/31）

総数：149件

脳腫瘍22件、脳出血10件、動脈瘤（クリッピング術）5件、水頭症16件、慢性硬膜下血腫24件、外傷（血腫除去）4件、その他25件

脳血管内治療：45件

動脈瘤（コイル塞栓術）19件、頸動脈ステント留置術5件、機械的血栓回収術8件、AVM/dAVF3件、その他10件

◆スタッフ（◎部長）

◎馬屋原 豊、桂 央士、三田 梓（7月から産休）、外川有里（8月末まで産休）、中嶋玲那（通年産休）、上田彩加（4月～9月）、梶本侑希（10月～3月）、帆足佳奈（10月～3月）、西岡美保（1月～3月）、門澤莉菜（7月まで産休）

◆概要

糖尿病内分泌内科は令和3年4月に内科から独立しました。（ただし、医事統計などは内科に含まれています。）それとともに診療部長と筆頭の医長が入れ替わり、人心を一新しました。地域の先生方から信頼される糖尿病専門施設としての陣容を整えるため、令和3年度は以下の施策を行いました。

- ・多職種からなる糖尿病ケアチームの創設（糖尿病委員会からの変更）
- ・カーボカウント、CSII（インスリンポンプ療法）、SAP（リアルタイムCGMを併用したポンプ療法）など1型糖尿病先進治療への積極的な取り組みと、糖尿病ケアチームにおける勉強会、チーム医療の推進
- ・1型糖尿病患者さんへのリアルタイムCGM導入、インスリン治療患者さんへのisCGM（リブレプロ）の積極的な導入と看護外来での指導によるコントロールの改善
- ・大きく変化する2型糖尿病治療における欧米系ガイドラインを鑑みた治療の標準化への取り組み
- ・休止状態にあった糖尿病透析予防外来の見直しと本格稼働
- ・簡易な糖尿病患者データベース作成による、全体的な患者さんの把握
- ・糖尿病連携手帳を用いた、糖尿病地域連携パスの導入
- ・地域の先生方との病診連携促進のための交流を深め、当院での診療状況を理解していただくために、福島区医師会講演会や此花区医師会講演会など、地域の先生方などを対象とした年間20回程度の講演活動
- ・コロナ禍における月一回のWebによる外来糖尿病教室継続（11月、12月は対面）
- ・世界糖尿病デーイベント「インスリン発見100年記念」の施行（11月）

◆実績

- ・外来患者数 15,276人/年
- ・外来糖尿病患者統計（令和3年8月末現在）

	人数	HbA1c(%)	平均年齢	BMI
薬物療法あり	1,638	7.27±1.13	68.4±13.0	25.4±4.8
注射薬有り	686	7.69±1.33	67.5±13.5	25.3±5.1
インスリン治療群	558	7.75±1.36	67.5±13.5	25.1±5.0
内服薬のみ	952	6.97±0.82	69.0±12.6	25.2±5.0
インスリン治療群の内訳				
CSII	8	7.77±0.98	48.5±11.4	25.4±1.8
Basal + Bolus	244	7.93±1.55	65.2±14.0	25.2±5.5
PreMix	45	7.76±1.27	74.5±11.8	24.8±5.2
BOT	181	7.80±1.16	68.6±12.4	24.8±3.9
GLP-1製剤使用	263	7.75±1.26	66.5±13.0	27.1±5.4
インスリン+GLP-1	135	8.05±1.26	65.6±12.3	27.5±5.5

- ・糖尿病透析予防外来 のべ115件
- ・入院患者数 408人/年
- ・救急受け入れ患者数 120件/年

◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木 朗、青木克憲、岩橋恵理子、山口 慧、後期研修医：川野祐暉、西垣内俊也、中川和真、平井祐里

◆概要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症のネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析導入回避を目指して、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を実践しております。末期腎不全に至った例は、療法選択外来を受けていただき各人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。血液透析患者の内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

◆実績

1) 外来診療

2021年に診療した患者数はのべ9,412例でした。（2020年 8,834例、2019年 8,458例、2018年 8,316例）

2) 入院診療

2021年の入院患者数は364例であり、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けて減少しました（2020年 383例、2019年 395例、2018年 385例）。しかし、腎生検数、透析導入数には回復が見られました。2021年は腎生検33例（2020年 22例、2019年 32例、2018年 40例）、血液透析導入47例（2020年 37例、2019年 39例、2018年 39例）でした。腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

lgA腎症	11	ループス腎炎	2
糖尿病性腎症	6	巣状糸球体硬化症	1
微小変化型ネフローゼ症候群	4	膜性増殖性糸球体腎炎	1
膜性腎症	3	その他	2
ANCA関連血管炎	3		

3) 血液浄化センター

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者13名、腹膜透析患者5名も管理しています。2021年の各療法実施件数は以下の通りで新型コロナ感染の影響から一定の回復が見られました。

HD	2,652	▲339
online HDF	2,218	△186
PE(血漿交換)	11	△5
DFPP	3	△3
LDLアフェレーシス	0	▲8
GCAP(顆粒球吸着)	20	±0
ICUにおける血液浄化	150	▲63

4) 経皮的内シャント拡張術

2019年から新たに導入され、入院中の透析患者に発症した内シャント狭窄を対象に治療介入を行っております。2021年からは院外からの紹介も受ける体制を整えております。

2019年	2例
2020年	18例
2021年	26例

◆スタッフ（◎部長）

◎鴨井 博、◎田中陽子、馬場希一郎、阪上和樹

◆概 要

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を診察させていただく診療科です。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）に代表される多くがタバコ関連である気道疾患、悪性腫瘍である肺癌、細菌性肺炎、肺結核（外来治療のみ）、昨今ではCOVID-19に代表されるウイルス性肺炎などの感染症、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患と極めて広い領域を対象にしています。各呼吸器領域の指導医、専門医が在籍しており、かつ当院は呼吸器内科以外の診療科が非常に充実していますので、当院ならではの特性を活かし、他科とも密接な連携のもとに迅速な診断と最新治療を提供するよう努めています。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（塗抹陰性の場合）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水、各種間質性肺疾患、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素導入、ARDSなど。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡を含む）、CTガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼吸抵抗検査、呼気NO検査、PSG検査。

◆実 績

主な入院：2021年度合計：498例

肺 癌：222例

肺 炎：62例（呼吸器内科担当症例）

間質性肺炎：32例

気 胸：16例

中皮腫：2例

気管支喘息：3例

COPD：10例

気管支鏡検査：110件

うちEBUS-TBNA：11件

気管支内異物除去：1件

局所麻酔下胸腔鏡検査：7件

CTガイド下肺生検：3件

◆スタッフ（◎部長）

◎長田 学

◆概 要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。臨床では各診療科からコンサルテーションを受けて担当医と共に感染症患者の診療に当たっており、血液培養陽性患者のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員会の副委員長、ICT（感染対策チーム）の委員長として、ICTメンバーの看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、血液曝露対策、入職者の予防接種、院内スタッフに対する感染症に関する教育講演や広報活動を引き続き精力的に行っている。

さらに、2022年度より感染対策向上加算1が設定され、これまで以上に地域の医療機関との連携による教育講演活動や感染対策の助言を求められる機会も増えて来ている。

◆実 績

2021年度は新型コロナウイルス感染症の度重なる流行で病院全体の入院・外来患者数が減少した影響もあり、いずれの項目も昨年度より件数は減少している。

1. 院内コンサルテーション

各診療科の医師から感染症の診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間、隔離の是非や隔離解除の判断等について相談を受け、必要に応じ直接患者を診察し、担当医のニーズに沿う形で診療の助言を行う。

2021年度は延べ399件のコンサルテーションを受けて対応した。

2. 血液培養陽性例への介入

血液培養が陽性になる患者は重篤な感染症を生じている事が多い。血液培養が陽性になったら全例細菌検査室より電話で連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した時は主治医または担当医に連絡し、治療方針について協議し、必要があればその後も定期的にフォローした。

2021年度は576件の陽性例があり、その1/3程度について介入を行った。

3. 特定抗菌薬許可制

2002年（平成14年）3月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、担当医と協議する。

2021年度は843件の使用許可の申請があった。

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）伊藤敏文、◎巽 信之、◎山本克己、日山智史、石見亜矢、武田梨里、徳田有記、澤村真理子、中村弘樹、三浦勇人、岡部 悟、山崎春香、杉丘裕基、上蘭康平

◆概要

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療や医療行為の安全かつ、円滑な運営を図るよう努めている。
- 肝疾患領域では、今後も抗ウイルス療法の導入を行い、ウイルス性慢性肝疾患の治療の必要性の周知を医療関係者を含めた衆人への周知・徹底に努め、院内におけるウイルス性肝疾患の見落としを未然に防止する方策の取組を続けている。また、非ウイルス性肝疾患の診断と治療も行い、栄養管理も含めた慢性肝疾患の診断・治療を行っている。
- 膵疾患領域においては、近隣に専門医が少なく、紹介患者数も多く、慢性膵疾患の症例集積がさらに増加し、急性膵炎の紹介を含む受診者も増加している。
- 消化管疾患においては、食道胃酸逆流症や機能性胃腸症、ヘリコバクターピロリ感染症についても地域への情報発信を行っている。加えて、ダブルバルーン内視鏡検査やカプセル内視鏡検査も導入し、小腸領域を含めた潰瘍性大腸炎やクローン病等の炎症性腸疾患の適切な診療・治療（新規薬剤の開発治験の参加も有り）に積極的に取り組んでいる。
- 癌診療領域においても、肝胆膵系と消化管系の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、積極的に内視鏡治療や超音波機器を用いた低侵襲癌治療を推進している。また、緩和医療も考慮した終末期医療についても取り組み、また、癌登録も的確に行っている。院内のキャンサーボードとして、消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、加えて治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために、本院主催での研究会を行っている。加えて、地域医師会や医療機関と協力し、地域連携を目的とした研究会を開催し、よりよい情報提供を企画し、地域医療機関との連携を更に深めるため、本院からの情報発信に取り組み、地域医療機関向けの研究会を立ち上げ、開催し、今後の企画を進めている。
- 患者教育・疾患啓発のために、消化器病懇話会の定期的な開催を継続的に行うとともに、地域医師会と医療機関と連携して市民公開講座を定期的に行っている（ただし、現在COVID-19の為、やむなく開催を見送り、再開の機会をはかっている）。
- 臨床医としての基盤の形成に努め、良質な臨床研究を行い、医療の倫理を自覚すると共に、医療の質の向上を担保した病院としての立ち位置を地域に発信していきたい。常に、臨床研究的な視点を持つことにより、医療の質とその安全性を意識し、各職種との協力により、患者さん中心の診療となるように努力し教育したい。このことは、医師としての全人教育を行うことになると考えている。
- 消化器内科として、診療の質向上に努め、病院運営に貢献できるように努めている。適切な教育・指導により人材確保と養成を行いたいと考えている。この点を円滑に行うために、大阪大学との協力関係を維持し、良好な関係の構築の維持に努めると共に、地域医療機関と協力し、地域としての医療向上を目指し、また、地域住民への医療の啓蒙を行い、診断治療のみならず、一歩進んだ予防医療の構築に貢献出来るように心がけている。

◆実績

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、消化器内科医師及び各スタッフの協力により、近隣から救急搬送を含む依頼を断ることなく対応し、昨年度は新入院患者総数約2,250名の入院を担当している。また、内視鏡センターにおいて多くの内視鏡検査と手術を行っている。
- 内科系各診療科と協力し、内科系の医療の質向上にも努めている。
- 各職種と連携して、医療・看護教育活動も定期的で開催し、また、他職種に対する薬剤情報の広報にも努めている。
- 診療実績の維持を図りつつも、男女雇用機会均等を意識し、勤務体制・環境の適正化に努めている。

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原延行、◎岡田昌子、◎三好美和、佐伯 一、有田 陽、藏本見帆、飯田吉則、福井智大、山本将平、七條加奈、末谷悠人、廣瀬江祐

◆概 要

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈CT・心臓MRIなど循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFRなどを用いて、虚血の評価を行い、血行再建の適応を厳密に行ったうえで、症例ごとに最適な治療を行っている。ロータブレードによる石灰化病変へのインターベンションや慢性閉塞性病変への血行再建も可能である。ステント留置のみならず、薬剤溶出性バルーンを用い、ステントレスのインターベンションも試みるようにしている。

不整脈に関しては心房細動や心室頻拍など、各種不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行っており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。また、発作性心房細動に対するクライオバルーンは通常に施行可能であり、ホットバルーンやレーザーバルーンなど新しい技術も導入し幅広いアブレーションが可能となった。徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療をはじめ、致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。植込み型除細動器に関しては、感染のリスクが少ない皮下植込み型除細動器を用いるケースも増えている。また、通常のペースメーカー植込みが困難な場合には、リードレスペースメーカーをカテーテル的に挿入している。

生理的なペースングを目指して中隔ペースング、ヒス束ペースングも行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛け、カテーテル的血栓溶解療法も行っている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸外来を週1回行っており、ポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。ハイブリッド手術室の導入により、大動脈疾患・末梢動脈疾患の治療が大幅に改善された。急性大動脈解離に関しては循環器内科にて初期対応・診断を行い、迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療の対応が可能となった。

特に2019年度より循環器内科、心臓血管外科、放射線技師、臨床工学士、看護師によるハートチームを形成して経皮的カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を開始して確実に症例数を増やしている。

救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

◆実 績

年間の治療件数

冠動脈インターベンション：169件（急性心筋梗塞 29件）
末梢動脈疾患インターベンション：66件
カテーテルアブレーション：142件
新規ペースメーカー植込み：51件（そのうちICD 1件）
経胸壁心臓超音波検査：5,161件

経食道心臓超音波検査：88件
心臓核医学検査：641件
冠動脈CT：454件
心臓MRI：27件
TAVI：16件

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原友貴、島田菜津子、江田友香、桑田由璃子

◆概要

地域医療支援病院として近隣の施設からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬においては日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。またナローバンドUVB、エキシマライトなどの治療も行っています。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

皮膚腫瘍ではダーモスコピー、表在エコー、皮膚生検による診断や摘出術を行っています。陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています（一部自費診療）。

そのほか、液体窒素凍結療法、局所免疫療法（SADBE）、パッチテスト（パッチテストパネルS、金属アレルギー）に対応しています。

◆施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

乾癬生物学的製剤使用承認施設

静脈圧迫処置

◆実績

（令和3年4月～令和4年3月31日）

【診療実績】

外来患者数：11,865人

入院患者数：2,277人

【業績】

論文・著書 和文：1編

学会・研究会発表：4演題

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本宜正、山口唯一郎、伊藤拓也

◆概要

2021年は常勤医3名、非常勤医（外来のみ）2名の構成で、1月～12月の診療実績は外来延患者数10,291人、新患者数（初診）322人、外来1日平均患者数42.5人、入院延患者数4,008人、新入院患者数429人でした。

泌尿器科外来での透視下の処置・手術件数は、2021年は尿管ステント留置術165件、尿管ステント抜去術51件、経皮的腎瘻造設術3件、前立腺生検84件でした。

手術室での手術件数は下記のとおりで、全件数は前年から13件減少しました。レーザーを用いた経皮的腎碎石術と経尿道的尿管碎石術は43件で昨年と同件数でした。腹腔鏡手術は前年から10件増加しました。

◆実績

泌尿器科年間手術件数（2021年1月1日～12月31日）

年間手術件数(ESWL以外) 232件

開放手術 32件		腹腔鏡手術 27件	
副甲状腺摘除	3件	副腎摘除	3件
後腹膜腫瘍摘除	1件	腎(尿管)摘除	18件
腎摘除	3件	ドナー腎採取	2件
腎移植	2件	腎部分切除	4件
膀胱修復術	2件	内視鏡手術 173件	
膀胱尿管新吻合	1件	経皮的腎碎石	1件
回腸導管造設	1件	経尿道的尿管碎石	42件
尿管皮膚瘻	1件	経尿道的膀胱腫瘍切除	82件
尿道手術	5件	経尿道的前立腺切除	8件
陰嚢内容手術	4件	経尿道的膀胱碎石	7件
陰莖手術	2件	経尿道的止血	3件
その他	7件	直視下内尿道切開	8件
		その他	22件

年間ESWL件数 21件(21人・50回)

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井建紀、◎大八木知史、清原裕美子、繁田直哉、中尾恵津子、田中稔恵、谷口茉莉子、松村有起、赤田 将、森 禎人

◆概 要

11名のスタッフで、外来診療・病棟診療・分娩・手術を行っています。

◆実 績

令和3年度は、分娩数429件（うち帝王切開術93件、吸引分娩34件、鉗子分娩1件）、婦人科手術数232件（うち悪性腫瘍手術26件）を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。症例により、必要に応じて分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適宜行っています。妊娠35週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例については、近隣の適切な分娩施設をご紹介します。また、医学的に必要な症例に限定して無痛・和痛分娩を実施しています。

婦人科診療では、良性腫瘍・悪性腫瘍に対する手術療法や薬物療法、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術）・腔式手術を行っています。また、月経異常・更年期障害など、卵巣機能に関わる女性特有の症状に対して、ホルモン治療・漢方薬治療など、それぞれの患者さんに適した治療法をご提案します。

現在、多くの医療情報はインターネットなどを介して得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療と紹介されている情報は、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんによって最適な治療法は異なります。私たちは患者さんと向き合い、話し合いながら、何が必要な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、またあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力をしています。

なお、当院は、

- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設（補完認定施設）
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本女性医学学会専門医制度認定研修施設

に認定されています。

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒伸行、◎眞下 永、南 高正、春田真実、梅本弓夏、祖父江 茜、濱野結貴、視能訓練士6名

◆概 要

常勤医師7名（専門医4名）、非常勤医師3名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

◆実 績

令和3年4月から令和4年3月において、白内障手術728件、網膜硝子体手術179件、緑内障手術97件、を行っております。パーチェット病に対するレミケード治療を受けている方は42名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療56名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は49名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

◆スタッフ (◎部長)

◎小川 真、増村千佐子、坂田正行、永田明弘

◆概要

耳鼻いんこう科は、その名が示す通り、耳・鼻副鼻腔・咽頭・喉頭の領域を専門とする診療科ですが、口腔・頸部の領域も含まれます。また脳神経が関与する聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの感覚の障害、および、摂食嚥下・音声言語などの口腔・咽喉運動の障害も取り扱います。

私たちの病院では、「声がれ」などの音声障害、「むせ」「誤嚥」などの嚥下障害、「睡眠時無呼吸」などの気道の障害に加え、「鼻漏」「鼻閉」「口呼吸」などを伴う鼻副鼻腔疾患の治療を専門としております。特に音声障害・摂食嚥下障害については、専任の言語聴覚士によるリハビリテーションを受けることが可能です。

その他、突発性難聴・めまい・顔面神経麻痺などの耳の疾患や、耳鼻咽喉・頸部領域の感染症まで、一般的な耳鼻いんこう科疾患を対象に治療をおこなっております。また当院での治療が難しい悪性腫瘍などの疾患であっても、大阪国際がんセンターや大学病院などの各専門病院へ適宜紹介を行っております。以上、広い範囲の耳鼻咽喉・頸部領域の症状に対応させていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設

日本気管食道科学会認定研修施設

◆診療内容

声帯腫瘍(ポリープ・嚢胞・結節など)	顕微鏡下喉頭微細手術・薬物治療など
声帯麻痺	披裂軟骨内転術・甲状軟骨形成術 声帯内脂肪またはコラーゲン注入術など
機能的音声障害	言語聴覚士による音声治療など
摂食嚥下障害	嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術、嚥下訓練指導など
閉塞型睡眠時無呼吸症候群	CPAP治療・鼻腔形態改善手術・咽頭形成術など
上気道狭窄・閉塞	気管切開術・声門開大術など
慢性扁桃炎・扁桃肥大・アデノイド増殖症	口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術など
慢性副鼻腔炎・鼻中隔彎曲症	内視鏡下鼻副鼻腔手術など
突発性難聴・顔面神経麻痺	ステロイド点滴・デフィブラーゼ点滴治療 (デフィブラーゼは突発性難聴のみ)
唾液腺腫瘍	唾液腺腫瘍摘出術など

◆実績

手術件数 (2021年)

喉頭微細手術	46	頭頸部悪性腫瘍手術(頸部郭清術含)	4
声帯内注入術	18	気管切開術	4
口蓋・咽頭扁桃摘出術	66	鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術	22
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	122	その他	13
頸部良性腫瘍・腫瘍手術	6	合計	301

◆スタッフ（◎部長）

◎山田寛之、◎石浦嘉人、◎柏木博子、長松有衣子、岸本加奈子、原田大輔、近藤可愛、阪本夏子、折山恭子、
上山 薫

◆概 要

令和3年度は小児科医10名（指導医5名、専門医10名）が、小児科に在籍した。また、小児循環器、アレルギー、内分泌専門外来に応援医師5名と一般外来に応援医師1名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで対応可能な総合小児科であり、大阪市西部地域小児医療の基幹病院として、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経・重症心身障がい児（者）、循環器、アレルギー、遺伝相談の専門外来を開設している。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート療法、重症心身障がい児（者）に対するオーダーメイド治療、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。また、新型コロナウイルス感染症の対応として、小児発熱外来を開設している。

病棟は、一般小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルーム2室を備える。急性疾患・新生児疾患に加え、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、経口食物負荷試験、鎮静下小児消化器内視鏡などの検査入院や難治性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。大阪フォローアップセンターからの新型コロナウイルス感染症患者受け入れを行っているほか、大阪市中央急病診療所の後送病院業務も担っている。

◆実 績

(人)

新規小児入院患者数	750
NICU入院患者数	207
外来患者数	7,766
救急外来患者数	476

◆スタッフ（◎部長）

◎山森英長、松下紗織、堤 真也、精神保健福祉士1名、非常勤心理療法士5名

◆概 要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス関連障害、不安障害、気分障害、統合失調症の治療、診断の難しい精神疾患の診断、また、思春期・青年期（高校生以上）の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を行ったり、また、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応をチームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行っているとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携（リエゾン）精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実 績

令和3年度診療実績（令和3年4月～令和4年3月）

		合 計	月平均
外 来	初 診	333	27.8
	再 診	8,496	708
リエゾン	初 診	493	41.1
	再 診	1,614	134.5

延べ診察数：10,936

1日当たりの平均診察数：44.8

◆スタッフ（◎部長）

◎上田周一、◎寺川晴彦、山下和哉、明浦公彦

◆概要

当科は平成8年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断・治療や免疫修飾療法・ボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

◆実績

脳神経外科と連携してのSCU9床の稼働率は例年通り90%以上で推移していた。

本年度も、部長2名・医長2名、計4名での病棟運営を継続した。院外からの当直専従医（久保田智哉・杉山慎太郎・杉山靖子・池上剛史各医師）の補助もあり、昨年に続くコロナ渦中ではあったが一般病床を含めて、年間約270名の新入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科 山際部長との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間20例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調である。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセンの髄液内投与治療も継続したほか、多発性硬化症に対する皮下注射製剤を用いた免疫修飾療法も導入を開始した。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）：3例、脊髄性筋萎縮症（SMA）：1例、パーキンソン病：9例、多系統萎縮症：1例、脊髄小脳変性症：4例、多発性硬化症：12例、重症筋無力症：4例、ギランバレー症候群：2例、髄膜炎を含めた神経感染症：11例、てんかん：17例などであった。

日本神経学会認定教育施設として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医1年目4名、2年目3名の初期研修医がローテートし、その結果、次年度より2名が脳神経内科医として内科専攻医登録予定となった。また日生病院からの内科専攻医1名が当科で研修した。

2021年12月11日には、主任部長の上田が会長として、第120回日本神経学会近畿地方会を大阪国際会議場において開催し、Web参加を含めて参加者600名弱を集め、盛会裏に終了することが出来た。

◆スタッフ（◎部長）

◎白杵則朗、◎北山聡明、大倉隆介、崔 朝理、小林彰太郎

◆概 要

当科は現代の医療に不可欠なCT、MRI、RIの画像診断の大部分を行うとともに、カテーテル操作を駆使する画像下治療（IVR）を行っています。4名の放射線診断指導医、専門医と1名の放射線専門医が在籍し、内2名はIVR専門医を、1名は核医学専門医も有しています。撮影にあたってはオーダー医の目的に合うような撮影法になるように指示を出し、診断レポートは迅速に報告するようにして少しでも臨床の場に寄与するようにしています。また、近隣医療機関からの検査依頼も積極的に受け入れるようにして、病診連携にも力をいれています。

IVRは断らないことをモットーとしており、肝細胞がんの塞栓術はもとより止血術、ドレナージといった救急症例にも積極的に対応しており、今後は緩和医療にも適応範囲を広げていきたいと思っています。

教育面では、日本医学放射線学会より放射線専門医修練施設、日本IVR学会よりIVR専門医修練施設、日本核医学会より専門医教育病院の認定も受けています。

画像、IVRで何か疑問なことがあれば、お気軽にご相談ください。

◆実 績

モダリティー別レポート数及びIVR件数（ ）内は院外紹介例

CT	20,151 (364)
MRI	9,990 (351)
RI	459 (1)
IVR	149 (29)

◆スタッフ（◎部長）

◎西多俊幸、前角智子

◆概要

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックである Elekta 社製 Infinity が設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家による支援が不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限り高精度照射も提供できるように努めています。

高精度照射としては体内の多くの部への強度変調照射を保険診療の範囲内で実施しています。体幹部定位照射は肺と肝臓を主な対象に施行しており、適応症例では脊椎転移への定位照射も行っています。

◆実績

高精度放射線治療として強度変調放射線治療と体幹部定位照射を行っています。

2021年(1月～12月)

のべ照射件数	3,351件
治療計画数	205件（1門・対向2門：25、非対向・3門：40、4門以上：93、 強度変調照射：34、体幹部定位照射：13）
総照射部位数	161部位（乳房：50、骨：33、肺：22、前立腺：7、脳：15 など）
全治療患者数	157人（原発巣別 乳腺：61、肺：43、肝胆膵：10、泌尿器：9 など）

◆スタッフ（◎部長）

◎中谷桂治、◎佐藤善一、◎八木真実、山間義弘、濱田 拓、村田久仁子、佐藤八江、西田宙夢、中新恭平、今村圭祐

◆概 要

現在スタッフは10名（麻酔科部長2名、集中治療部部長1名、医長4名、医員3名）で、それ以外に非常勤医師に応援に来てもらっています。大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修として1年間、研修を受け入れております。初期臨床研修医は1年目に全員、麻酔科での研修が必須とされており、2か月間、麻酔の基本を中心に研修してもらっています。

手術室は12室ありますが、麻酔科の管理枠としては最大7列としております。

ICUは佐藤部長を中心に日勤帯は専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行い、当直業務は麻酔科と心臓血管外科で行っています。

本院の麻酔科の基礎を築かれた久保田行男先生、その教えを忠実に守られた豊田芳郎先生らの時代は何よりも患者さんの「安全」を最優先に考えておられました。麻酔科管理症例のほぼ全例に病棟での胃管挿入、経鼻挿管時の意識下挿管、小児の意識下での静脈路確保、麻酔導入前のAライン挿入など、時として患者さんの苦痛を伴う処置であったことも否定はできませんが、安全重視という理念はこれからも受け継ぎ、手術室での医療事故がないように努めていきたいと思っております。

ただ時代の流れとともに管理方法も少しずつ変遷し、気管挿管の器具においては、以前はマッキントッシュ型喉頭鏡だけでしたが、今ではマックグラスというビデオ喉頭鏡を用いることで、挿管困難症例でも容易に挿管できるようになりました。また中心静脈カテーテル挿入に関しては、エコーを用いることで手技を安全かつ容易に行うことができるようになりました。

新病院からは手術室部門システムを導入し、麻酔記録が電子化されバイタルの記録が自動化されました。これにより患者さんの急変時にも正確な記録が残ると同時に、記録業務が省けることで、迅速な対応に専念できるようになりました。

今後、ますます手術件数の増加が予想されますが、どのような場合でも基本である患者さんの安全を忘れることなく、術中管理は言うに及ばず術後の回復も考慮した麻酔を心掛けていきたいと思っております。

◆実 績

2021年度の手術症例数は5,032例で、そのうち麻酔科管理症例は3,210例（全身麻酔2,737例、脊椎麻酔463例）でした。

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本佳之、木下久美子、歯科衛生士3名

◆概要

部長および医員は大阪大学歯学部第一口腔外科の出身であり、同科の関連病院として動いています。治療対象疾患は口腔外科疾患全般です。ただし、悪性腫瘍については関連病院であるJCHO大阪みなと中央病院口腔外科に紹介しています。一般歯科診療は原則行わず、他科入院患者の入院中の応急的な歯科処置のみ行っています。診療は外来での口腔外科処置を主に行っており、入院全麻症例の手術は奇数週の金曜日のみ行っています。周術期口腔機能管理については、全科を対象を拡大して対応しています。

◆実績

2021年は新型コロナウイルス感染による受診抑制が続く中ではありましたが、年間の新患者数1,874名、1日平均患者数27.4名と新型コロナウイルス以前の患者数を上回る診療患者数となっています。これは周術期口腔機能管理の新初診患者数が年間898名と大幅に増加したことが大きな要因と考えています。地域の歯科医院から紹介される埋伏抜歯数は276件と、2020年からは大きく改善していますが、新型コロナウイルス感染以前の7割程度となっています。ただし、新型コロナウイルス患者数増加の波が繰り返されながらも徐々に紹介患者数は元に戻りつつありますので、手術総数は増加していくと予想しています。

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田康之、中井千晶、緒方正史

◆概要

病院における病理科、「びょうり」部門とは患者さんの病巣組織の一部を採取し顕微鏡で観察、癌かあるいは他の疾患かを診断する部門であります。

胃カメラや大腸内視鏡検査で消化管粘膜面を観察しながら異常部分の粘膜組織片を採取し（生検）、そのパラフィン切片にH-E染色を施した組織標本を作製し、これを顕微鏡下に観察して胃癌や大腸癌があるのか、又は、潰瘍や炎症やポリープだけなのか？を判定し診断する。病理科とはこのような診断業務を司る部門であり、病院にとって重要な役割を担っております。

そして、喀痰、尿、胸腹水、子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドグラスに塗布してパパニコロー染色を行い、やはり光学顕微鏡にて癌細胞の有無を見分ける細胞診も病理科の主たる業務の一つであります（細胞診）。

さらに、手術で摘出された臓器あるいはその一部を肉眼的に十分に観察してそれから病理組織標本を作製し、癌であるならば、取り残しなく完全に摘出されているかどうか、周辺リンパ節転移の有無についても詳しく検索します（手術材料検索）。

手術中でも癌が完全に切除できているかどうか、切除断端組織を -30°C で迅速に凍結して染色し、その凍結切片を顕微鏡下に即座に診断し、その結果を手術中の執刀医に連絡し癌がまだ取り残されているならば追加切除するように指摘します。術中迅速凍結切片診断は時にその手術の成否にかかわる決定的な鍵を握る事が多く、我国でも大手術を行う場合には病理部門の整備充実が必須の条件と言われてきています。

極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく又は予期せぬ経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で病理解剖を行い臨床病理検討会において疾患の本態の解明や診断の的確さや治療効果が討議されます。

◆実績

令和3年度（2021.4.1～2022.3.31）

生検・手術材料：約5,639件（内術中迅速診断：約161件）

細胞診：約6,791件

◎小笠原延行、◎五十嵐 渉、永田慎平

臨床研修医（2年）：伊藤悠記、北川由華、小畑理沙子、島 佳弘、中村有希、増田一輝、松本涼聖、光田 紬、山本大貴、大萩麻衣、花澤綾香、宮本 遥、海野美幸、小谷賢太郎

臨床研修医（1年）：一宮汐里、川島諒也、小杉悠貴、阪井達哉、白井晴菜、遠山昌宏、橋本勇輝、森 一朗、山川拓真、直原成美、小松佳史、津田莉穂、江川彩香

◆概要

救急・プライマリケア診療部は、救急患者の受け入れと初期診療を行い、また救急診療を通じて初期臨床研修医の教育・研修を行うことを目的とした部署である。

救急部としては、年間約9,210人の患者の受け入れを行っており（うち救急搬送が3,861人）、その30%強にあたる約3,092人が入院となっている。謝絶率が27%程度とやや高い傾向だが、当院の診療限界を超える病態の依頼を除き「担当科処置中」「ICU 満床」等の理由による謝絶率は12%程度である。近隣の開業医からの緊急紹介患者については、担当科が不明な場合には直接救急が対応することで、より円滑な受け入れが可能になった。

初期研修については、1年目研修医は、1ヶ月の救急ローテート期間を通して指導医とともに平日日勤帯の救急搬送患者の初期対応にあたる。この間に、問診や身体所見の取り方、カルテの書き方、common diseaseの疾患概念、診断に至るまでの思考プロセスなどの医師として必要な知識や技術はもちろん、患者への接し方や言葉遣い、仕事への責任感、モラルなどの人間性に関わるようなことも学んでいく。6月からは2年目研修医の夜間休日の救急当直に23時まで一緒に入り、ウォークインも含めた比較的軽症の患者の対応についても経験する。

2年目研修医は、夜間休日の救急当直に入り、ある程度自分の判断で救急患者の初期対応を行っていく。当院には、研修医を直接補佐する救急A当直を始め、内科、循環器科、外科、整形外科、脳卒中、小児科、産婦人科、ICUなどの各科医師も当直に入っており、幅広いコンサルトが可能な環境が整っている。また、当直翌朝には救急で診療した症例について、救急、整形外科、循環器科の部長と検討会を行うことで、経験した症例に関してフィードバックすることができる。平成31年度からは2年目研修医も1ヶ月の救急ローテートが必須となり、2年間に計2ヶ月の研修期間で十分な知識や技術の習得を目指す。

研修医向けの勉強会については採用当初に各科指導医によるクルズス、その後、院内では週1回の症例検討会とMGHケースカンファレンス発表会、月1回の内科症例発表会、放射線技師や薬剤師との合同勉強会を行い、また年2回程度院外から有名講師を招聘し研修医向けに講義を開催している。さらに月1回音羽病院でのGIMカンファレンス、2ヶ月に1回の西の方GIMカンファレンスに参加するなど、勉強することに対する意識を高く保てるような環境作りを心がけている。しかしながらコロナ禍においてこれらの勉強会の開催ができない事態にもなっている。

働き方改革の影響もあり慢性的なマンパワーの不足が懸念される状況ではあるが、各科の医師の協力も得てその影響を最小限に抑えるよう努力している。今後も各科の医師と連携し、救急患者の受け入れを行っていくとともに、研修医教育にも力を入れていきたいと考えている。

2021年度も新型コロナウイルス蔓延の影響を受けた一年でもあり特に発熱患者に対する対応が陰圧室の問題もあり受け入れを断らざるを得ない状況に追い込まれ、近隣の救急隊、地域住民にご迷惑をおかけしたこともありましたが。一刻も早い感染の収束とともに通常の救急診療が可能になることが望まれます。

◆実績

2021年度

1年目研修医 13名 2年目研修医 14名

救急外来受診患者数	9,210
救急搬送受け入れ患者数	3,861
救急外来からの入院患者数	3,092

◆センター長

鈴木 朗

◆概 要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症、ASOに対するLDLアフェレーシス療法、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

◆実 績

維持血液透析を47例導入しました。

維持血液透析患者13名、腹膜透析患者5名も管理されています。

2021年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	2,652	▲339
online HDF	2,218	△186
PE(血漿交換)	11	△5
DFPP	3	△3
LDLアフェレーシス	0	▲8
GCAP(顆粒球吸着)	20	±0
ICUにおける血液浄化	150	▲63

◆ひとこと

当センターは夜間、休日にも各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。(現在、新型コロナウイルス感染症のため休止しております)

◆センター長

山本克己

◆概 要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破碎術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的で開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近では、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESDは消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

◆実 績

2021年度は、内視鏡総件数が9,068件、上部消化管内視鏡検査が5,846件、下部消化管内視鏡検査が2,836件、ESD件数が217件、EMR件数が852件、ERCP件数が225件、気管支鏡件数が121件となっています。

鎮静剤使用割合が増加しており、2021年度は74.0%と、2013年の14.2%に比較し、年々増加しています。

◆センター長

上田周一（SCU 責任医師）、岩本文徳

◆概 要

【2021年度人員】

脳神経内科 4 名、脳神経外科 3 名、プライマリーケア診療部 2～3 名、看護師 19 名、専任 PT 1 名、病棟薬剤師 1 名、医療福祉相談室 7 名

脳神経内科・脳神経外科が協力し、24時間対応した脳卒中治療を行っている。

超急性期血栓溶解療法、緊急手術、超急性期血管内治療（血行再建術、コイル塞栓術）にも対応している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーション開始・早期離床を行っている。大阪脳卒中医療連携ネットワークに計画管理病院として参加。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

◆実 績

SCU平均在室日数	7.6日
SCU入室患者数	230名
内訳	
脳梗塞	167名
脳出血	39名
くも膜下出血	5名
その他	19名
脳梗塞超急性期血栓溶解療法	9名
脳梗塞超急性期血管内治療	10名
両者併用	6名
脳出血開頭血腫除去術	11名
脳動脈瘤緊急クリッピング術	5名
脳動脈瘤緊急コイル塞栓術	19名
脳梗塞開頭減圧術	3名
脳動静脈奇形塞栓術	5名
脳室ドレナージ術	10名

◆センター長

塚本文音

◆概 要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っている。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応している。

電動ベッド7台、リクライニングチェア13台が稼働。看護師4名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っている。

◆実 績

令和3年度は、外科、乳腺・内分泌外科、消化器内科、内科、眼科、泌尿器科、産婦人科、脳神経内科、整形外科が当センターを利用。

令和3年度の化学療法実施延べ件数は3,203件（月平均273件）、貯血実施延べ件数は112件（月平均9.3件）。

◆センター長

筒井建紀

◆概 要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）にも参加し、母体搬送を受け入れています。また、地域の産婦人科の先生方に妊婦検診をお願いし、分娩は当院で行う産科オープンシステムを取り入れています。合併症のある妊婦さんに対しては、内科・外科・精神科など他診療科と連携して対応しており、医学的な適応があれば無痛分娩・和痛分娩も行っています。

産科外来では、医師による外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんに利用していただいています。助産師外来は、妊婦さんのマイナートラブルなど、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応しています。

入院中の食事メニューは量・質ともに満足していただけるものとなっています。また、入院時のアメニティーも充実しています。

小児科は、院内出生を中心にNICU 6床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらには家族全体のトータルな支援を心がけています。

◆実 績

令和3年度の分娩数429件（うち帝王切開術93件、吸引分娩34件、鉗子分娩1件）で、このうち地域の医院と連携したオープンシステムによる分娩は107件でした。また、NICUの入院延患者数は774人、新入院数は107人でした。

◆部 長

佐藤善一

◆概 要

当院のICUは平成9年に循環器科創設と同時に発足した。呼吸器外科担当部長 大野喜代志先生、中村康子師長のもとで開設されたICUは平成20年（2008年）4月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。2020年度より、佐藤を含む麻酔科所属の2名の集中治療専門医体制でICUの日勤を担当し、34名のICU看護師（うち集中ケア認定看護師1名）と共に治療を行っている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU担当医、看護師とでウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）などと緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。

◆実 績（2021年度）

入室患者数	842例(男497例、女345例)
平均年齢	70歳
平均在室日数	3.5日

<診療科内訳>

心臓血管外科	123例	循環器内科	174例
外科(胸部含む)	248例	(一般)内科	14例
脳神経外科	59例	消化器内科	18例
整形外科	92例	神経内科	5例
泌尿器科	34例	呼吸器内科	48例
産婦人科	21例	糖内分泌内科	3例
形成外科	1例		
耳鼻科	0例		
皮膚科	2例		

<その他>

心肺蘇生後	19例
covid19肺炎	33例
陰圧室使用	65例

◆スタッフ（◎部長）

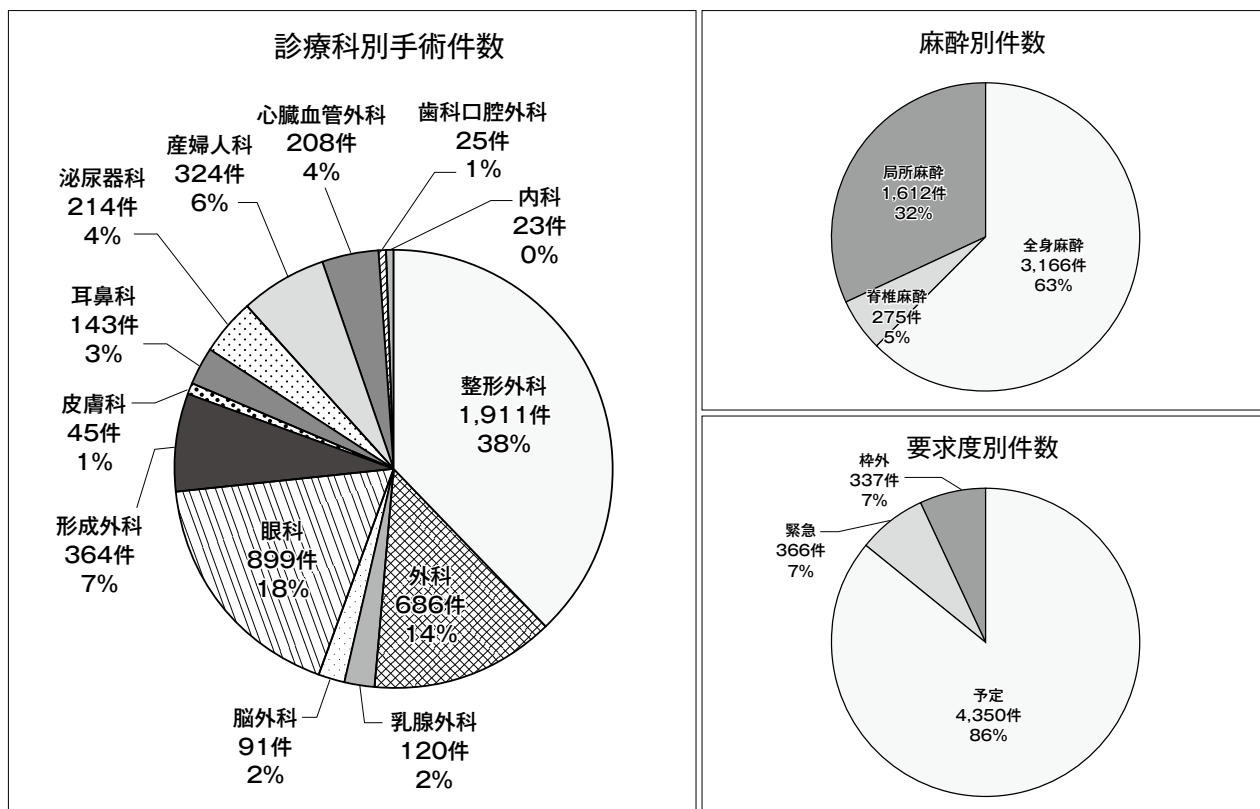
◎中谷桂治、麻醉科医師11名、（看護師長）藤原千佳、看護師35名

◆概 要

手術室は12室あり、うち4室がバイオクリーンルーム、1室はハイブリッド手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

◆実 績

2021年度総手術件数は5,053件で、整形外科が全体の38%を占め、次いで眼科18%、外科14%であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の6割を超えた。予定手術以外の枠外・緊急手術は総手術件数の14%を占め増加傾向にある。（データは各科実績）



◆スタッフ (◎部長)

◎老田 章、他薬剤師29名、薬剤助手 5名

◆概 要

2022年 3月現在、薬剤師30名 (定数30名)

薬剤部長：老田 章、副薬剤部長：中城宏子、主任：田中早紀・井上敬之・岡田理恵子・木村 仁

一般薬剤師24名 (男 6名・女18名、内育児休業 2名)

薬剤助手 5名、事務 1名、SMO 4名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算 1 …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算 2 …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算 1、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料 (ハ)

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア

学生実務実習受入施設

日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	1名
	病院薬学認定薬剤師	13名
	認定指導薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	6名
日本医療情報学会	医療情報技師	1名
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	1名
日本高血圧学会 日本循環器病予防学会	高血圧・循環器病予防療養指導士	1名
日本ACLS協会	BLS Provider	1名
日本・アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	1名
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士	2名

◆実 績

外来一般処方箋(枚)	4,663	薬剤管理指導 患者数(人)	13,333	TDM算定件数	1,464
外来注射処方箋(枚)	22,068	指導回数	18,252	採用薬品数	1,242
院外処方箋(枚)	105,332	算定件数	17,028	新規レジメン登録(件)	21
(発行率 %)	95.6	麻薬管理指導加算(件)	360	後発薬品置換率(%)	90.56
入院一般処方箋(枚)	138,138	退院時薬剤情報(件)	1,856	年間治験実施本数	18
入院注射処方箋(枚)	149,518	持参薬調査件数	8,660	新規治験契約件数	6
入院麻薬一般処方箋(枚)	1,558	持参薬調査剤数	59,812	薬剤情報提供料(件)	2,835
入院麻薬注射処方箋(枚)	6,660			疑義照会件数 (調剤室)	3,875
				(注射室)	164
院内製剤件数		無菌製剤処理算定件数	4,055	病棟薬剤業務実施加算(件)	
(一般)	79	(抗がん剤・TPN)		(一般病棟11)	24,498
(無菌製剤)	55			(SCU・ICU)	5,036
注射混合調製分取総件数	12,328	処置薬剤払出件数	9,242	医薬品安全研修(回)	1

◆スタッフ

(技師長) 高谷道和、他放射線技師32名

◆概要

現在、診療放射線技師32名、事務スタッフ7名で放射線室を運営しています。放射線室は2階に一般撮影、CT、MRIなどの診断部門、地下1階に核医学検査と放射線治療、5階に血管撮影室を配置し、1階には救急専用の撮影室があります。

我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図り専門性を高めています。また高度な放射線機器を操作し、画像や被ばく線量の管理を適切におこない、中央部門として質の高い診療機能を維持しております。さらに当施設は「医療被ばく低減施設」の認定も取得しており日々患者様の医療被曝を少しでも低減できるよう努めています。

装置一覧

装置	台数	スペック等	装置	台数	スペック等
CT	2台	64列 80列	MRI	2台	1.5T、3.0T
血管撮影装置	2台	Single、Biplane	核医学検査装置	2台	SPECT、SPECT-CT
放射線治療装置	1台	定位照射、IMRT	X線TV装置	3台	FPD
Hybrid-Angio	1台	ハイブリッド手術室	一般撮影装置	5台	FPD、CR
その他	乳房撮影装置、マンモトーム装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ				
情報システム	放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム				

2021年度に整備した放射線機器

- ① 乳房撮影装置 (マンモグラフィ) 富士フイルム AMULET Innovality

◆実績

	2019年度	2020年度	2021年度
一般撮影	132,163	119,528	126,248
乳房撮影	2,746	2,453	2,441
骨密度測定	1,745	1,731	1,859
病棟撮影	15,573	15,864	15,717
X線TV	1,730	1,662	1,685
CT	21,869	21,695	21,520
MRI	10,374	9,948	10,022
血管撮影・心カテ	1,036	867	1,003
RI	1,339	1,223	1,196
放射線治療	3,366	3,030	3,441

(件数)

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田昌子、（技師長）竹村真俊、他臨床検査技師36名、事務員2名

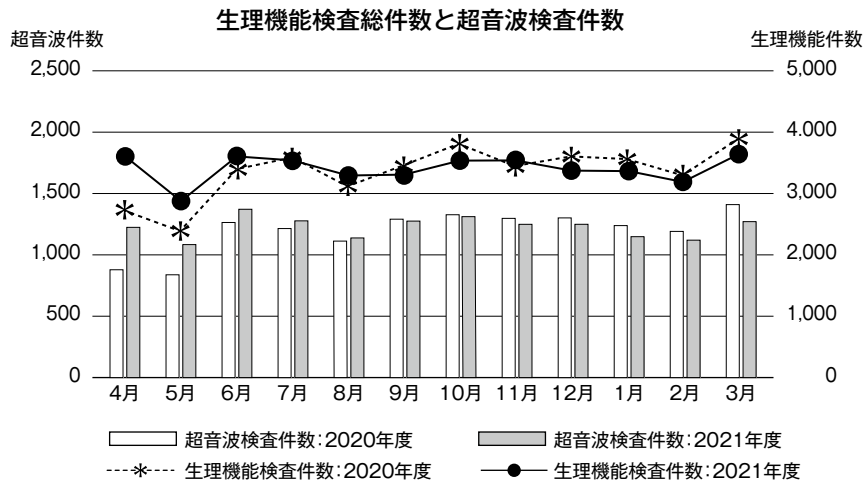
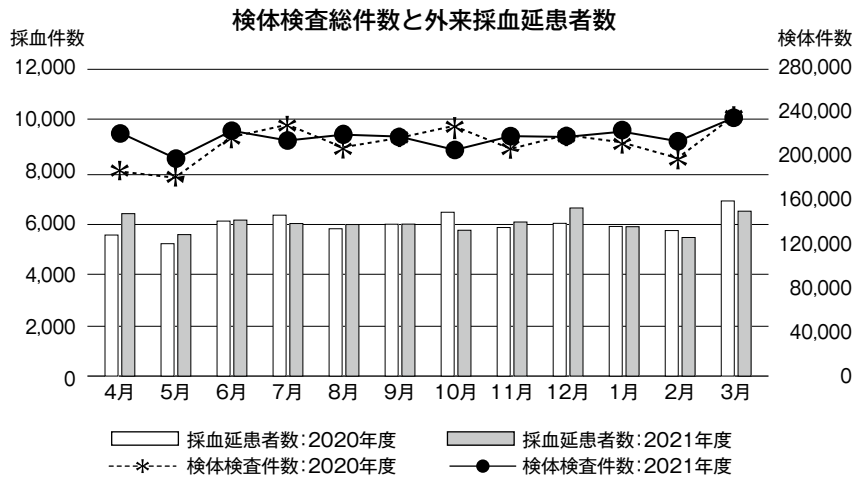
◆概要

中央検査室は医師である臨床検査科部長1名、臨床検査技師42名（非常勤5名含む）、事務員1名、検査助手2名のスタッフで構成されており、外来患者採血、血液、生化学、免疫化学、輸血管理、微生物、病理の各種検体検査および生理機能検査を行っております。

救急医療への貢献として24時間対応の緊急検査体制と、重症感染症の早期診断、医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日微生物検査日勤体制が確立しています。さらに輸血部門においては、認定輸血検査技師を複数名配置させ、輸血療法にかかわるすべての業務の一元管理が定着しています。一方、生理機能検査においては、超音波検査の拡充を目標に掲げ、超音波検査士育成をはじめとする質的向上を図っており、現在、消化器や循環器をはじめとする延べ11領域7名の超音波検査士が主に検査を担当しております。

◆実績

2021年度の月別検体検査総件数と外来採血延患者数、ならびに生理機能検査総件数と超音波検査件数について、前年度と比較し下図に示しました。



◆スタッフ

管理栄養士 6名

◆概要

2022年3月現在、病院管理栄養士 6名

患者給食部門は全面委託であり、36名の委託スタッフと協力し、患者給食の運用を行っています。

患者給食は委託であるため、管理栄養士は、栄養指導、栄養管理をメインに行っており、栄養管理並びに指導業務に力を入れています。幹部を含めた運用会議を定期的で開催し、患者給食の向上を目指しています。

前年度と同様にコロナ禍で集団栄養指導の実施は一部制限しています。心不全教室や透析予防外来継続を続け、安定した指導に取り組んでいます。

WEBを活用し糖尿病教室、腎臓病教室の集団指導にも参加しています。

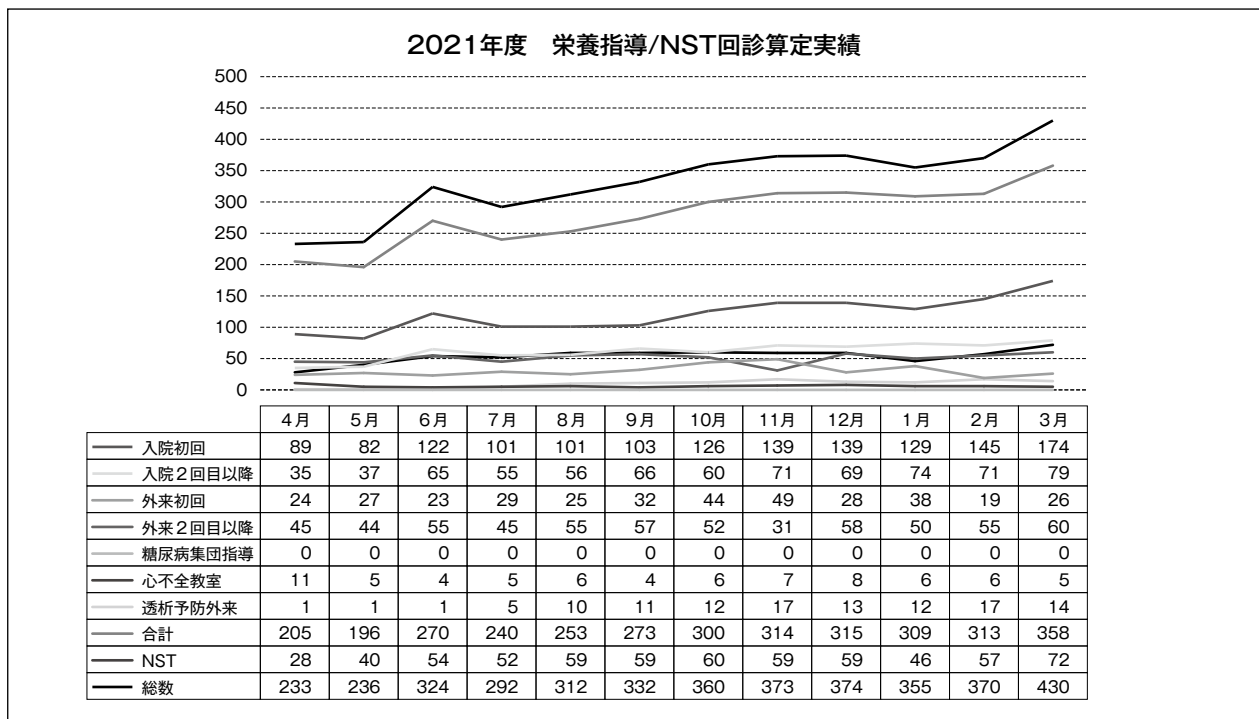
チーム医療では、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームにも参加し活動領域を広げています。

- ・糖尿病療養指導士：4名
- ・NST 専門療法士：2名
- ・がん病態栄養専門管理栄養士：2名
- ・病態栄養認定管理栄養士：1名

◆実績

業務内容の見直しを図りつつ、栄養指導実施の取り組みを強化した。2020年度実績より入院指導総件数は約1.9倍、外来指導総件数は約1.3倍と増加した。

2021年4月～2022年3月入院・外来栄養指導食種別算定実績件数



◆スタッフ

(技士長) 勝賀瀬 朗、他臨床工学技士10名

◆概要

当院の臨床工学室は、11名の臨床工学技士で組織されています(2022年3月1日現在)。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電氣的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。

2021年11月より、休日、夜間の当直体制を導入しました。緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に迅速に対応できるようになり、2022年1月からは「特定集中治療室管理料1」を算定できるようになりました。病院の運営に資するとともに、各科の先生方や看護部をはじめ各部署と協働して安心して安全な医療の提供に努めています。

◆実績

2021年度

業 務	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
ICU HD/HDF/ECUM	件	4	2	3	14	5	1	6	7	8	7	1	2	60
特殊血液浄化	件	5	0	5	7	2	0	0	4	7	4	1	4	39
(PE)	件	1	0	2	0	1	0	0	1	0	1	1	0	7
(DFPP)	件	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	6
(エンドトキシン吸着)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LDL)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(DFT)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	7
(GCAP)	件	0	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	10
(CART)	件	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	9
IABP	件	2	1	1	1	1	3	0	1	0	1	1	1	13
PCPS	件	2	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	11
人工心肺	件	3	0	4	5	5	2	2	7	2	3	3	4	40
術中自己血回収術(整形外科)	件	36	37	39	44	46	41	33	36	38	37	45	40	472
アンギオ室業務	件	100	57	78	88	76	70	66	78	81	71	107	92	964
(CAG)	件	33	16	28	30	34	30	19	32	27	26	35	36	346
(PCI)	件	24	9	15	18	11	9	8	15	11	11	27	14	172
(AoG)	件	5	5	10	6	4	2	8	3	7	5	13	8	76
(PPI)	件	4	5	7	12	1	5	7	3	7	5	9	6	71
(EPS)	件	17	11	9	12	13	12	12	13	15	12	12	14	152
(ABL)	件	17	11	9	10	13	12	12	12	14	12	11	14	147
CIEDs業務	件	74	49	53	71	43	48	85	52	56	57	31	62	681
植込み	件	5	6	6	11	7	4	7	13	6	3	9	8	85
(IPG/CRT-P)	件	4	5	6	11	5	3	6	7	6	3	8	7	71
(ICD/CRT-D)	件	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
(ILR)	件	1	1	0	0	2	0	1	6	0	0	1	0	12
外来患者	件	56	34	37	47	29	31	66	32	43	37	16	42	470
緊急等対応	件	1	0	4	1	1	5	4	1	1	5	0	4	27
MRI撮像	件	6	1	3	5	3	5	3	3	3	3	1	5	41
OP設定変更	件	1	2	1	0	1	3	2	1	2	8	3	2	26
病棟チェック	件	5	6	2	7	2	0	3	2	1	1	2	1	32
SAS検査(フルPSG)	件	1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	2	9
心拍出量測定(エスクリン)	件	5	5	3	5	0	2	1	6	8	5	2	0	42
ABPM	件	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
医療機器 点検総数	件	746	661	714	800	705	853	685	729	832	747	665	848	8,985
(定期点検)	件	24	33	73	42	236	235	43	8	41	2	47	29	813
(始業点検、回路接続確認等)	件	722	628	641	758	469	618	642	721	791	745	618	819	8,172
医療機器 修理対応総数	件	42	42	34	28	45	40	18	34	28	28	21	21	381
(院内修理/対応)	件	31	37	28	18	36	22	11	29	15	19	17	12	275
(メーカー修理依頼)	件	11	5	6	10	9	18	7	5	13	9	4	9	106

◆スタッフ

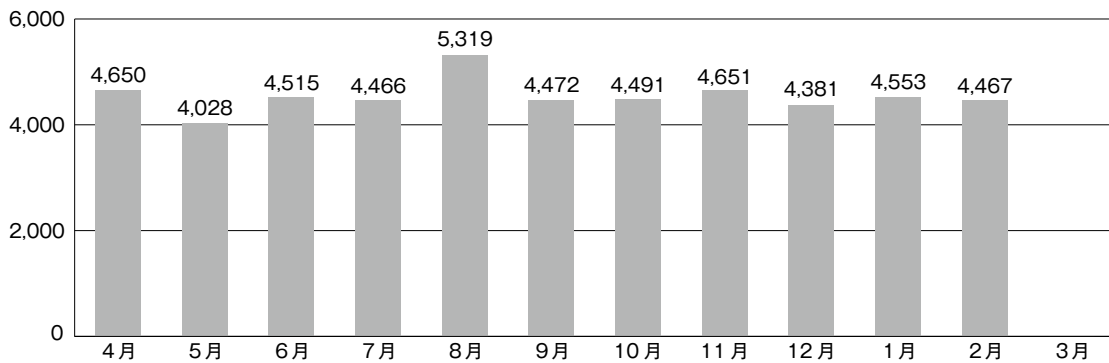
(看護師長) 藤原千佳

◆概要

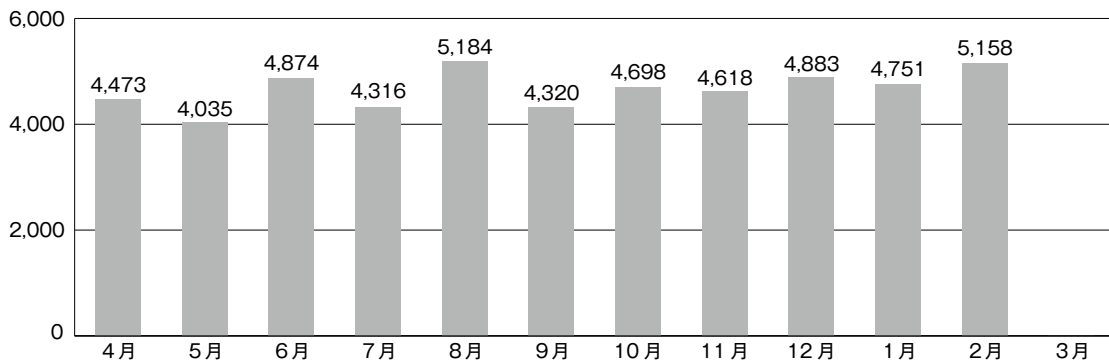
中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

◆実績

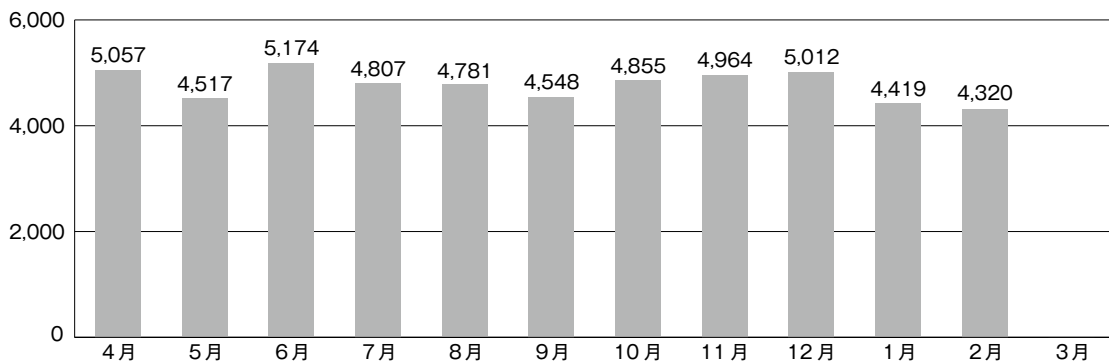
手術室への滅菌物払出数



病棟への滅菌物払出数



外来への滅菌物払出数



◆スタッフ

(部長) 畑中信良、(室長) 三村麻紀子、他看護師11名、医療社会福祉士5名、事務6名

◆地域連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携バスの管理、広報活動などをおこなっている。

その他、大阪府がん診療拠点病院として、がん診療地域連携バスを採用、また脳卒中、大腿骨頸部骨折の地域連携バスも採用している。普及、利用拡大に向け努力し、地域医療機関の先生方と情報共有をおこない、協力して患者さんの治療にあたっている。

COVID-19の流行にともない、通常診療・検査の予約に関しては減少した時期もあったが、発熱を含めた救急紹介患者は増加し、その受入れには看護師、MSWを配置、各診療科、救急部と密に連携を図り、スムーズな受入れに努めた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2020年度
診療予約受付件数	1,117	952	1,183	1,150	991	1,074	1,119	1,243	1,094	1,034	915	1,294	13,166	10,706
救急/入院相談受付件数	184	99	155	152	137	139	129	163	138	183	208	195	1,882	1,048
検査申込受付件数	77	62	78	90	56	79	98	86	75	54	64	93	912	764

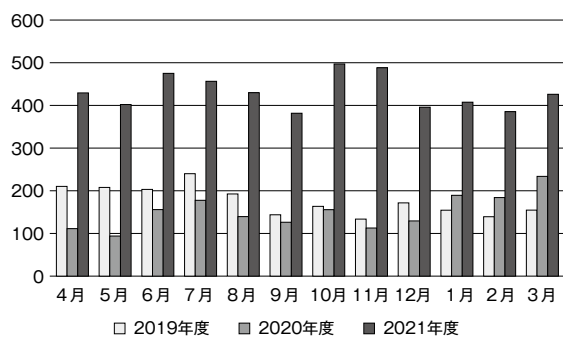
◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

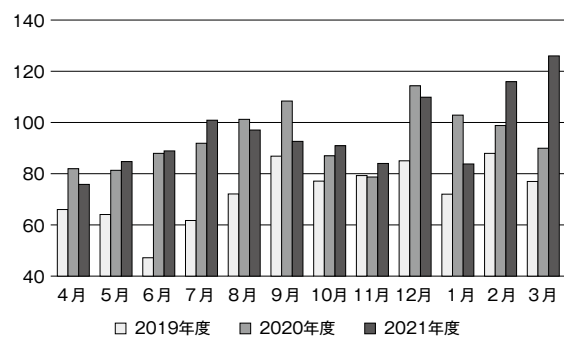
入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるよう入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2020年度
入院時支援件数	431	402	476	458	431	384	498	490	397	408	387	427	5,189	1,824
退院調整件数	123	85	89	101	102	113	91	84	112	82	116	126	1,224	876
医療福祉相談件数	120	133	148	149	159	133	130	148	135	336	147	166	1,904	1,265
入院時支援加算算定件数	302	343	399	380	370	336	351	350	360	343	367	456	4,587	1,727
入退院支援加算算定件数	693	654	729	764	777	719	749	697	830	666	735	921	9,534	6,852

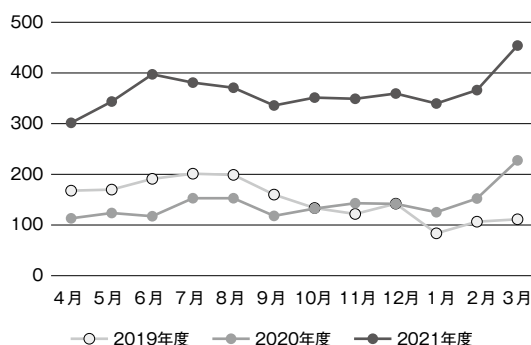
入院支援 実施件数



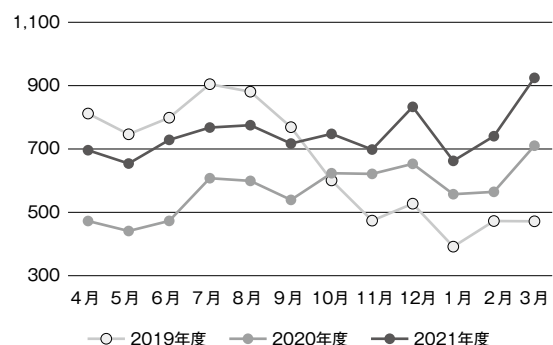
退院調整件数



入院時支援加算 算定件数



入退院支援加算 1 算定件数



◆スタッフ

看護部長：谷岡美佐枝、副看護部長：岩田富美、中野美佳、村上博美、他部署配置表の通り

◆看護部の理念

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

◆2021年度 看護部重点目標及び評価

目標1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行う

⇒経常収支は、COVID-19空床補助により黒字計上できた。救急受け入れのシステム改善から受け入れ患者数の増加、手術件数の増加により、入院単価を上げることができた。しかし、患者数の増数、稼働率向上にはつながらず、自力収支は6億5千万円の赤字で終わった。

目標2. 学び・育て合う教育体制を再認識し、自律した看護を実践できる人材を育成する

・急性期看護実践者の育成

1) 教育方針見直しを行い、効果的にOJTと連動できる教育体制の再構築と教育・指導を行う側の育成（教育委員・臨床現場・附属看護専門学校教員共に）

⇒教育方針の見直しおよび教育計画の再構築は実施できたが、1年を要したため、現場の教育立案がスムーズに展開できずに影響を及ぼした。効果的なOJTの評価はできていない。教育・指導を行う側の育成には至っていない。

2) 看護管理者を育成するための教育計画の実施と評価を行う

⇒副看護師長登用試験合格者9名。認定看護管理者に副看護部長1名が合格。看護管理者の育成は、WEBや一部ワーキングによる勉強会等行ったが、仕組みや構造には至っていない。

3) チーム医療の要となるCNS/CNの看護実践能力向上に向けた取り組みと次なるスペシャリストの育成

⇒人材育成として院内スペシャリスト留学の開催。今年度、認知症ケア認定看護師1名合格。がん化学療法1名、摂食嚥下認定看護師1名が研修修了。

4) 特定行為研修修了者を活かす取組と次なる研修修了者の育成

⇒研修修了者2名以上；領域修了・認定1名、区分修了・認定2名。NP1名採用

5) 看護研究の支援と取り組みを継続する

⇒研究発表8題以上；9題エントリー（うち4題は学会延期のため未発表）

6) 看護実践能力向上に向けた教育展開の継続

⇒構造として、教育委員会を運営会議による企画・指揮命令機関を設定し、下部組織として継続・新人看護師・学生教育委員会を設置し、臨床・実習の教育を再考した。過程として実践向上につながる教育展開そして成果を評価することは次年度以降の課題である。

7) ラダー別看護補助者の教育展開

⇒4月～2月において、採用者数は看護補助者33名、クラーク20名、退職者数は看護補助者23名、クラーク16名であった。看護補助者が定着しないことから、教育体制を工夫してきたが、派遣採用者の働き方に対する価値観の多様性を受け入れた調整が必要となった。看護補助者の組織をマトリックス組織を用いた管理体制にし、看護補助業務のセグメント化を行った。ラダーに応じた業務役割

容を明確にした。定着に向けて継続して教育計画等も含めて取り組んでいくことが課題。

目標3. 看護の質向上に関する取り組みを行う患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う

1) 看護の質向上に向けて、構造評価のBasicへの取り組みを実施する

⇒今年度は構造だけを評価するのではなく、事例を通して質評価を試みた。

結果、ベーシックの重要性、共通認識はできたと評価する。アウトカムの公表までは至っていない。

2) 看護の患者満足度調査の継続と改善；接遇・食事関連の満足度向上

⇒委託業者変働きかけ（味・盛り付け・食材の改善）、食器の改善にまでは至った。接遇研修実施できず、身だしなみチェック・標語による意識付けは行った。

3) 診療報酬関連データを共有し、評価・対策の構築

⇒経営コンサルとの検討を行い改善策の検討を行い、3,500万円の増収と介入の質検討につながった。医事課の参画が課題。

4) 看護の質を高めるために看看連携を強化する

⇒地域との連携は、COVID-19感染症によって開催できなかった。

5) 患者を尊重した意思決定支援ができる体制を構築する・ACP・多職種チーム

⇒ACPに関しては体制構築には至らなかった。ACP意思決定支援を提供できる体制整備に向け、昨年引き続き多職種チームで研修参加するため、次年度目標達成にのぞむ。

6) DELTAを活用し、せん妄の予防を行う取組を行う；評価対象率100%

⇒せん妄ハイリスクケア加算件数は増加した。しかし、入院支援センターで情報が病棟に繋がっていないケースがある。せん妄患者が増加している中、入院早期から適切な入院環境の調整をすることの必要性をさらに周知し取り組む必要がある。

7) 看護部倫理委員会、臨床倫理コンサルテーションを活用した倫理検討を行う

⇒看護部倫理委員会は開催なし。臨床倫理委員会及び倫理コンサルテーションチームを昨年度立ち上げ、2020年度は5件、2021年度は10件倫理コンサルがあり、検討会を実施。

8) ヒヤリハット報告（障害レベル0-1）からSafety- IIに向けた安全対策立案・実施、業務改善に取り組む

薬剤に関するインシデント減少（10%減）

⇒Safety- II・レジリエンス力を高めるため、講演会や看護師への研修では講義内容等に盛り込んで実施。行動に落とし込めるまでは至っていないと考えるが、イメージは付きつつあるとは考える。薬剤に関するインシデントは、薬剤関連インシデント報告数は昨年度と比較して72件（7%）の減は図れた。

9) COVID-19感染管理の継続と安心した療養生活の保障

⇒第4波は重症者が多く、病棟での呼吸器管理が必要となった患者が複数名いた。また、第6波はベースの疾患の治療を必要とする患者や高齢者・認知症・寝たきり患者が多かった。13階東のスタッフへの呼吸器管理の研修実施、高齢者見守りのためのカメラや、情報共有しやすくするためのインカムの導入などハード面と共に、療養上の世話のための副看護部長以下師長も含めた日々の応援態勢など対応を行った。入院生活の案内パンフレットを作成し入院患者へ配布、リモート面会や予後不良患者の直接面会などを実施。アンケートを実施し、概ね4（やや満足）～5（満足）の回答を得ている。

10) 産後ケア事業の導入

⇒産後ケア事業が6月に導入された：27名、のべ32回利用（2～7日/名、のべ利用日数146日）

目標4. 職員一人ひとりが健康で働きやすい職場づくりを行う

1) 安全で効率的な働き方を構築するために業務改善を行う

・IT、IoTを駆使し、各種データの集約・一元化

⇒IT化は進捗なし。外来でのPCを利用した問診システムの導入に向けて検討を行ったが、電子カルテとの連動が不十分であり保留状態。各種データの集約、一元化はできなかった。

・次期電子カルテ更新に向けた考案

⇒デモンストレーション実施による比較を行っていたが、コロナ第6派により一時活動が中断している。継続して更新に向けて準備を進める必要がある。先を見据えて更新していく必要があると考える。

・タスクシフトへの取組み

⇒看護助手の体制整備。薬剤師による麻薬返納業務開始。

2) HWPに応じた多様な勤務体制・業務内容の採用、新勤務体制の導入を行い、子育て支援者の夜勤勤務者が増数する

⇒多職種との話し合いにおいて、業務の押し付け合いになってしまう印象があり進めることが難しかった。

副看護師長会でのGWでは、常に「患者に良い医療を提供するために」に立ち戻り、看護師のHWPではなく、病院職員のHWPになるよう活動を進めた。この活動を通して、日常の業務におけるコミュニケーションが円滑でないことが明確になった。12時間夜勤の試行を10階東病棟で実施。評価としては子育て支援の夜勤勤務者からは、肯定的な意見が聞かれたが、1回の試行のみで全部署への拡大、夜勤勤務者の増数には至らなかった。

3) 部署を超えた応援体制、部署連携の再構築

⇒部署を超えた応援態勢は日々の応援や13階東への応援勤務者の計画的配置が実施された。

4) 有給休暇・時間外勤務の適性管理

⇒有休：9.7日/人 時間外勤務：1月までの集計では6.4時間と目標達成。

5) スタッフのメンタルヘルスサポートの強化

⇒メンタルサポートの窓口の紹介、公認心理士への相談手段は確立できた。しかし、体調不良や転職数による離職が増加し、対応策の構築が必要。次年度、リエゾンチームを発足予定。

目標5. 地域支援病院として保健医療福祉活動を拡充する

⇒WEBを通じて保健福祉活動は積極的に実施できた。

	月日	分野	教室・講演会名	方法	対象	参加人数	備考
1	10月1日～10月31日	がん	ピンクリボンキャンペーン	オープンキャンパス	地域住民	20	10月17日乳がん検診
2	5月11日	がん	「がんについて知ろう」	オープンキャンパス	地域住民		
3	7月1日～7月9日	がん	「がんになってもあきらめない、父親になること、母親になること」	オープンキャンパス	地域住民		
4	7月13日～7月30日	がん	「思いを伝えよう」	がんサロン	患者・妊産婦		
5	10月25日～11月5日	がん	「がんと栄養」	オープンキャンパス	地域住民		
6	8月22日	がん	アピアランスケア	がんサロン	患者・妊産婦		
7	1月17日～1月28日	がん	大腸がん	オープンキャンパス	患者・妊産婦		
8	10月29日	脳卒中	「脳卒中デー」	オープンキャンパス	患者・妊産婦		

	月 日	分野	教室・講演会名	方 法	対 象	参加人数	備 考
9	6月28日・29日	褥瘡	「褥瘡予防とフットケア」	オープンキャンパス	患者・医療従事者	13	
10				YouTube	患者・医療従事者	65	
11	9月1日～9月30日	腎臓	「腎臓病をあっかささないために」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民	48	
12	10月1日～10月31日	腎臓	「食事療法について」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民	18	
13	11月1日～11月30日	腎臓	「透析療法について」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民	11	
14	12月1日～1月3日	腎臓	「食事療法について2回目」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民	21	
15	1月4日～1月31日	腎臓	「腎臓病と薬」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民	16	
16	2月1日～2月28日	腎臓	「腎臓病と検査」	YouTube	患者・医療従事者・地域住民		
17		周産期	マタニティクラス妊娠編	Webex	患者・妊産婦	85	21回開催
18		周産期	マタニティクラス育児編	Webex	患者・妊産婦	146	20回開催
19		周産期	マタニティクラス分娩編	Webex	患者・妊産婦	175	26回開催
20		周産期	病院見学ツアー	Webex	患者・妊産婦	17	5回開催
21		小児	赤ちゃんがきた	Zoom	地域住民	86	16回開催
22	9月	救急	救急医療情報交換会・勉強会	勉強会・情報交換会	その他	7	福島救急隊・海老江救急隊

◆各部署の責任者

看護部長	谷 岡 美佐枝		
副看護部長	岩 田 富 美 村 上 博 美 中 野 美 佳		
所 属	看護師長	所 属	看護師長
教育担当	谷 口 智 子	10階西病棟	狩 野 智 恵
がん担当	土 岐 昌 世	11階東病棟	遠 藤 聖 美
看護外来担当	清 水 加 世 子	11階西病棟	長 辻 玲 子
看護ケア推進室	志 方 優 子	12階東病棟	杉 佳 子
ICU	中 村 明 美	12階西病棟	北 由 美
8階東病棟	浦 上 友 江	13階東病棟	玉 置 ひろみ
NICU	浦 上 友 江(兼任)	13階西病棟	玉 置 ひろみ(兼任)
8階西病棟	中 筋 葉 子	外来(一般診療)	鈴 木 志 帆
8階南病棟	今 井 康 乃	外来(治療検査)	福 永 花 子
9階東病棟	田 中 真 由 美	手術室	藤 原 千 佳
SCU	森 本 結 美	血液浄化センター	酒 井 圭 子
9階西病棟	草 場 奈 緒	医療安全管理室	堀 美 和 子
10階東病棟	東 城 夏 恵	医療福祉相談室	三 村 麻 紀 子

◆看護部の委員会の活動状況

各種会議・委員会名	委員 長	各種会議・委員会名	委員 長
看護師長会	谷 岡 美佐枝	記録委員会	遠 藤 聖 美
副看護師長会	谷 岡 美佐枝	看護サービス委員会	狩 野 智 恵
教育運営会議	中 野 美 佳	安全管理委員会	田 中 真 由 美
看護ケア推進会議	志 方 優 子	看護部倫理委員会	東 城 夏 恵
看護の質評価委員会	中 野 美 佳	がん看護運営委員会	土 岐 昌 世
教育委員会 (新人・継続・実習指導者)	谷 口 智 子	看護部審査会 (研究審査・ラダー審査)	中 野 美 佳

1. 看護師長会

看護部の最高決定機関として位置付けている。COVID-19の感染拡大の中、2040年を見据えた業務改革についても検討し、医療・看護の質を向上するためにタブレットを活用した患者・家族の面会や応援体制の構築、教育体制の再構築、看護補助者の活用推進等、様々な業務改革に取り組んだ。

2. 副看護師長会

生き活きと働き続けることができる職場づくりを継承するために、日本看護協会が提唱しているHealthyWork Placeに参画し、4つのWG(①勤務体制 ②魅力ある職場 ③若手看護師の対応 ④業務改善)として取り組み3年目を迎えた。活動の成果を主任看護師Style「JCHO大阪病院におけるヘルシーワークプレイスの取り組み」として執筆した。

3. 教育運営会議

看護部の教育理念の実現を目指し、教育計画の企画・運営と看護の質向上を図ることを目的に、今年度新たに設置された会議である。本会議では、附属看護専門学校も含んだ体制としたことが特徴の一つである。今年度は、教育理念や教育目的・教育目標の再検討から取り組んだ。さらに、「看護継続教育」「新人看護師教育」「看護学生教育」について、教育計画を全面的に見直し、教育方法の検討も行った。

4. 看護ケア推進会議

教育活動として、各専門分野のスペシャリストが研修企画し講義を実施した。OJTを強化するために院内スペシャリスト留学を企画した。スタッフがスペシャリストに同行し、アセスメントや実践を共有する機会を作った。また、オープンキャンパスに取り組み、疾患や治療・健康増進について広報活動を行った。

5. 看護の質評価委員会

2020年度の構造評価の結果から、構造・過程・結果の評価を個々に評価するだけでは看護の質の評価としては不十分であると考えた。Basicが基本であることを共通認識し、看護の質を可視化するための検討を行った。結果から過程をみる・結果から過程をみる双方向が必要であることを再認識し、アウトカムについて検討を行った。今年度は症例を用いて質評価を実施した。部署に特徴的な症例で評価することで、部署のケアの改善につながった。

6. 教育委員会（継続教育）

教育計画全体の再構築を行い、現場のニーズに繋がる継続教育計画について検討を重ね実施した。また、OFF-JTがOJTに効果的に連動できる体制として、委員の役割を部署内のOJTを中心にした教育支援とし、実施後は委員を通して受講者の反応や学びの活用状況を積極的に吸い上げ、次年度に繋がるニーズや課題を明確にした。今年度、教育の基盤として経験学習理論を活用していくことを発信していたが、実際には十分な浸透には至っておらず継続した取り組みが必要である。

7. 教育委員会（新人教育）

教育計画全体の再構築によりローテーション研修をはじめ、すべての新人看護師教育計画についても見直し実施した。特にコロナ渦の背景を考慮し、看護技術研修を多く取り入れ、OJTでのサポートを行った。また、メンタルヘルス研修の導入や研修生同士の交流の機会を大切にしながら精神面のサポートを強化するとともに、委員会においては情報共有しながら指導方法の検討を行った。次年度は、今年度の評価に基づく研修の実施と委員の指導力向上をはかっていくことが課題である。

8. 教育委員会（実習指導者）

今年度委員会を立ち上げ、看護部と附属看護学校が同じ理念のもと学生を育成していく方針や人材育成に対する課題について共通認識を図った。また、経験学習理論を基盤にした教育を目指し、委員自身が理解を深め部署での実践モデルとなれることを目標にリフレクションを学ぶ機会を多く持った。この取り組みは、委員自身の学生に対する捉え方や実習指導に対する思いの変化など指導観に繋がる学びになった。今後、効果的な実習を展開するためには、委員が役割モデルとなり委員会での学びを部署で浸透させていくことが課題である。

9. 看護記録委員会

看護過程監査を前期と後期で2回実施した。後期は監査の過程をグループワークし、課題の抽出と対策を立案した。また、改定後の看護情報提供書の評価を行った。前年度から引き続き、電子カルテの看護支援システムの定型文・テンプレートの周知と効果的に利用できるように見直しと作成を行い、看護記録の標準化と記録時間の短縮に向けた取り組みを行った。

10. 看護サービス委員会

2021年度看護部業務委員会より、看護サービスを重点的に改善する委員会へと変更となった。主に入院患者の退院時アンケートから改善点を抽出し、医事課との連携や入院環境の改善に取り組んだ。また、接遇についてはマニュアルの周知・標語の掲示・他者チェック等を行った。しかし、接遇については行動変容までには至らず今後も取り組みが必要である。

11. 安全管理委員会

Safety-Ⅱの考えに基づいてヒヤリハット事例報告を提示し対策を共有した。これによりリンクナーズにはSafety-Ⅱの考えが浸透されつつある。薬剤部との定期的な検討会を開催し、連携を図っている。何度も検討を重ねることでインシデント減少に向けた取り組みができた。

12. 看護部倫理委員会

2021年度より不定期開催へ変更した。変更の目的は、看護師が医療現場で直面した様々な臨床倫理上の問題（患者診療・ケアにおける倫理問題等）について相談を受けた際に、タイムリーに対応できるよう開催し、委員会で検討し、その結果を踏まえ看護師へ助言するためである。

13. がん看護運営委員会

今年度は①質の高い看護サービスの提供体制の整備、②がん看護関連スペシャリストを目指すスタッフの発掘と研修参加支援、③がん看護教育のニーズを明らかにし、教育委員会への提案、④委員が能動的にがん看護の知識の向上を図ることを目標に活動した。特に、患者に対してがんの向き合い方、がん治療や療養生活に関する情報提供を行い、患者自身のコーピング能力を高めるために、オープンキャンパスやがんサロンの体制を整え、継続的に開催することができた。

14. 看護部審査会（研究審査・ラダー審査）

研究審査は（回覧審査も含め）11回開催し、看護研究や看護実践報告について倫理的視点での審査を実施した。内部審査は7件、外部審査は57件であった。ラダー審査は3回開催し、書類審査およびラダーⅣへの昇段審査では面接審査も実施した。加えて、今年度は降段審査も実施した。ナラティブレポートについては記述が不十分で再審査となる例がみられており、教育・指導的視点での検討が必要であることが明らかとなった。

◆ワーキンググループの活動状況

各種会議・委員会名	委員長	各種会議・委員会名	委員長
感染予防実行委員会	小井里香	栄養管理実行委員会	吉田文子
褥瘡対策実行委員会	清水加世子	緩和ケア実行委員会	志方優子
入退院支援実行委員会	三村麻紀子	認知症ケア実行委員会	倉智純子

1. 感染予防実行委員会

COVID-19流行下でも標準予防策の強化を目的に手指衛生の向上に取り組んだ。リンクナースが各部署での取り組みを毎月会議内で活動の進捗状況と悩みを発表し合い、良い取り組みを共有した。中でも実際に手指や環境の培養や蛍光剤を用いた可視化の取り組みは研修をはじめ手指衛生を勧める上で効果があった。平時から標準予防策の徹底は院内感染対策には重要であり手指衛生への取り組みは継続して実施していく。

2. 褥瘡対策実行委員会

委員会で基本のポジショニングのチェックリストを作成し、各部署でOJTに取り組んだ。褥瘡発生状況と対策を共有し、それぞれの部署に発信することで褥瘡対策につなげることができた。また、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）、スキンケア予防についての意識が高まり、患者の個別性にあわせて予防ケアを立案し実践できるようになってきている。患者に関わる部署間で患者のリスクを共有し、病院全体で予防対策に取り組むことが課題である。

3. 入退院支援実行委員会

患者・家族が安心して療養生活を送ることができるよう、部署全体が統一した支援を実践できることを目標に活動した。診療報酬の改訂を含め入退院支援過程の理解を深め、各部署の課題を明確化し活動できた。また、事例検討を通して入退院支援における意思決定支援について討議、多職種を巻き込みながら支援する重要性を再認識し、課題を明確化できた。コロナ禍の面会制限が続く中、ICTを活用した連携については十分とは言えず、引き続き実施できるよう取り組みを継続する必要がある。

4. 栄養管理実行委員会

患者の全体像を捉え、栄養管理が必要な患者に対し、早期から看護ケアを提供できることを目標に活動を行った。栄養管理に関する問題点や課題について共有し、改善に向け検討、各部署の取り組みも共有した。各部署の栄養介入が必要な患者、摂食機能療法対象者の抽出をリンクナースが中心となり実施し、対象者に対する栄養管理に努め活動することができた。

5. 緩和ケア実行委員会

緩和ケアの普及のために各部署のリンクナースへ症状アセスメント、倫理的な問題、コミュニケーション技法などについてミニレクチャーを実施。また、実践力を養うために、臨床でよく遭遇する場面を設定し、ロールプレイを実施することで、患者・家族へ実践できたという声が聴かれた。

6. 認知症ケア実行委員会

認知症ケア実行委員会では、認知症や認知機能低下のある患者様が、自身の能力を最大限に発揮しながら、安全で適切な治療が受けられるよう認知症看護実践能力の向上を目指すことを目的に活動を行っている。令和3年度は、6事例を通して認知症の看護実践を検討した。また、せん妄症状に対し、入院時にせん妄リスクアセスメントを実施している。委員会メンバーの活動により、入院時のアセスメント実施率は90%以上で推移している。

◆大阪病院における看護評価（構造評価）

1. 評価期間 2021年11月29日（月）～12月24日（金）
2. 評価対象 13病棟、ICU、SCU、NICU、手術室、血液浄化センター、外来（一般・治療）
3. 評価者 看護部長、副看護部長、看護の質評価委員（部署評価を受けない委員）
4. 評価方法 JCHO本部より配信された、構造評価ツール追加修正版を使用して実施
各部署の看護師長・副看護師長による自己評価後、評価者による現場視察と面接により評価した。
症例を用いてプロセスを評価し、アウトカムは部署のアウトカムとした。

5. 結果と考察

1) 基本事項

患者の権利に関する項目が全体的に低い。意思決定支援に関する項目が低い。

患者が十分理解納得できるまで、患者の話を聞き医師とも話し合い、説明を行うことが重要である。

2) 安全に関する事項

「マニュアルが活用された実践」に関して、低い結果となった。

忙しさや時間の短縮を理由にマニュアル通りの行動がとれていないのが現状である。

日々の看護の中でスタッフが基本に忠実に、安全な看護を提供できているのか、管理者は個々の能力を把握し支援につなげることが課題である。

3) 看護ケアに関する事項

師長・副師長の患者の巡回や、ケアへの指導助言の項目が低い。

カンファレンスなどを実施はしているが、看護についてディスカッションが不十分なことが考えられる。

4) 教育・研修に関する事項

看護部の目標に沿った教育目標の設定が低い。

今年度は教育に関する取り組みが遅くなったため、その影響も考えられる。

また、個人の能力開発に関しての取り組みが課題である。

◆教育全般

1) クリニカルラダー別割合

ラダー	2021年度
I	13%
II	31%
III	35%
IV	18%
V	3%

<資格取得者・長期研修修了者数>

2022年3月末現在

専門看護師	1	認定看護管理者	2
認定看護師	13	サードレベル修了者	2
診療看護師	1	セカンドレベル修了者	16
特定行為研修修了者	10	ファーストレベル修了者	30

<院内研修>

新採用者研修プログラム

今年度、4月の新人は58名であった。新人看護職員研修として、以下11研修、コアレクチャーとして12研修を計画実施した。コロナ禍で臨地実習ができていない新採用者に対し、新採用時研修では事例に基づいた研修とし、看護技術研修の時間も増加した。新人看護師にとっては、安心して配置部署に臨める機会となった。

研 修 名		研 修 名
新採用時研修		看護倫理Ⅰ
3ヶ月研修		看護過程Ⅰ
6ヶ月研修		看護記録
9か月研修		救急看護Ⅰ
1年目研修		重症度、医療・看護必要度研修
ローテーション研修		周手術期Ⅰ
入職前レクチャー	呼吸状態の観察	救急看護Ⅰ
	心臓の解剖と心電図	高齢者・認知症看護Ⅰ
	循環動態の観察	感染Ⅰ
	脳神経症状の観察	スキンケアⅠ
	輸液管理	摂食嚥下障害看護Ⅰ
		がん看護Ⅰ
新人看護師一人あたりの研修合計時間 225.45時間 49名が受講を修了した		

■クリニカルリーダー別教育計画

研 修 名	受講者数	研 修 名	受講者数
看護倫理 Step1	20	新人看護職員実地指導者研修 PartⅠ	12
看護倫理 Step2	19	新人看護職員教育担当者研修 PartⅠ	12
リーダーシップⅠ	80	感染管理Ⅱ	21
リーダーシップⅡ Step1	52	感染管理Ⅲ	7
フィジカルアセスメントⅡ	24	スキンケアⅡ	38
救急看護Ⅱ	25	スキンケアⅢ	8
在宅療養支援Ⅱ	21	がん看護Ⅱ	16
在宅療養支援Ⅲ(講義編)	9	高齢者・認知症看護Ⅱ	23
2年目看護師メンタルヘルス	42	リフレクション(自己)	20
プリセプターシップ	20		

(看護師長) 志方優子、看護師 1名

◆重点目標

1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院としての効果的な病床運営を行う

- 1) がん患者指導管理料イ・ロ、緩和ケア診療加算などがん医療関連の診療報酬に更につながる方法を検討する。
- 2) 適切な感染予防対策ができるように支援する。

2. 患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う

- 1) がん看護外来の拡充を検討する。
- 2) 現場の倫理問題に気づき、問題を明確化し、解決に至るプロセスを他部門間で共有していく。

◆実績

看護外来を実施するなかで入院、外来、地域での継続的に看護が出来た。その影響で緩和ケア診療加算・がん患者指導管理料イ・ロの件数は増加した。院内の倫理コンサルテーションチームと協働するなど、倫理的視点をもった意思決定支援が出来る体制が整ってきたと考える。

(看護師長) 中村明美、看護師27名 12床

◆重点目標と実績

ICUは全室個室12床を有しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。患者ニーズに対応できるように、2022年1月から臨床工学技士の協力を得て、特定集中治療室加算3から1に変更した。

今年度も効果的な病床運営を行い、病床利用率向上を目標とした。しかし、COVID19患者対応により病床数を制限せざるをえない状況があった。その中でも、術後リカバリー患者の円滑な受け入れを目指し、クリティカルパスの活用などの体制づくりを行った。また、患者のアウトカムに貢献する加算取得に向けた取り組みとして、早期離床リハビリテーション加算取得に向けて、フローを作成し6月から導入した。その結果、12月末までの加算件数375件という成果を得た。

(看護師長) 浦上友江、助産師31名、看護師10名 産婦人科：20床 小児科：6床

◆重点目標と実績

8階東病棟とNICUは“母子医療センター”として産科医、小児科医、助産師、看護師が常に連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

分娩件数は、平均36件/月、429件/年であり、前年度と比較して約30件の減少となった。今後は平均50件/月の分娩数確保を目指して、無痛分娩や遺伝相談外来に取り組んでいくことが課題である。分娩件数の減少に加えて、NICUのべ入院患者数も774名と、前年度より約200名減少した。引き続き2,000g未満の低出生体重児や34週台の早産児などの受け入れを積極的に行っていくことが今後の課題である。

(看護師長) 中筋葉子、看護師10名 小児科：22床

◆重点目標と実績

8階西病棟は小児病棟であり、小児入院医療管理料2を取得している。15歳未満の小児患者を24時間受け入れることが出来るよう体制を整え、病床運営を行った。小児科特有の急性感染症(呼吸器感染症、胃腸炎など)の患者が約半数を占めており、内分泌・骨代謝疾患の他、整形外科疾患、耳鼻科疾患など多岐にわたっていた。今年度も引き続きCOVID-19感染拡大により面会制限が実施されたが、当病棟では12歳未満の患児に限定して育児や精神的安寧のために、感染予防対策を徹底したうえで付き添いを可能とした。また患児だけでなく、付き添いの親に対しても精神面のケアも行い疲労緩和に努めた。面会制限が行われる中でも季節の飾りつけを保育士主導のもと実施し、季節感を感じてもらい、患児、付き添いの親への精神的安寧を行った。

8階南病棟

(看護師長) 今井康乃、看護師20名 産婦人科・乳腺内分泌外科・内科共通・外科共通：42床

◆重点目標と実績

当病棟は産婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性病棟である。2021年度1日平均入院患者数は29.4人、稼働率は69.5%。緊急入院が多く、月平均新入院患者118.1名の28%を占めた。

診療科別入院患者割合は、産婦人科27%、乳腺外科27%、消化器内科17%、内科12%、その他診療科17%であった。年代別では15歳以上～98歳まで幅広く、発達段階の割合は青年期・成人期15%、壮年期46%、老年期39%であった。

あらゆる年代の女性患者が安心して入院できるような療養環境にするために、今年度は五感に働きかけることをテーマに、患者さんの癒やしに繋がる環境作りに取り組んだ。

9階東病棟

(看護師長) 田中真由美、看護師24名 脳神経外科・脳神経内科・消化器内科：39床

◆重点目標と実績

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科の混合病棟である。入院患者の半数以上は脳卒中の患者でSCUでの急性期治療を受けた後の転入となっている。様々な入院目的の患者に対し、安心、安全な医療・看護が提供できるよう多職種で連携しながら介入を行った。また、脳神経疾患の専門病棟として、様々な機能障害を発症した患者に生活の再構築を見据えた機能回復への援助や家族を含めた再発予防に対する指導の充実に努めた。

今年度は、世界脳卒中Dayに合わせてオープンキャンパスを実施した。初めての開催でもあり、1日だけとなってしまった。他のオープンキャンパスとの調整を行い、一定期間の開催ができるように事前の広報も含めて検討していく。

SCU(脳卒中ケアユニット)

(看護師長) 森本結美、看護師18名 脳神経外科・脳神経内科：9病床

◆重点目標と実績

脳卒中ケアユニットでは全室個室9床での運営で急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症早期から医師、看護師、多職種と協働し、脳卒中急性期患者の回復促進を図っている。今年度疾患割合は脳梗塞71%、脳出血18%、くも膜下出血4%、その他7%であった。

1. 地域医療支援病院として、患者のスムーズな受け入れと効果的な病床運営を行う

2020年から脳卒中ホットラインの開始に伴い、9階東病棟、医師と共に効果的でスムーズな受け入れができるようにベッドコントロールの強化を行った。2021年度の直入患者は350名と維持している。

9階西病棟

(看護師長) 草場奈緒、看護師28名 循環器内科・心臓血管外科・消化器内科：45床

◆重点目標と実績

1. 1日平均入院患者37名、病床稼働率83%以上を維持する

5月～7月、10月、12月の患者数減少により1日平均入院患者36名、病床稼働率79.6%と目標達成には至らず。

今後も安心して早期に退院できるように早期から多職種との情報共有の継続実施と地域支援病院として保健医療福祉活動の拡充を行う。

2. 心不全指導の質向上のために院内多職種・外来と連携し、心不全教室を継続する

COVID-19の影響もあり、参加人数の縮小など密な状況避けて開催を継続した。今後も外来との連携強化をより心不全に関する知識習得向上を目指す。

(看護師長) 東城夏恵、看護師23名 消化器内科：45病床

◆重点目標と実績

1. 新入院患者増加に向けてベッドコントロール担当副看護部長及び10階西病棟と連携し、病床稼働率84%以上を達成する

2021年度は、ベッドコントロール副看護部長および消化器外科である10階西病棟と連携を強化することで、新入院患者の積極的な受け入れを実施した。また、昨年度に引き続き消化器内科の専門的治療を受ける患者の受け入れができるようにベッドコントロールを強化したことで、新入院患者数は1,605人・病床稼働率は84%と目標を達成することができた。

2. 消化器内科看護師として自律した看護を実践できる人材を育成するための病棟内教育の企画、実施、評価ができる

2021年度はe-learningを利用した教育計画を立案・実施。実施は後期のみであったが、スタッフ全員が受講することができた。

(看護師長) 狩野智恵、看護師24名 消化器外科：45病床

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行い病床稼働率85%を達成する

昨年度より入院患者数は70名ほど増加したが、在院日数の短縮が影響し病床稼働率は81.9%（前年度86%）。病床回転数は44回/年（昨年39.2）、緊急入院は年間381名受け入れた。外科以外も含む手術件数は730件。ICU稼働率の上昇を目標に術後のリハビリ入室を増やし転出は昨年度より25件増加、それに対応できるよう看護補助者に緊急入院用のベッド作成業務を整備するなど対策を講じた。病床稼働率は目標値達成に満たなかったが、緊急入院・ICU転入出などの数値は上昇、入院患者数・病床回転数は上昇しており病床の効果的な運営は行えた。

2. がん看護・消化器外科看護の実践力の育成、中堅看護師がリーダーシップを発揮できるような人材を育成する

医師と看護師とともに勉強会を実施、専門看護師が実施するスペシャリスト研修に7名参加
他、大阪府看護協会短期研修1名参加、がんリハビリテーション研修修了1名

3. 患者の安心・安全に向けた取り組みを継続する

インシデント件数は昨年の54%に減少、重大インシデントの発生なし。

多職種との連携強化のため、在宅カンファレンスに栄養士・理学療法士の参加を依頼。顔を合わせて話をするきっかけになり、意見交換しやすい環境になりつつある。

(看護師長) 遠藤聖美、看護師26名 糖尿病内分泌内科・呼吸器内科・呼吸器外科：45病床

◆重点目標と実績

1. 予定入院患者、救急患者をスムーズに受け入れ効果的な病床運営を行う

1日平均入院患者数33名、病床稼働率は72%だったが、COVID-19の第6波で90%台の稼働率になることもあった。COVID-19に伴う面会禁止の中、多職種とのカンファレンスや家族との連絡等を工夫し退院支援を行った。

2. 呼吸器疾患・がん看護、糖尿病看護の専門性を高め、看護実践力を発揮できる人材を育成する

COVID-19の影響で集合学習の開催が困難となり動画を活用した。プリセプターシップ、OJTの方法を検討し実施した。院内スペシャリスト留学制度を活用し、糖尿病認定看護師に2名が受講、がん専門看護師に2名が受講し、また、前年度がん看護研修未受講者が今年度受講し、全スタッフががん看護研修を受講した。

11階西病棟

(看護師長) 長辻玲子、看護師22名 整形外科・泌尿器科：45病床

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院・大阪府がん診療拠点病院として、効果的な病床運営を行う

- 1) 予定入院、緊急入院の受け入れ体制を整え、病床稼働率84%を確保する。
- 2) DPCⅡ期越えの要因を分析し対策を立案、DPCⅡ期越え患者を減少し回転率をあげる。
 - ・新入院患者数、緊急入院患者数、ともに、2020年度を上回った。また、平均在院日数の短縮(13.9日→12.3日)、回転率(2.46→2.75)では目標を上回ったが、1日平均入院患者数は、昨年度より2.6名少ない35.9名、稼働率も79.6%に低下、目標を達成することができなかった。
 - ・Ⅱ期越えの割合は、4月より医師、副看護師長と情報共有し、退院日決定時にⅡ期を考慮し決定、徐々に減らすことができた。また、脊椎疾患のパスについては、副看護師長と脊椎担当医師が取り組み、Ⅱ期越えだったパスをⅡ期最終日に変更することができた。人工関節疾患、スポーツ膝においては、Ⅱ期越えの検討ができなかった。

12階東病棟

(看護師長) 杉 佳子、看護師24名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

1. 整形外科患者、救急患者を受け入れ、効果的な病床運営を行う

1日平均入院患者37.9名、病床稼働率84.2%、直入患者割合17.0%、重症度、医療・看護必要度(Ⅱ)では、40.5%であった。病床稼働率の目標を85.5%としていたが、達成することはできなかった。できるだけ緊急入院患者の受け入れを行った。また、DPCⅡ期を意識し退院調整を行った。しかし退院時には、DPCⅢ期となるため、クリティカルパスの見直しを行い、入院時から早期退院を見据えた支援を行った。また医療福祉相談室と連携し、密な情報交換を行い対象患者に支援を行った。平均在院日数は18.6日から17.5日と減少はしたが、患者が安心して自宅へ退院できるように引き続き支援していかなければならない。

12階西病棟

(看護師長) 北 由美、看護師23名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

1. 整形外科の入院患者増に向けた受け入れ体制の整備を行い、効率的な病床運営を行う

1日平均入院患者数37.3名、病床稼働率82.5%、直入患者割合18.2%であった。病床稼働率は前年度より低下したが、DPCⅡ期を考慮したクリティカルパスの改訂など適正な病床運営のための取り組みを行うことができた。手術件数は前年度に比較して増加、整形外科3病棟で対応できるようベッドコントロールを積極的に実施した。重症度、医療・看護必要度の平均は、39.5%であった。

入退院支援加算は、退院患者の平均89.9%の算定であった。入院支援の情報を活かし、入院時から退院目標の共有、他部門との連携を行い、平均在院日数は、20.1日から17.2日と短縮した。

13階病棟

(看護師長) 玉置ひろみ、看護師36名 眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科・形成外科・内科：40病床
COVID-19対応病床：20病床

◆重点目標と実績

1. COVID-19疑いまたは陽性患者の受け入れ体制を整え、地域医療に貢献する

2020年より大阪府の要請を受けCOVID-19罹患患者受け入れを実施。感染状況に応じて病棟編成を組み替え柔軟に対応した。フォローアップセンターや外来・病棟と連携し、受け入れ病床を確保し疑義症も含め429名/年の患者を受け入れた。

依然、感染拡大は続いており、継続して地域医療貢献に取り組む。

2. 患者を尊重した意思決定支援に取り組む

患者の意思や尊厳を守るための意思決定支援に取り組むために多職種カンファレンスの開催を積極的に行うよう働きかけ、14件/年実施出来た。この取り組みは今後も継続していく。

(看護師長) 鈴木志帆、看護師28.2名

◆重点目標と実績

- 急性期病院、地域医療支援病院として、スムーズに在宅と病院が繋がるように関連部署との連携体制を強化し、一般診療外来看護師に必要な看護実践能力を発揮できる人材を育成する

一般診療外来は、18診療科で運営しており、2021年度外来患者総数は260,230名 1日平均外来患者数は1,076名、地域からの紹介患者総数は9,199名であった。コロナ禍の影響もあった昨年度よりも患者数はやや増加した。

早期から退院後に向けた支援を行うために、入院支援室や他職種と連携している。また、外来看護師に必要な地域包括ケア促進に向けた外来教育計画と各チーム会の活動計画の立案・実施・評価を行った。外来での意思決定場面も増え、外来看護師の診察同席件数は大きく増加しており、ケアカンファレンスや看護の振り返りを行い、倫理的視点を養い意思決定支援に活かしている。

(看護師長) 福永花子、看護師20名

◆重点目標と実績

外来(治療検査部門)は、内視鏡センター、放射線科、外来治療センターの3つのユニットを一つの部署としている。今年度は以下の目標に対してスタッフとともに努力した。

- 地域医療支援病院・がん診療拠点病院の治療検査室として新規患者増加に向けた受け入れ体制の整備

内視鏡年間総数は9,068件、うちESD 217件・EMR 852件であった。アンギオ年間総数は966件であった。多職種で協働し緊急検査・治療に速やかに対応した。リニアックの年間治療延べ照射件数は3,457件であった。外来治療センターにおける化学療法年間実施件数は3,283件であった。看護師による末梢静脈穿刺を開始し、質の高い看護の提供に努めた。

(看護師長) 松山佳子、看護師13名

◆重点目標と実績

- 地域医療支援病院として、円滑な救急患者の受け入れ体制の整備を行う

地域の救急患者を早急に受け入れるため、救急体制を変更し、救急隊との情報交換を密に行った。また、医師及び多職種との協働や一般外来及び地域連携室との連携強化を行った。さらにCOVID-19疑似症患者の対応含め重症患者にも安全で安心な看護が提供できるよう感染対策の徹底、院内トリアージ技術を含めた知識・技術の向上や倫理的配慮、家族へのケアなどの教育も継続し、強化を図った。結果、救急搬送台数は3,800件を超えることができた。

救急患者総数(発熱外来含む)	9,210件
救急搬送台数	3,861台
救急搬送応需率	73.1%

◆スタッフ

(課長) 藤宮仁郎、他事務職員10名、技能職員3.8名、非常勤職員4.6名

◆概要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係・経営企画係・業績評価係の6つの係で構成されており、総務係は関係官公庁への許認可申請・届出、連絡調整、会議、諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書クレーム対応、電話交換業務、図書及び医局の管理など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務を所掌しています。給与係は人事・給与事務や賞罰に関する業務を、職員係は臨床研修医に関する業務、職員の労働条件及び研修に関する業務を、厚生係は職員の健康管理及び福利厚生に関する業務を、また、経営企画係・業績評価係は病院の経営戦略や職員業績評価に関する業務をそれぞれ所掌しています。これらの業務の遂行にあたり、事務系業務を行うスタッフは正規職員11名、非常勤職員6.5名、派遣職員1名の計18.5名で、技能系業務を行うスタッフは職員1名、再雇用職員0.8名の計1.8名で構成されています。

◆実績(主な課目標)

●増収ならびに費用節減対策

COVID-19(厚生労働省・大阪府・大阪市)の補助金等の申請及びコロナ病床の運用等について大阪府との調整。

光熱水料等費用削減。業務分掌整理による派遣職員の削減。

●人員管理

病院運営に必要な人員確保、適正配置。

次年度に向けた人員配置計画の作成。

法令等諸規程に基づく業務委託及び人材派遣関係の調整等。

働き方改革を見据えた勤務時間の適正管理。

弁護士・社労士による勤務時間管理の研修会。

出退勤管理業務の実施、時間外勤務の適正管理、年次休暇の取得促進。

同一労働同一賃金への対応。医師の働き方改革への対応。

●課内業務管理

職員健診業者の見直し(JCHO 神戸中央病院)。

課内業務の効率化、省力化の推進による負担軽減。

将来を見据えた人材育成。業績評価制度の適正運用。

●その他

職員の健康管理への対応(過重労働の軽減、健康診断受診率の向上)。

障がい者雇用(法定雇用率を満たす人員確保)。

個人情報、コンプライアンスの適切運用。

各種監査での指摘事項に対する適切な対応。病院機能評価受審への適切な対応。

JMECC(内科専門プログラムに附帯する必修講習)及びICLS(初期臨床研修プログラムに附帯する必修講習)について、自院開催を開始。

◆スタッフ

(課長) 森井秀行、他事務員7名、非常勤事務員1.6名

◆概要

経理課は、経理係と契約係の2部門で構成されています。

経理係は、日々の売上げから病院全体の決算業務、経営分析、各種統計資料の作成、予算策定などお金の係わる様々な事務処理を担当しています。また、独立行政法人としての透明性と説明責任を確保しつつ、JCHO大阪病院の財政状況及び運営状況を決算書に表現するという繊細な業務を行っています。

契約係は、病院運営上、無くてはならない医療機器や診療材料、各種消耗品等の調達並びに修繕などに関し、常に各部門の様々な要望に迅速に対応し、さらなるコスト削減を目指して、次のような取り組みを行っています。

- ①SPDシステムによる院内材料のスリム化を実現したデータベース管理により、診療材料委員会における通減化対策、及び定期的な価格交渉を推進しています。
- ②医療機器等の購入に関しては、職員一人一人のコスト意識を高め、費用対効果の実践に努めています。
- ③業務委託について、原則、一般競争入札を実施することにより、契約価格の減少を目指して交渉にあっています。

経理課は、病院スタッフとのコミュニケーションを大切にしつつ、適正な会計処理を遵守することに努めています。

年度計画を達成するため、投資の基準に従い、迅速に、適正なタイミングを図り、病院機能が十分に発揮できるよう日々研鑽して業務遂行しています。

【決算概要】

(単位：千円)

科目	29年度	30年度	31年度	令和2年度	令和3年度
診療業務収益	16,431,018	16,776,612	16,503,901	17,279,342	18,302,877
入院診療収益	10,925,876	11,129,557	10,849,261	10,730,911	10,875,417
(平均点数)	(6,448.2)	(6,539.2)	(6,732.2)	(7,192.3)	(7,431.0)
(平均患者数)	(464.2)	(466.3)	(440.3)	(408.8)	(401.0)
外来診療収益	4,711,020	4,799,007	4,879,299	4,635,389	4,866,717
(平均点数)	(1,627.7)	(1,678.6)	(1,784.0)	(1,845.2)	(1,869.7)
(平均患者数)	(1,186.1)	(1,171.7)	(1,130.2)	(1,033.8)	(1,075.3)
【経常収益】	16,654,652	16,960,749	16,654,714	17,441,448	18,440,981
診療業務費	16,458,472	16,776,989	16,583,814	16,743,526	17,159,105
給与費	7,626,845	7,878,510	7,682,935	8,010,719	8,276,795
材料費	5,206,501	5,234,125	5,336,427	5,136,734	5,426,748
設備関係費	1,782,294	1,775,328	1,676,217	1,581,821	1,464,614
(減価償却費)	1,382,821	1,325,015	1,201,146	1,009,349	883,089
経費	736,789	757,390	743,260	722,771	733,006
【経常費用】	16,652,985	16,941,590	16,735,485	16,910,590	17,326,369
【経常収益】	1,666	19,159	△80,771	530,858	1,114,611

◆スタッフ

(課長) 橋 弘城、他事務員14名(医師事務含む)、非常勤事務員18名(医師事務含む)

◆概要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

【外来部門】(委託)

- 初診受付
- 再診受付 (自動再診受付機)
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口 (自動精算機)
- 救急受付
- 外来レセプト (外来レセプトの作成・点検、査定対応)

【入院部門】(委託)

- 入院計算 (入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応) DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。(DPC請求・平成18年4月～)
- 入院センター (入院申込手続き、入院当日受付)
- 公費医療 (労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責)

【その他】

- 未収金処理 (未収金の督促・管理)(未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年9月～)
- 統計、システム対応 (レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス)
- 検診 (人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求)
- 文書 (介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整)
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者 (MA)

◆実績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月1回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

また、診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。

経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと思っております。

医療安全管理室

◆スタッフ

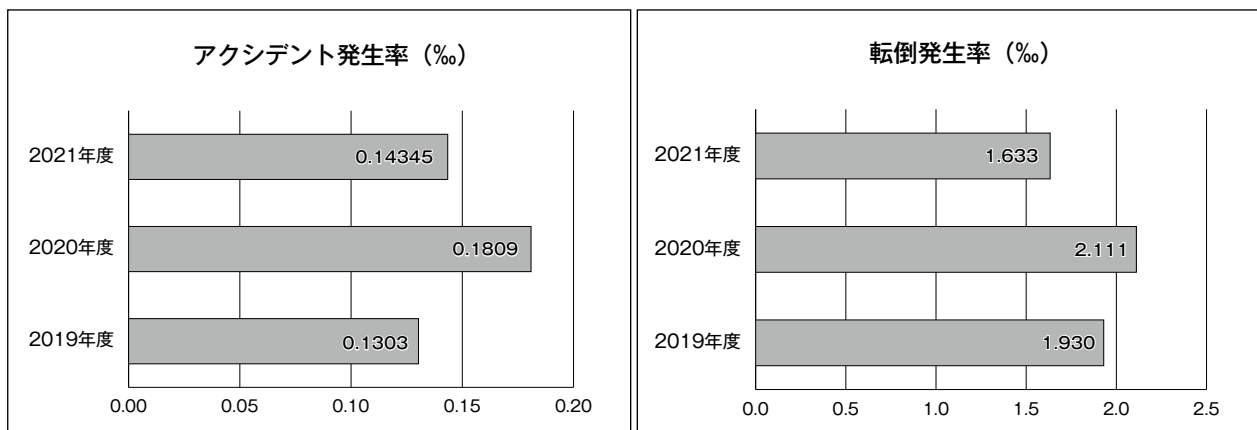
(部長) 島田幸造、(室長) 堀 美和子、他看護師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務員2名、放射線科部長1名、放射線技師1名 計10名

◆概要

患者・家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っています。医療の安全と信頼、患者への医療サービスの改善・向上、医療事故防止を目指して、医療安全管理室メンバーが中心となり活動を行っています。

当院の医療事故の要因の70%がノンテクニカルスキルによって発生しているため、2019年度より、看護部及びメディカルスタッフ向けにノンテクニカルスキル研修やTeamSTEPS研修を導入。より良いチーム医療でのパフォーマンスを上げていけるように取り組んでいます。また、医療者側と患者側との信頼関係構築のため、看護師・メディカルスタッフ・事務職員対象にコンフリクトマネジメント研修も導入しています。

◆実績



※診療部へ医療安全情報として回覧板を配布

※他施設で起こった事故や院内で発生した事象で看護部全体に緊急でお知らせを行う緊急警告の配布

※RCA分析：看護部主体で2007年度より導入開始（10～15事例/年 実施）

※院内リスクパトロール（1回/月、多職種合同でテーマを決めて）

※医療安全教育：2回/年の講演会と各職種に対して多様に研修を開催



◆スタッフ

(部長) 島田幸造、栗本真吾、長谷川健、岡田聡史

◆概要

医療情報管理室は1989年6月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。院内のシステム・インフラの維持には、更新・メンテナンスなど業務は多岐に及び、端末も1,000台を超える大規模なものへと成長いたしました。また、個人情報保護の観点からセキュリティの強化に奔走、現在は新型コロナウイルス感染症対策にWEB会議・オンライン診療等の充実のためネットワークの拡張も行ってきました。JCHO本部の方針変更や新型コロナウイルスの影響もあり、滞っておりましたシステム・インフラの更新についても、2023年の実現を目指して準備を進めております。

◆実績

1988(昭和63)/12	医事会計システム導入
1994(平成6)/3	医事会計システム更新
2004(平成16)/3	オーダーリングシステム (NEC Ordering system) 導入
2008(平成20)/5	電子カルテシステム (NEC MegaOakHR2.5) 導入
2015(平成27)/5	新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム (NEC MegaOakHR R9.0.1) 更新
2023(令和5)/10	電子カルテシステム等の更新予定

◆スタッフ

(部長) 伊藤敏文、診療情報管理士6名、事務員2名

◆概要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との2部門で構成されています。

【診療情報管理】

①入退院患者における統計業務(病歴統計)

- 月次統計(退院患者統計:退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・分娩新生児情報集計等)
- 年次統計(国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数・退院患者数等)
- 患者情報抽出(手術別・病名別等)
- がん統計分析
- DPC入院期間分析

②DPC精度管理

- DCP出来高差分チェック
- 副傷病名確認

③DPC請求の病名確認

- 入院、退院患者のDPC病名「ICDコード」の確認
- DPC基礎調査 付加コード・OP初再回・がん登録のチェック

④入院患者情報入力および質的点検

- 診療情報管理システム(メディバンク)への入院患者情報入力(電子カルテ、退院サマリを点検し、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録)
- 院外死亡登録

⑤がん登録

- がん登録(院内がん登録・予後調査参加・QI研究参加・神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム参加等)

⑥退院時サマリ管理

⑦カルテ開示

⑧電子カルテ監査・手術記録確認

⑨電子カルテへの文書・新規スキャンの管理

⑩診療情報管理

【カルテ管理】

①書類のスキャン取込

②カルテ庫へID別の患者ファイル書類保管

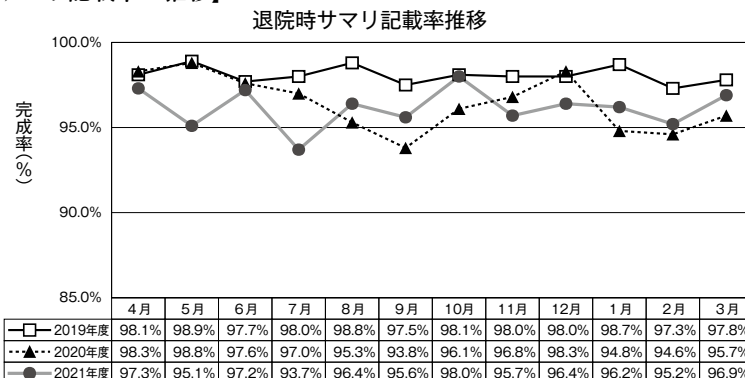
③患者ファイル管理(書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促)

④紙カルテ管理(依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促)

⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理(永久保存管理・廃棄)

◆実績

【サマリ記載率の推移】



サマリ記載率(科別)
(2021/04/01~2022/03/31 退院後)

診療科	総数	退院後14日以内	
		作成数	作成率(%)
整形外科	1,877	1,767	94.1%
外科	1,116	1,027	92.0%
脳神経外科	427	421	98.6%
内科	1,416	1,394	98.4%
皮膚科	143	141	98.6%
泌尿器科	433	433	100.0%
産婦人科	1,049	944	90.0%
眼科	923	913	98.9%
耳鼻咽喉科	196	196	100.0%
小児科	752	745	99.1%
歯科・歯科口腔外科	29	29	100.0%
形成外科	167	167	100.0%
脳神経内科	241	241	100.0%
循環器科	1,019	979	96.1%
消化器内科	2,247	2,172	96.7%
乳腺内分泌外科	265	255	96.2%
心血管外科	155	151	97.4%
総数	12,455	11,975	96.1%

健康管理センター

◆スタッフ

(センター長) 伊藤敏文、看護師(保健師) 1名、臨床検査技師 1名、スタッフ 2名

◆概要

当健康管理センターは1959年(旧大阪厚生年金病院時代)に創設され、病院併設の人間ドックとしてこれまで多くの皆様にご利用いただきました。

二日ドック、一日ドックの基本コースには、人間ドック学会で推奨されている健診項目に準じた検査項目が含まれます。二日ドックには糖負荷試験に加え、甲状腺超音波検査、ロコモ度テスト(体力測定)が基本項目に含まれています。二日ドックは宿泊なしで受診することもできます。いずれの基本コースでも、経口胃カメラ・経鼻胃カメラ・胃透視は差額なしで選択可能です。

独自のコースとして、シルバードック、脳ドック(単独)、2021年度より大腸CT(単独)をおこなっています。

オプション項目には、脳ドック、肺がんドック、骨ドック、大腸CT、大腸カメラ、喀痰細胞診、腫瘍マーカー(CEA・CA19-9)、ピロリ抗体、女性がん検診として婦人科検診、乳腺超音波、マンモグラフィー(2方向撮影)があり、充実した検査内容となっています。

2020年3月に、「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

～病院併設の健康管理センターならではの丁寧な対応～

1. 検査結果は当院各診療科の医師による専門的な判定
2. 人間ドックで要精査判定があった場合は、当センターから当該科へ院内紹介
3. 至急受診が必要な場合は、健診受診当日に外来へ案内

質の高い検査と判定を提供し、生活習慣病を含む各種疾患の早期発見・早期治療によって、地域の方々の健康維持と健康寿命の延長のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

○センター内：保健師による問診・保健指導、医師による診察・面談、健康運動指導士による体力測定・運動指導

○主な検査：各診療部門で実施

- 当センターでは白を基調とした、清潔でゆったりとした休憩室や個室ロッカーを備え、受診者の快適性・利便性を高める努力をしています。

◆実績

2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)利用者

【基本ドック】		【オプション項目】			
一日ドック	787名	脳ドック	89名	骨ドック	52名
二日ドック	49名	肺がんドック	140名	女性検診セット	208名
シルバー半日ドック	5名	大腸CT	56名	婦人科健診	67名
脳ドック(単独)	15名	大腸カメラ	49名	乳腺超音波	49名
大腸CT(単独)	39名	腫瘍マーカー	370名	マンモグラフィー	57名
		ピロリ抗体検査	89名	喀痰細胞診	92名

大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

(学校長) 西田俊朗、(副学校長) 谷岡美佐枝、(教務主任) 三浦千里、専任教員7名、事務員2名

◆概要

昭和33年「厚生年金病院大阪高等看護学院」として開校し、昭和53年に専修学校移行の認可を受け「大阪厚生年金看護専門学校」に名称変更をし、その後、平成26年JCHO移行に伴い「大阪病院附属看護専門学校」となりました。

平成31年には大阪病院と附属看護専門学校の共通のコンセプトを「Autonomy：自律」とし、「看護師として、必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成する」ことを目的としています。

受験生の確保として、令和3年度の学生募集より推薦入試の科目を3科目から2科目（1科目は選択制）とすることで受験生の負担を軽減しながらも強みを活かせるようにし、また優秀な社会人を早期に獲得できるように、社会人特別選考を取り入れました。また、広報活動においてもオープンスクールの回数増加、土曜日開催、高校訪問、進学サイトの活用を行い、受験者数を増加させることができました。

また、病院看護部と連携し、年2回、卒業生と学生との交流会を開催することで、つながりを認識するとともに看護師として働くことの魅力を知り、今の学習との関連について理解しモチベーションを高める機会を設けました。そして、コロナ禍でしたが、対面授業を大切にし、実習も大阪病院の協力のもと、実習内容に変更はありましたが予定通り行えました。

同時に、令和4年度の第5次カリキュラム改正に向け、対象や療養の場の多様化に対応できるように、コミュニケーション力、臨床判断能力等に必要な基礎的能力が習得できるように、新カリキュラムの構築を行いました。

◆実績

1. 令和3年度学生数（令和3年4月現在）

	1年	2年	3年	計
学生数	41人	42人	40人	123人

2. 令和3年度卒業生の状況（令和4年3月卒業）

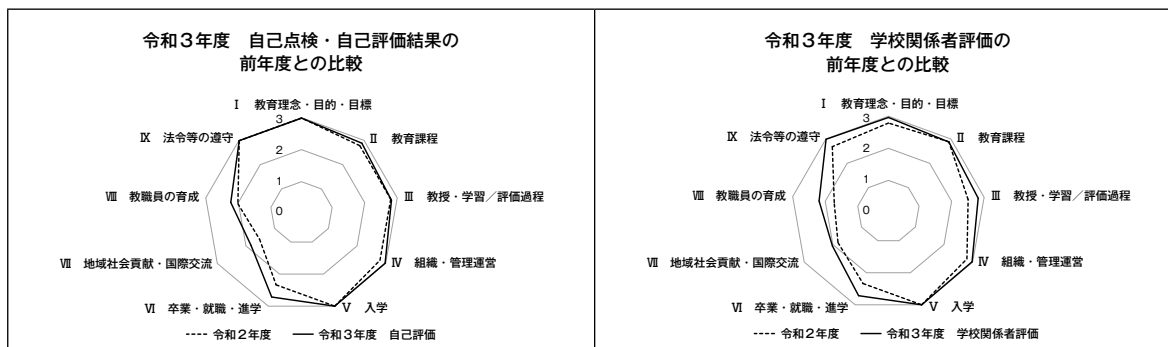
卒業生数	就職者数				進学・その他
	大阪病院	JCHO 関連病院	その他病院	合計	
35人	19人	10人	4人	33人	2人

3. 111回看護師国家試験の合格率：100%（全国合格率：91.3%）

4. 令和4年度入試状況

学年定員数	方法		受験者数	実施日
40人	推薦入試	公募推薦	79人	令和3年10月30日
		社会人特別選考	19人	令和3年10月30日
	一般入試		59人	令和4年1月12日(1次)・13日(2次)
	計		157人	

5. 令和3年度自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価 令和4年3月9日実施）



◆メンバー構成

医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務員

◆概要

<重点目標>

1. COVID-19感染症について正しい知識・情報を発信し、感染対策を実施する。
2. 手指衛生の徹底（手指衛生回数10回以上）
3. 薬剤耐性グラム陰性菌対策—環境清掃の徹底と評価

◆実績

1. 職員へ向けた正しい知識の提供（講演会、ワクチンQ & A）を行い、検査体制を整え、院内の感染対策に努め院内伝播は最小限にとどめられた。平時からの感染症対策と有事の対応強化の重要性が再確認され、保健所・医師会との連携を図り、地域全体での感染対策強化が望まれる。
2. 手指衛生直接観察はリンクナースの実践評価、ICUでのケア場面での直接観察にとどまった。タイミングは概ね問題ないが、1回量不足・擦り込み不十分を指摘することが多かった。部署間の差はあるものの、ユニットを含む院内全体では手指衛生回数10回を超えた。
3. 昨年度VREのアウトブレイクを経験し、清掃担当者とトイレを中心に水回りを重点的にラウンド実施。CDIの発生は低率で経過し、MRSA・ESBL産生菌に関しては、院内発生が多い部署はあるものの、アウトブレイクの発生はなかった。自動蓄尿装置の使用が漫然と行われており、各診療科に必要性について再確認し、必要な診療科を除いて撤去することができた。

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

◆概要

【目的】褥瘡発生を予防し病院の提供する医療の質向上を目指す。

【活動内容】

- 褥瘡対策委員会 月1回（第2月曜日）開催
- 褥瘡回診・カンファレンス（毎週）
- 褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定
- 除圧用具の適正使用、管理
- 褥瘡に関するコスト算定状況の把握
- 褥瘡対策講演会 You Tube 配信 日時：2021年11月1日～12月31日 のべ視聴者数：405名
- 看護師対象ラダー別研修実施
- オープンキャンパス開催（患者対象）
- 褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実績

- 褥瘡発生率（褥瘡発生数/延べ入院患者数×1000）=0.5
- 褥瘡対策に関する診療計画書の作成 3,488件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数 2,014件

◆メンバー構成

医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士

◆概要

「栄養」とは、全ての治療行為の土台になる重要なものです。NSTは主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養の評価と不足時の栄養管理を行い、手術・薬物治療など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。静脈栄養の適切なメニュー作成やカテーテルの選択、経腸栄養のための胃瘻・腸瘻、食道瘻などの経路の提案や造設など、あらゆる方法で適正な栄養管理を継続的に提案・支援していきます。各主治医や他院・在宅診療医の先生方からの依頼で、カテーテル・ポートや胃瘻・腸瘻の造設なども施行し退院後の継続的な栄養状態の維持にも取り組んでいます。

◆実績

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定

栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

2021年度 NST回診 645症例

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

◆概要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（化学療法薬・ホルモン療法薬・分子標的薬）があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行う。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・合併する他の病気の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し治療法を決定する。また、治療期間は術後の経過観察を含めると10年間以上と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要となる。患者さんがより良い環境で標準治療を受けて頂けるよう医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っている。

乳がんは、早期発見できれば治癒が可能な疾患である。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会やメイクセラピーを提供しているがんサバイバーの方々とも協同しながら、乳がん患者さんご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしている。

◆実績

- ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院（2021年10月1日～31日の1か月間）

J.M.Sプログラムとして、2020年10月17日(日)に乳がん検診を実施。受診者20名。

1ヶ月間は、コロナ禍に対応しながらキャンペーン活動を行った。

- 乳がん検診：2021年度受診者311名
- 患者会・がん体験者のおしゃべりサロン
コロナ禍のため中止とした。

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW

◆概要

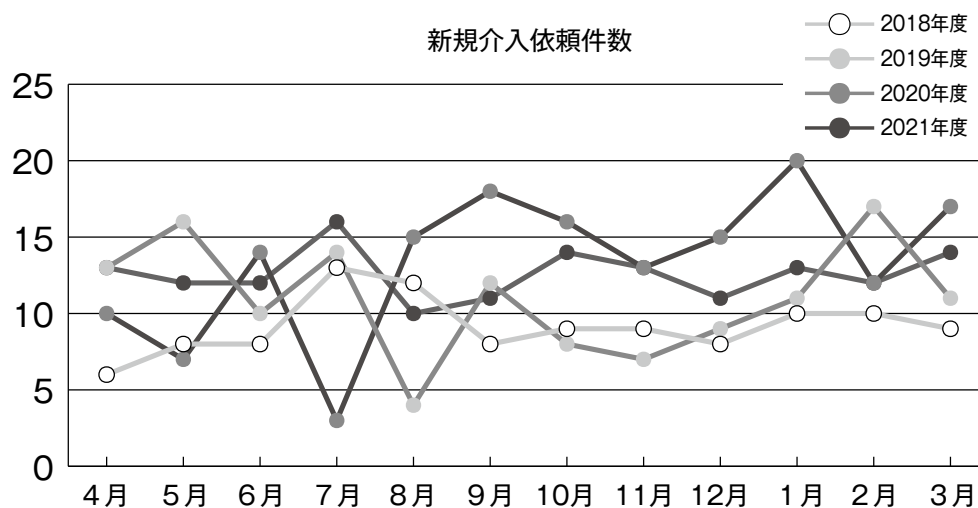
《活動内容》

- 緩和ケアチームラウンド
 - ・適宜、専任看護師がベッドサイドへ訪問し、症状評価や薬剤提案、ケアの実施・提案、依頼者とカンファレンスを行い、必要時は、他職種連携を行う。
- 緩和ケアチームカンファレンス・チーム回診
 - ・週1回緩和ケアチームメンバー全員にて症例検討、回診を実施している。

◆実績

新規依頼件数合計は151件となった。消化器内科、泌尿器科からの依頼数が前年に比べて増加した。

介入時のPSが良い件数や治療中の患者の件数が増えたことは早期から緩和ケア介入ができていたと考えられる。



◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概要

呼吸ケアチームは、2010年6月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から1カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

- ① 抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
- ② 人工呼吸器の安全管理
- ③ 口腔内の衛生管理
- ④ 廃用予防のケア
- ⑤ 呼吸リハビリテーション
- ⑥ 人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士

◆概要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実績

1. フットケア外来

- 糖尿病合併症管理料算定件数：568件（2021年1月～12月）

2. 血液浄化センターフットケア回診

- 1) 必要時実施

3. フットケアチームミーティング

定例会（月1回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

DPCⅡ期に転院・退院に向けての調整・相談

地域講演会に向けての準備・調整

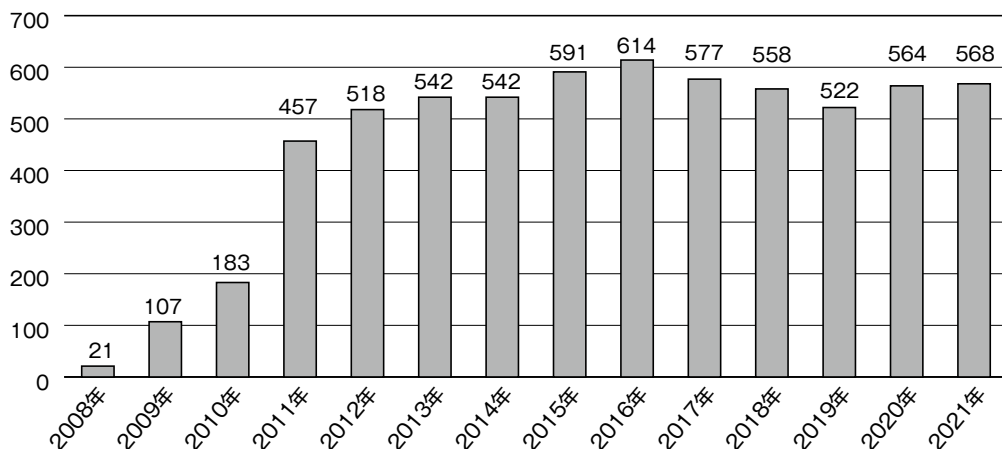
4. フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象

- 2021年度は新型コロナウイルス対策のため、講演会はYouTubeでWEB配信。

【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の強化・推進
- 院内チーム活動の連携の強化
- 地域医療のフットケアに対する、知識や情報の提供と連携

糖尿病合併症管理料



◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概要

児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待が急増している現状の中、当院でも虐待対応の体制を整え行政への通報や支援の依頼を行い対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家族関係構築を目指して、2012年に虐待対策委員会を発足し、年3回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、総務企画課と多職種にわたっている。虐待症例発生時の対応を明確化するために、対応マニュアルや対応フローチャートを作成し、病院職員全体で虐待対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会としてCA（児童虐待）対策チーム、DV（家庭内暴力）対策チーム、EA（高齢者虐待）対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。虐待症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実績

●2021年度新規虐待対応件数

CA：15件（確定2件、疑い2件、要フォロー11件）

DV：5件（確定1件、疑い3件、要フォロー1件）

EA：4件（確定2件、要フォロー2件）

●2021年度新入職員オリエンテーション

「当院における虐待対応について」

臨床研修医：18名

新規採用者：86名

認知症ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。しかし、認知症高齢者が入院するとせん妄の発症をはじめとする行動心理症状の出現やもともとの認知機能の低下のために、身体疾患に対する治療がスムーズに行えない、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADLがさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。入院中の認知症ケアチームへの介入依頼患者は年々増加しています。認知症患者のケアの質の向上を図ることで、このような状況を改善し、認知症の方が安心して入院でき、かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

	H31年度	R2年度	R3年度
新規回診患者数	342	471	490
認知症ケア加算Ⅰ算定回数	4,230	6,753	7,311

依頼内容

せん妄発症予防	339	身体抑制解除に向けた関わり	17
せん妄・BPSDへの対応	232	意思決定支援	4
食事支援	5	家族支援	4
コミュニケーション方法について	76	その他	17
ADL改善の方法について	20		

※複数依頼含む

腫瘍カンファレンス

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、SW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概要


腫瘍カンファレンスでは、当院のがん患者さんについて複数診療科の医師と看護師、薬剤部、リハビリなど各部門から多職種の参加を得て検討しています。検討内容としては原発・転移巣の評価、治療方針、経済面や家族関係など社会的背景、説明内容、リハビリなど支持療法の適応など多岐にわたります。2015年12月より当初は骨転移にしぼって骨転移カンファレンスとして少数のメンバーでスタートしました。

2016年7月からは腫瘍カンファレンスとなり、対象を全がん患者とし、全職員に自由に参加してもらうようになりました。2021年は11回開催し、計24例について検討を行いました。

現在のがん対策推進基本計画においては、がんと診断されたときからの緩和ケア、がん登録、がん患者の就労などの推進に重点が置かれています。これらの事業は院内の全職種および地域の医師、医療者との協働があってはじめて十分なものとなります。したがってこのようなカンファレンスはがんのチーム医療の推進には必須のもので、多くの医療施設で、ツモールボードなどの名称で広く行われています。当院では月1回、第3水曜日の夕方、各種委員会・カンファレンスの多く行われている時間での開催となっており、多くの方に負担をかけながらの開催ですが、今後さらに多くのスタッフの参加を得て、より活発なものとなることが望まれます。このカンファレンスは2021年からはがんを扱う診療科（外科、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器内科）の持ち回りによって、運営されるようになりました。がんに係るすべての職員のさらに積極的な参加を期待しております。

【2021年（令和3年度）委員会一覧】

	委員会名	委員長	主幹課
1	広報・図書委員会	大脇 肇	総務企画課
2	研修管理委員会	島田 幸造	総務企画課
3	医学倫理委員会	伊藤 敏文	総務企画課
4	院内感染予防対策委員会	院長	総務企画課
5	医療安全管理（兼事故調査）委員会	大脇 肇	医事課/総務企画課
6	医療安全管理対策委員会	院長	総務企画課
7	労働安全衛生委員会	院長	総務企画課
8	防災対策委員会	新田 晴久	総務企画課
9	医療ガス安全管理委員会	中谷 桂治	総務企画課
10	放射線障害予防委員会	西多 俊幸	総務企画課
11	診療情報管理委員会	伊藤 敏文	診療情報管理室
12	医療情報運営管理委員会（兼）情報セキュリティ委員会	伊藤 敏文	医療情報管理室
13	診療情報提供委員会	伊藤 敏文	総務企画課
14	保険等調整検討委員会（兼）DPCコーディング委員会	筒井 建紀	医事課
15	クリティカルパス推進委員会	大脇 肇	看護部
16	医療の質の評価委員会	大脇 肇	医事課
17	脳死判定委員会	岩本 文徳	総務企画課
18	施設整備委員会	伊藤 敏文	経理課
19	診療材料委員会	伊藤 敏文	経理課
20	薬事委員会	畑中 信良	薬剤部
21	治験審査委員会	伊藤 敏文	薬剤部
22	委託研究審査委員会	塚本 文音	総務企画課
23	輸血療法委員会	中田 活也	中央検査室
24	栄養管理委員会	馬屋原 豊	栄養管理室
25	プライマリケア・救急医療運営委員会	小笠原 延行	総務企画課
26	中央検査室運営委員会	岡田 昌子	中央検査室
27	病理科運営委員会	吉田 康之	病理科
28	放射線室運営委員会	西多 俊幸	放射線室
29	手術室運営委員会	中谷 桂治	麻酔科
30	集中治療部運営委員会	佐藤 善一	集中治療
31	リハビリテーション運営委員会	寺川 晴彦	総務企画課
32	人間ドック運営管理委員会	伊藤 敏文	医事課
33	内視鏡センター運営委員会	山本 克己	経理課
34	母子医療センター運営委員会	筒井 建紀	総務企画課
35	病床管理運営委員会	谷岡 美佐枝	医事課
36	褥瘡対策委員会	竹原 友貴	看護部
37	ボランティア活動運営委員会	新田 晴久	総務企画課
38	業務改善・業務連絡委員会	鈴木 朗	看護部
39	ワークライフバランスおよびその整備に関する委員会	院長	総務企画課
40	虐待対策委員会	大脇 肇	医療福祉相談室
41	院内暴力・セクシャルハラスメント対策委員会	大脇 肇	総務企画課
42	契約審査委員会	伊藤 敏文	経理課
43	がん診療運営委員会	畑中 信良	医事課
44	認知症ケアチーム運営委員会	山森 英長	医事課
45	特定行為研修委員会	畑中 信良	看護部
46	棚卸実施委員会	院長	経理課
47	外来運営委員会	畑中 信良	医事課
48	利益相反（COI）委員会	伊藤 敏文	総務企画課
49	透析機器安全管理委員会	鈴木 朗	総務企画課
50	臨床倫理委員会	伊藤 敏文	総務企画課



業 績

【原著・総説・著書】

1. 島田幸造
肘関節脱臼骨折に対する手術アプローチ
Monthly Book Orthopaedics. 2021 ; 34 : 63-68
2. 西川昌孝, 中谷宏幸, 中矢亮太, 岡本恭典, 大脇 肇, 中田活也
JOURNEY II BCS及びTriathlon PSの術後1年満足度(New Knee Society Score)
日本人工関節学会誌. 2021 ; 51 : 263-264
3. 坂浦博伸
頰椎の疾患 06 頰椎症性脊髄症/神経根症の違いがわかりにくい
整形外科看護. 2021 ; 26(9) : 26-28
4. 坂浦博伸
頰椎の疾患 07 頰椎ヘルニア/障害神経根レベルのずれがわかりにくい
整形外科看護. 2021 ; 26(9) : 29-30
5. 坂浦博伸
頰椎の疾患 08 脊髄前方/後方からの圧迫の違いがわかりにくい
整形外科看護. 2021 ; 26(9) : 31-32
6. 轉法輪光, 大明里帆
肘関節鏡視下手術(遊離体・骨棘)
オペナーシング. 2021 ; 36 : 30-31
7. 西本竜史
鏡視下腱板修復術における縫合糸の細菌汚染と術後成績
肩関節. 2021 ; 45 : 451
8. 草野雅司
外側閉鎖式高位脛骨骨切り術後に増悪した膝蓋大腿関節症の一例
関西関節鏡・膝 研究会誌. 2021 ; 33 : No.1
9. 草野雅司
トランスポータル法を用いた長方形骨孔ACL再建術時に大腿骨後壁損傷をきたした症例における大腿骨骨孔方向の検討
JOSKAS. 2021 ; 46 : 60-61
10. 山田修太郎
硬膜外カテーテルに関連したMRSAを起炎菌とする胸椎硬膜外膿瘍の治療経験
中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2021 ; 64 : 337-338
11. 李 知香
学童期に急速に進行し手術治療を要した首下がりの1例
中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2021 ; 64 : 729-730
12. 島田幸造
肘関節の疾患 靭帯損傷
今日の整形外科治療指針(第8版). 2021 ; 452-453
13. 島田幸造
肘関節の疾患 肘関節不安定症
今日の整形外科治療指針(第8版). 2021 ; 453-454
14. Sakaura H, Ikegami D, Fujimori T, Sugiura T, Mukai Y, Hosono N
Does atherosclerosis have negative impacts on early adjacent segment degeneration after posterior lumbar interbody fusion?
Global Spine J. 2021 ; 11(5) : 674-678

15. Sakaura H, Ikegami D, Fujimori T, Sugiura T, Yamada S, Mukai Y
Surgical outcomes after posterior lumbar interbody fusion using traditional trajectory screw fixation or cortical bone trajectory screw fixation: A comparative study between the polyetheretherketone cage and the same shape titanium-coated polyetheretherketone cage
Clin Neurol Neurosurg. 2021 ; 209 : 106945
16. Miyamura S, Lans J, Min KS, Waryasz GR, Murase T, Chen NC
Bone resorption of the greater tuberosity after open reduction and internal fixation of complex proximal humeral fractures: fragment characteristics and intraoperative risk factors
J Shoulder Elbow Surg. 2021 ; 30 : 1626-1635
17. Miyamura S, Lans J, Murase T, Oka K, Chen NC
Degenerative changes in the elbow joint after radial head excision for fracture: quantitative 3-dimensional analysis of bone density, stress distribution, and bone morphology
J Shoulder Elbow Surg. 2021 ; 30 : e199-e211
18. Shimada K
Elbow Osteochondritis Dissecans: Arthroscopy and Reconstructive Procedures
Arthroscopy and Endoscopy of the Elbow, Wrist and Hand. 2021 ; 299-311
19. Shimada K
Arthroscopic Partial Radial Head Resection for Rheumatoid Arthritis
Arthroscopy and Endoscopy of the Elbow, Wrist and Hand. 2021 ; 381-385
20. Kita K
MPFL Reconstruction and Patellofemoral Chondral Status
Advances in Knee Ligament and Knee Preservation Surgery. 2021 ; 1 : 265-272
21. Fujimori T, Mukai Y, Nakajima N, Sugiura T, Ikegami D, Sakaura H
Retrospective cohort study showing clinical equivalence of microendoscopic laminotomy to open fenestration for patients with lumbar spinal stenosis
J Minim Invasive Spine Surg Tech. 2021 ; 6(1) : 14-20
22. Fujimori T, Nakajima N, Sugiura T, Ikegami D, Sakaura H, Kaito T, Iwasaki M
Epidemiology of symptomatic ossification of the posterior longitudinal ligament: A nationwide registry survey
J Spine Surg. 2021 ; 7(4) : 485-494
23. Sakaura H, Ikegami D, Fujimori T, Sugiura T, Mukai Y
Early fusion status after posterior lumbar interbody fusion with cortical bone trajectory screw fixation or traditional trajectory screw fixation: a comparison between the titanium-coated polyetheretherketone cage and the same shape polyetheretherketone cage
Clin Spine Surg. 2022 ; 35(1) : E47-E52
24. Keisuke Kita
MPFL Reconstruction and Patellofemoral Chondral Status
Advances in Knee Ligament and Knee Preservation Surgery. Springer Nature. 2021 ; pp265-272
25. Kosuke Kuratani
Accuracy of shoulder joint injections with ultrasound guidance: Confirmed by magnetic resonance arthrography
World Journal of Orthopedics. 2022 March 18 ; 13(3) : 259-266

【学会発表】

26. 島田幸造
上腕骨小頭離断性骨軟骨炎治療の過去・現在・未来
第95回日本整形外科学会学術集会. 2021/05/21, 東京
27. 島田幸造
肘関節鏡手術に役立つ解剖
第36回日本整形外科学会基礎学術集会. 2021/10/14, 伊勢

28. 島田幸造
肘関節内病変に対する鏡視下手術・関節面修復と拘縮解離
第49回日本関節病学会シンポジウム. 2021/11, 横浜(Web)
29. 島田幸造
肘関節離断性骨軟骨炎の難治症例とその考察
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2021/06, 札幌(Web)
30. 西川昌孝, 中谷宏幸, 大脇 肇
外科治療を要した変形性膝関節症とピロリン酸カルシウム結晶の関連についての検討
第65回日本リウマチ学会総会学術総会. 2021/04/26-28, 神戸(Web)
31. 西川昌孝, 中谷宏幸, 中矢亮太, 岡本恭典, 大脇 肇, 中田活也
JOURNEY II BCS及びTriathlon PSの術後1年満足度(New Knee Society Score)
第51回日本人工関節学会. 2021/07/07, 横浜
32. 西川昌孝
JOURNEY II BCS及びTriathlon PSの術後1年満足度(New Knee Society Score)
第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS 2021). 2021/06/17-19, 札幌(Web)
33. 坂浦博伸, 池上大督, 藤森孝人, 杉浦 剛, 向井克容, 細野 昇
動脈硬化はPLIF後の早期隣接椎間変性を促進する
第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2021/04, 京都
34. 坂浦博伸, 池上大督, 藤森孝人, 杉浦 剛, 向井克容
CBT screw法とTraditional trajectory screw法PLIF後の早期骨癒合成績
—同一形状のtitanium-coated PEEK cageとPEEK cageの比較—
第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2021/04, 京都
35. 轉法輪光
離断性骨軟骨炎後の変形性肘関節症の変形評価
第34回日本肘関節学会学術集会. 2022/02/11, 名古屋(web)
36. 中谷宏幸, 西川昌孝, 大脇 肇
当院RA患者におけるbDMARDまたはtsDMARD switchを要した症例の特徴と各薬剤へのswitch成功率の
検討
第65回日本リウマチ学会総会. 2021/04/26-28, 神戸(Web)
37. 木田圭重
野球選手に対する肘OCD治療についての全国調査
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2021/06, 札幌
38. 西本竜史
小骨片付き鏡視下Bankart修復術後の関節窩骨形態変化
第48回日本肩関節学会. 2021/10/30, 名古屋
39. 岡本恭典
ステムの再置換に難渋したTHA感染の1例
第50回関西股関節研究会. 2021/12, 大阪
40. 岡本泰典
ステム長の異なるFull HA-coated stemのX線学的比較研究
第48回日本股関節学会学術集会. 2021/01, 奈良
41. 岡本泰典
フルHA—ショートステムの短期成績
第50回日本人工関節学会. 2021/07, 横浜
42. 草野雅司
内側半月板後角フラップ断裂に対する半月板最小部分切除術の治療成績
第14回JOSKAS日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2021/06/16, 札幌
43. 草野雅司
膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
第1回日本knee osteotomy and joint preservation研究会. 2021/12, 神戸

44. 草野雅司
外側閉鎖式高位脛骨骨切り術後に増悪した膝蓋大腿関節症の一例
第34回関西関節鏡・膝研究会. 2021/03/06, 大阪
45. 草野雅司
末期膝蓋大腿関節症に対する脛骨粗面前内方移行術の小経験
第1回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会. 2021/12/18, 神戸
46. 杉浦 剛, 坂浦博伸, 藤森孝人, 池上大督
腰椎開窓術における術後成績不良因子の検討
第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2021/04, 京都
47. 藤森孝人, 坂浦博伸, 杉浦 剛, 池上大督, 富士武史
腰椎手術における最適な尺度はどれか —JOABPEQ、Oswestry disability index、チューリッヒ跛行スケール、Short Form-8、Euro QOL5Dのスコア反応性の比較—
第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2021/04, 京都
48. 藤森孝人, 向井克容, 細野 昇, 富士武史, 坂浦博伸, 池上大督, 杉浦 剛
後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)で内腸骨動脈を損傷した1例
第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2021/04, 京都
49. 中矢亮太
DDHにおけるGlobal Offsetの3次元的評価
第50回日本人工関節学会. 2021/07, 横浜
50. 中矢亮太
THAにおける大腿骨Patient Specific Template作成時間のラーニングカーブ
第48回日本股関節学会学術集会. 2021/01, 奈良
51. 宮村 聡
橈骨遠位部関節軟骨及び軟骨下骨の三次元解析
第64回日本手外科学会学術集会. 2021/04/23, 長崎(web)
52. 宮村 聡
Langenskiold法におけるカスタムメイドガイド及び関節鏡の有用性について ~橈骨遠位端早期閉鎖の1例~
第64回日本手外科学会学術集会. 2021/04/23, 長崎
53. 宮村 聡
上腕骨外側上顆炎に対する関節鏡視下デブリードマン後のMRI所見と術後症状との関連について
第34回日本肘関節学会学術集会. 2022/02/11, 名古屋
54. 李 知香
骨付き膝蓋腱を用いた前十字靭帯再建術後の膝蓋骨骨片採取部における遠位方向への骨形成
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2021/06, オンライン
55. 李 知香
学童期に急速に進行し手術治療を要した首下がりの1例
第456回中部日本整形外科災害外科学会 整形外科集談会 京阪神地方会. 2021/07, オンライン
56. 李 知香
ブタ内側半月板縫合の力学的強度: inside-out法 vs all-inside法
第48回日本臨床バイオメカニクス学会. 2021/11, 宮崎
57. 李 知香
内側膝蓋大腿靭帯付着部裂離骨折固定術後、不安定性が残存し靭帯再建術を要した一例
第21回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2021/12/04, 大阪
58. 綿谷俊介
大腿骨外弯変形を伴う膝OAに対し3DCT計画による髓内釘使用大腿骨骨切術及びCWHTOを施行した1例
第1回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会. 2021/12/18, 神戸
59. 宮田佐崇
上腕骨外側上顆炎に内在する肘外側不安定性に対する術前画像評価
第34回日本肘関節学会学術集会. 2022/02/11, 名古屋(web)

60. Shimada K
Osteochondritis dessecans of the capitellum in adolescents
41st SICOT World Congress, Educational Day. 2021/09/15, Budapest (web)
61. Nakata K
Five Years Comparative Study on Three Different Short Stems
41 SICOT Orthopaedic World Congress. 2021/09, Budapest
62. Nakata K
Calcar loading of curved short stem can reduce stress-shielding in developmental dysplasia of the hip.
—Five years clinical results—
41 SICOT Orthopaedic World Congress. 2021/09, Budapest
63. Kuratani K
Quantitative analysis of Trochlea in Recurrent Patellar Dislocation
第14回JOSKAS日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2021/06/16, 札幌

【学会講演】

64. 島田幸造
アスリートの肘痛 —剣道家、野球選手、格闘技選手について—
大阪府剣道連盟 剣道文化講演会. 2021/02, 大阪
65. 島田幸造
肘関節外科との出会い
日本肘関節学会. 2021/02, 大阪(Web)
66. 島田幸造
血友病患者の関節症 —血友病診療医が守り、整形外科医が助ける—
血友病患者さんのための関節評価セミナー(JOINT Meeting). 2021/11, 大阪(Web)
67. 島田幸造
小児肘関節傷害と後遺症の治療 —矯正するか、リモデリングに期待するか—
医師. 2022/02/11, 名古屋
68. 中田活也
THA 執刀医が知っておくべき 脊椎・股関節アライメント(基礎)
ジンマーバイオメット RTCD. 2021/09, 大阪
69. 中田活也
ALSA の変遷と方向性：温存だけの MIS の終焉テーラーメイド THA へ
ALSA アドバンス LC. 2021/11, 松本
70. 中田活也
Fitting First Theory は応力遮蔽限局化に有効である —カーブドショートステム 5 年以上の成績—
日本股関節学会学術集会 パネルディスカッション 7 【ここが違う！ ショートステムの推しと成績】.
2021/10, 奈良
71. 中田活也
本邦における MIS-THA 20 年の変遷と今後の展望
日本股関節学会学術集会 光明セミナー. 2021/10, 奈良
72. 中田活也
セメントレスステムの変遷から見たフル HA ステムの意義・相異点・選択法
日本股関節学会学術集会 光明セミナー. 2021/10, 奈良
73. 中田活也
AL-Supine Approach (ALSA) のピットフォールと将来性
日本整形外科学会学術集会 シンポジウム. 2021/05, 東京
74. 中田活也
カーブドショートステムによる骨温存の実現
日本人工関節学会 パネルディスカッション 1 【近年の THA stem を考える・骨温存に望ましい short stem とは？】. 2021/07, 横浜

75. 西川昌孝
骨粗鬆症を伴った重度骨欠損に対する同種骨、骨髄、テリパラチドを用いた骨再建
大阪整形外科RAセミナー ～リウマチ治療と骨マネージメント～. 2021/03, 大阪
76. 西川昌孝
3D技術を用いた人工膝関節置換術
JCHO大阪病院 公開医学講座. 2021/04/22, 大阪
77. 坂浦博伸
腎機能障害・動脈硬化の視点から見た腰椎椎体間固定術の手術成績
Osteoporosis Conference in 中之島. 2021/01, 大阪
78. 坂浦博伸
椎弓形成術後の頸椎矢状面アライメント・バランスの変化CSM vs OPLL
— 脊髄症状と軸性疼痛の観点から —
医師. 2022/01, 大阪
79. 坂浦博伸
腎障害・動脈硬化の視点からみた脊椎変性疾患の手術成績と鎮痛剤の適正使用
医師. 2022/01, 大阪
80. 坂浦博伸
脊椎外科とペインクリニックの診療連携 — その利点と問題点 —
医療関係者. 2022/02, 大阪
81. 坂浦博伸
生活習慣病が脊椎変性疾患の手術成績に及ぼす影響と鎮痛剤の適正使用
医師. 2022/03, 大阪
82. 山田修太郎
頸髄症に対する後方除圧固定術後の頸椎矢状面アライメント・バランスの変化と手術成績
— 当院における疼痛治療も含めて —
医師. 2022/01, 大阪
83. 中谷宏幸
当院における骨粗鬆症診療
Osteoporosis Conference. 2021/12, 大阪
84. 北 圭介
単独内側膝蓋大腿靭帯再建術後に再脱臼した症例から考える膝蓋骨脱臼の機序と大腿骨遠位部の形態
第34回関西関節鏡・膝研究会. 2021/03/06, 大阪
85. 北 圭介
Patellar Instability and Sports Activities
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2021/06, 札幌
86. 北 圭介
病態生理から考える膝蓋骨脱臼の治療
第30回大阪スポーツ傷害研究会. 2021/09/18, 大阪
87. 北 圭介
Round table Case-based discussion, Joint preservation Case-based approaches
第1回日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会. 2021/12/18, 神戸
88. 轉法輪光
リウマチ肘の外科的治療 関節鏡視下手術
日本肘関節学会学術集会. 2021/02, 大阪(Web)
89. 岡本恭典
THAにおける骨温存型ショートステムの骨反応と成績② — MiniHip術後5年以上の臨床成績 —
Corin Web Hip Meeting. 2021/08, 東京
90. 宮村 聡
橈骨頭切除が肘関節に与える影響について：学術研究プロジェクト報告 若手研究
日本肘関節学会学術集会. 2021/02, 大阪(Web)

91. Kita K

Patellar Instability and Sports Activities

第14回JOSKAS日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2021/06/16, 札幌

形成外科

【学会講演】

1. 波多祐紀

第12回かんさいPDフォーラム「形成外科での難治創傷の扱い」

医師. 2021/07/24, 大阪

リハビリテーション科

【原著・総説・著書】

1. 吉田大地, 細川清人, 北山一樹, 加藤智絵里, 小川 真, 猪原秀典

Acoustic Voice Quality Indexによる嗄声度の評価 — 課題文の変更による診断性能への影響 —
音声言語医学. 2021 ; 62 : 223-232

【学会発表】

2. 森田 悠, 二宮晴夫, 松本恵理子

転子部骨折を呈したフォンウィルブランド病の一症例

第58回日本リハビリテーション医学会. 2021/06/10-13(6/11), 国立京都国際会館

3. 坂上 譲, 二宮晴夫, 寺川晴彦

抗SRP抗体陽性筋炎患者に対する理学療法経験

第58回日本リハビリテーション医学会. 2021/06/10-13(6/11), 国立京都国際会館

4. 荒木直哉, 二宮晴夫, 永富孝幸

再発肺癌の脊椎転移による胸髄麻痺のため、自宅退院困難となった1例

第58回日本リハビリテーション医学会. 2021/06/10-13(6/12), 国立京都国際会館

5. 若槻 圭, 永渕輝佳, 権藤 要

COVID-19罹患後の理学療法介入による身体機能の男女差について

第61回近畿理学療法学会. 2022/01/16, オンデマンド開催

6. 藤井志保, 内田直祐, 松本恵理子, 永渕輝佳, 権藤 要, 寺川晴彦

骨切り術後の位置覚低下に対し固有受容器へ刺激を行い歩容が改善した症例

第二回大阪府理学療法士会中支部新人症例発表会. 2022/02/13, オンデマンド開催

7. 田中健毅, 寺川晴彦

薬物療法を併用した2型糖尿病における自体重を用いた下肢筋力強化運動による血糖値への影響

第40回日本臨床運動療法学会学術集会. 2021/09/11-09/12, 同志社大学今出川キャンパス

【学会講演】

8. 永渕輝佳

人工肩関節置換術後のリハビリテーション

理学療法士. 2021/07/27, 枚方市理学療法士会整形勉強会(オンライン)

外科

論文発表(英文)

1. Nishida T, Yoshinaga Y, Takahashi T, Naito Y.

Recent Progress and Challenges in the Diagnosis and Treatment of Gastrointestinal Stromal Tumors
Cancers. 2021 Jun ; 13(13) : 3158

2. Nishizawa Y, Haraguchi N, Kim H, Ide Y, Nakata K, Okamura S, Kudo T, Satoh T, Uemura M, Matsuda C, Mizushima T, Murata K, Doki Y, Eguchi H
Randomized phase II study of SOX+B-mab versus SOX+C-mab in patients with previously untreated recurrent advanced colorectal cancer with wild-type KRAS (MCSGO-1107 study)
BMC Cancer. 2021 Aug ; 23(21) : 947
3. Yamasaki M, Takiguchi S, Omori T, Hirao M, Imamura H, Fujitani K, Tamura S, Akamaru Y, Kishi K, Fujita J, Hirao T, Demura K, Matsuyama J, Takeno A, Ebisui C, Takachi K, Takayama O, Fukunaga H, Okada K, Adachi S, Fukuda S, Matsuura N, Saito T, Takahashi T, Kurokawa Y, Yano M, Eguchi H, Doki Y
Multicenter prospective trial of total gastrectomy versus proximal gastrectomy for upper third cT1 gastric cancer
Gastric Cancer. 2021 Mar ; 24(2) : 535-543
4. Atsushi Takeno, Toru Masuzawa, Shinsuke Katsuyama, Kohei Murakami, Kenji Kawai, Yoshiteru Katsura, Yoshiaki Ohmura, Yoshinori Kagawa, Yutaka Takeda, Taishi Hata, Kohei Murata
Robotic-assisted proximal gastrectomy using the double-flap technique for early gastric cancer with situs inversus totalis: a case report
Surgical Case Reports. 2021 Aug ; 2(7) : 172
5. Taishi Hata, Kiyotaka Hagihara, Anna Tsutsui, Hiroki Akamatsu, Masayuki Ohue, Tatsushi Shingai, Mitsuyoshi Tei, Masakazu Ikenaga, Ho Min Kim, Hideki Osawa, Hiroyoshi Takemoto, Ken Konishi, Mamoru Uemura, Chu Matsuda, Tsunekazu Mizushima, Kohei Murata, Yuko Ohno, Yuichiro Doki, Hidetoshi Eguchi
Administration Method of Adjuvant Tegafur-Uracil and Leucovorin Calcium in Patients with Resected Colorectal Cancer: A Phase III Study
Oncologist. 2021 May ; 26(5) : e735-e741
6. Osawa H, Junichi Nishimura, Yoshiyuki Motoki, Masaaki Miyo, Yozo Suzuki, Mamoru Uemura, Naotsugu Haraguchi, Taishi Hata, Tsunekazu Mizushima, Ichiro Takemasa, Hirofumi Yamamoto, Yuichiro Doki, Masaki Mori
Left Paraduodenal Hernia Treated With Single-Incision Laparoscopic Surgery: Report of a Case
International Surgery. 2021 ; 105(13) : 49-53
7. Hayashi M, Yoshikawa T, Yura M, Otsuki S, Yamagata Y, Morita S, Katai H, Nishida T
Intraoperative blood loss as an independent prognostic factor for curative resection after neoadjuvant chemotherapy for gastric cancer: a single-center retrospective cohort study
Surg Today. 2021 Feb ; 51(2) : 293-302
8. Bun S, Yonemori K, Sunadoi H, Nishigaki R, Noguchi E, Okusaka T, Nishida T, Fujiwara Y
Safety and Evidence of Off-Label Use of Approved Drugs at the National Cancer Center Hospital in Japan
JCO Oncol Pract. 2021 Mar ; 17(3) : 416-425
9. Blay JY, Kang YK, Nishida T, von Mehren M
Gastrointestinal stromal tumours
Nat Rev Dis Primers. 2021 Mar ; 18(7) : 22
10. Wada N, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Nishida T, Koh M, Akamaru Y, Motoori M, Kimura Y, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Yamasaki M, Eguchi H, Doki Y
Clinical significance of surgical intervention for imatinib-resistant gastrointestinal stromal tumors in the era of multiple tyrosine kinase inhibitors
Surg Today. 2021 Sep ; 51(9) : 1506-1512
11. Yagishita S, Kato K, Takahashi M, Imai T, Yatabe Y, Kuwata T, Suzuki M, Ochiai A, Ohtsu A, Shimada K, Nishida T, Hamada A, Mano H
Characterization of the large-scale Japanese patient-derived xenograft (J-PDX) library
Cancer Sci. 2021 Jun ; 112(6) : 2454-2466

12. Yuan J, Kihara T, Kimura N, Hashikura Y, Ohkouchi M, Isozaki K, Takahashi T, Nishida T, Ito A, Hirota S
Differential Expression of *CADMI* in Gastrointestinal Stromal Tumors of Different Sites and with Different Gene Abnormalities
Pathol Oncol Res. 2021 Apr ; 19(27) : 602008
13. Yura M, Yoshikawa T, Wada T, Otsuki S, Hayashi T, Yamagata Y, Katai H, Nishida T
The prognostic impact of macroscopic serosal change on resectable advanced gastric cancer
BMC Cancer. 2021 Sep ; 21(1) : 1056
14. Ishida T, Takahashi T, Kurokawa Y, Nishida T, Hirota S, Serada S, Fujimoto M, Naka T, Teranishi R, Saito T, Yamashita K, Tanaka K, Yamamoto K, Makino T, Yamasaki M, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y
Targeted therapy for drug-tolerant persister cells after imatinib treatment for gastrointestinal stromal tumours
Br J Cancer. 2021 Nov ; 125(11) : 1511-1522
15. Yamawaki K, Shiina I, Murata T, Tateyama S, Maekawa Y, Niwa M, Shimonaka M, Okamoto K, Suzuki T, Nishida T, Abe R, Obata Y
FLT3-ITD transduces autonomous growth signals during its biosynthetic trafficking in acute myelogenous leukemia cells
Sci Rep. 2021 Nov ; 11(1) : 22678

論文発表(和文)

16. 出村公一, 村上剛平, 畑中信良, 西田俊朗
【希少がん —がん診療の新たな課題—】希少がん疾患各論 消化管(器)の腫瘍 GIST
日本臨牀. 2021 .3 ; 79(1) : 310-316
17. 出村公一, 村上剛平, 畑中信良, 西田俊朗
【消化器癌;診断と治療のすべて】消化器癌の診断・病期分類・治療・成績 消化管GIST 疫学と病期分類
消化器外科. 2021 .5 ; 44(6) : 780-787
18. 出村公一, 村上剛平, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
遠隔リンパ節転移を伴う高度進行胃癌に対し化学療法6コースにてCRが維持できている1例
癌と化学療法. 2021 .12 ; 48(13) : 2042-2044
19. 村上剛平, 出村公一, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
肥満患者における腹腔鏡下小腸腫瘍摘出術の工夫
癌と化学療法. 2021 .12 ; 48(13) : 1664-1666
20. 大澤日出樹, 井出義人, 中本蓮之助, 吉田眞之, 瀬戸寛人, 米田和弘, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
腹腔鏡下回盲部切除術後に腸間膜欠損部の内ヘルニア陥頓が生じた1例
癌と化学療法. 2021 .12 ; 48(13) : 2152-2154
21. 和田剛幸, 長谷川千保子, 藤井恵美, 並木あかね, 神谷綾子, 伊達慶一, 林 勉, 大槻 将, 山形幸徳, 吉川貴己, 片井 均, 佐藤哲文, 朴 成和, 西田俊朗
時代が求める外科医の働き方 周術期サポートセンターによる多職種連携とタスク・シフティング
日本外科学会雑誌. 2021 .3 ; 122(2) : 247-249

【学会発表】(英語)

22. Nishida T
Update of classification and management of GIST
the 2021 Korean GIST Study Group Symposium, Special Lecture. 2021/04/16, 韓国(WEB)
23. Demura K
Surgical Experience of ARTISENTIAL® in Japan -Upper GI-
Korean Society of Gastrointestinal Surgery (KSGIS) 1st Congress, ランチョンセミナー. 2021/02/06, Daegu

【学会発表】(日本語)

24. 西田俊朗
希少がんの診療と治療開発のありかた
第2回希少がん患者サミット, 講演. 2021/09/18, WEB
25. 西田俊朗, 武藤 学, 松浦成昭, 山田尚文, 岩崎 甫
希少がんの創薬と連携
第2回希少がん患者サミット, パネルディスカッション. 2021/09/18, WEB
26. 西田俊朗
がんゲノム医療の実装と臨床開発の現状
関西医科大学 第2回大学院企画セミナー, 講演. 2021/10/15, 大阪
27. 森本修邦, 中本蓮之介, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 大澤日出樹, 村上剛平, 出村公一, 井出義人, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
当院における壊疽性胆嚢炎の 治療成績
第34回日本内視鏡外科学会総会, 口演. 2021/12/02, 神戸
28. 井出義人, 大澤日出樹, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
pT1大腸癌内視鏡治療後追加切除例の検討
第95回大腸癌研究会, 示説. 2021/07/01-02, 旭川
29. 井出義人, 大澤日出樹, 中本蓮之助, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
脾彎曲部結腸癌に対する網嚢開放先行アプローチ法の定型化
第76回日本消化器外科学会総会, 口演. 2021/07/07-09, 京都
30. 井出義人, 大澤日出樹, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
局所進行直腸癌に対する TNT(total neoadjuvant therapy)の試み
第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 口演. 2021/11/12-13, 広島
31. 井出義人, 大澤日出樹, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
当院における下部消化管 NET 治療の実際と問題点
第83回日本臨床外科学会総会, ワークショップ. 2021/11/18-20, 東京
32. 井出義人, 大澤日出樹, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
良性疾患に対する経会陰的鏡視下手術の応用
第34回日本内視鏡外科学会総会, 口演. 2021/12/02-04, 神戸
33. 出村公一
直感的操作が可能な多自由度鉗子「ArtiSential」の臨床使用経験
第33回日本内視鏡外科学会, 口演. 2021/03/10-13, 横浜
34. 出村公一, Kohei Murakami, Katumi Yamamoto, Masayuki Yoshida, Kazuhiro Yoneda, Tomofumi Ohasi, Hideki Osawa, Yoshihito Ide, Osakuni Morimoto, Nobuyosi Hatanaka, Toshiro Nishida
Clinicopathological evaluation of additional gastrectomy after non curative ESD for gastric cancer
第93回日本胃癌学会総会, 口演. 2021/03/03-05, 大阪
35. 出村公一, 村上剛平, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
遠隔リンパ節転移を伴う高度進行胃癌に対し化学療法6コースにてCRが維持できている
第43回日本癌局所療法研究会, 口演. 2021/05/21, 横浜
36. 出村公一, Kohei Murakami, Tomofumi Ohasi, Hideki Osawa, Yoshihito Ide, Osakuni Morimoto, Nobutaka Hatanaka, Toshirou Nishida
Clinical experience of intuitively operating multi-degree of freedom instrument “ArtiSential”
第76回日本消化器外科学会総会, 口演. 2021/07/07-09, 京都
37. 出村公一, 山崎 誠, 村上剛平, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下上川法(TEDDY法)の経験
第75回日本食道学会学術集会, 口演. 2021/09/23-24, 東京

38. 出村公一, 村上剛平, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本脩邦, 畑中信良, 西田俊朗
 十二指腸カルチノイドに対して単孔式D-LECSを2回施行した一例
 第34回内視鏡外科学会, 口演. 2021/12/02-04, 神戸
39. 村上剛平, 出村公一, 吉田眞之, 佐藤広陸, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良
 噴門部GISTに対しdouble protector法による単孔式腹腔鏡下胃内手術が有用であった1例
 第93回日本胃癌学会総会, 口演. 2021/03/03-05, 大阪
40. 村上剛平, 出村公一, 吉田眞之, 佐藤広陸, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良
 胃全摘術後患者におけるCTを用いた腔容量変化の検討
 第121回日本外科学会定期学術集会, 示説. 2021/04/08-10, 千葉
41. 村上剛平, 出村公一, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
 肥満患者における腹腔鏡下小腸腫瘍摘出術の工夫
 第43回日本癌局所療法研究会, 口演. 2021/05/21, 横浜
42. 村上剛平, 出村公一, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
 胃癌肝転移症例における原発巣と転移巣のHER2発現の検討
 第76回消化器外科学会総会, 示説. 2021/07/07-09, 京都
43. 村上剛平, 畑中信良, 出村公一, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 加藤雅明, 西田俊朗
 TEVAR施行後の大動脈食道瘻に対し食道切除を施行し奏功した2例
 第75回日本食道学会学術集会, 口演. 2021/09/23-09/24, 東京
44. 村上剛平, 出村公一, 大橋朋史, 大澤日出樹, 井出義人, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
 腹壁癒痕ヘルニアと鼠径ヘルニアに対しTAPPとe-MILOSで同時手術を行った1例
 第34回日本内視鏡外科学会総会, 示説. 2021/12/02-04, 神戸
45. 大澤日出樹, 井出義人, 中本蓮之助, 吉田眞之, 佐藤広陸, 米田和弘, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
 当院における大腸ステント留置後のBTS症例の長期成績に関する検討
 第121回日本外科学会総会, ポスター. 2021/04/08-10, 幕張
46. 大澤日出樹, 井出義人, 中本蓮之助, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
 当院における腹腔鏡下回盲部切除術症例に対する腸間膜修復の意義の検討
 第76回日本消化器外科学会, デジタルポスター. 2021/07/07-09, 京都
47. 大澤日出樹, 井出義人, 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
 完全内臓逆位を合併した直腸癌に対して経会陰アプローチ併用腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した1例
 第34回日本内視鏡外科学会総会, ミニオーラル. 2021/12/02-04, 神戸
48. 大澤日出樹, 井出義人, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
 腹腔鏡下回盲部切除術後に腸間膜欠損部の内ヘルニア陥頓が生じた1例
 第43回日本癌局所療法研究会, 一般演題. 2021/05/21, WEB
49. 大橋朋史, Morimoto O, Nakamoto R, Seto H, Osawa H, Murakami K, Demura K, Ide Y, Hatanaka N, Toshiro N
 A case of multiple nonfunctional pancreatic neuroendocrine tumors treated by laparoscopic spleen preserving distal pancreatectomy
 第33回日本肝胆膵外科学会学術集会, ポスター. 2021/06/02-03, 大阪
50. 瀬戸寛人, 井出義人, 中本蓮之助, 大橋朋史, 大澤日出樹, 村上剛平, 出村公一, 森本修邦, 畑中信良, 西田俊朗
 Imatinib投与後、TaTME併用腹腔鏡下ISR(膈壁合併切除)にて切除しえた巨大直腸GISTの1例
 第83回日本臨床外科学会, 口演. 2021/11/18-20, 東京

51. 中本蓮之助, 瀬戸寛人, 大橋朋史, 大澤日出樹, 村上剛平, 出村公一, 井出義人, 森本修邦, 岩崎輝夫, 畑中信良, 西田俊朗
 膵頭十二指腸切除術(PD)を回避し得た十二指腸粘膜下腫瘍の1例
 第83回臨床外科学会総会, 口演. 2021/11/18-20, 東京
52. 中本蓮之助, Osawa H, Ide Y
 A case of sigmoid colon cancer with retroperitoneal fibrosis treated by laparoscopic surgery
 第76回日本消化器外科学会総会, 専攻医セッション. 2021/07/07-09, 京都
53. 吉田眞之, 森本修邦, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 村上剛平, 出村公一, 井出義人, 畑中信良, 西田俊朗
 腹腔鏡下肝切除中にCO2ガス塞栓症を発症した1例
 第76回消化器外科学会総会, 示説. 2021/07/07-09, 京都
54. 小畑理沙子, 森本修邦, 吉田眞之, 米田和弘, 大橋朋史, 大澤日出樹, 村上剛平, 出村公一, 井出義人, 畑中信良, 西田俊朗
 下血を契機に発見された穿孔性胆嚢炎の1例
 第76回消化器外科学会総会, 示説. 2021/07/07-09, 京都
55. 山下裕玄, 豊田和宏, 國崎主税, 瀬下明良, 衛藤 剛, 小川 了, 馬場秀夫, 出村公一, 貝田佐知子, 中田浩二
 食道胃接合部癌に対する術式選択の現状について —PGSAS NEXT スタディより—
 第51回胃外科・術後障害研究会, 主題. 2021/11/11-12, 東京

呼吸器外科

【原著・総説・著書】

1. 前田 純, 東山聖彦, 西尾 渉, 芳川豊史, 門田嘉久, 岩崎輝夫, 寺田泰二, 岡見次郎
 いわゆる肺良性転移性平滑筋腫10例の臨床病理学的検討
 日本呼吸器外科学会雑誌. 2021 ; 35 : 537-546

乳腺・内分泌外科

【原著・総説・著書】

1. Fumine Tsukamoto
 Multicenter retrospective study on the use of Curebest™ 95GC Breast for estrogen receptor-positive and node-negative early breast cancer
 BMC Cancer. 2021 ; 21(1) : 1077

【学会発表】

2. 北原友梨
 当院における転移再発乳癌に対するS-1の及びcapecitabine治療成績の比較・検討
 第29回日本乳癌学会学術総会. 2021/07/01, 横浜
3. 塚本文音
 術後に対側腋窩リンパ節再発を来し腋窩郭清を行ったStage III C乳癌の1例
 第29回日本乳癌学会学術総会. 2021/07/01, 横浜
4. 南 有紀
 乳房温存療法後の照射野に発生した血管肉腫の3例
 第29回日本乳癌学会学術総会. 2021/07/01, 横浜
5. 笠島綾子
 乳癌術後に肺癌肉腫を併発し、転移性肺腫瘍との鑑別が困難であった一例
 第29回日本乳癌学会学術総会. 2021/07/01, 横浜

心臓血管外科

【原著・総説・著書】

1. Marumoto A, Shintani T, Tanaka K, Kitabayashi K
Unusual Manifestations of Coral Reef Aorta Complicated Severe Valvular Heart Disease in a Dialysis Patient
JACC Case Rep. 2021 ; 3(15) : 1705-1710
2. Marumoto A, Shijo T, Okada M, Hasegawa S
Acute posteromedial papillary muscle rupture secondary to aortic valve endocarditis: a case report
Eur Heart J Case Rep. 2021 ; doi : 10.1093/ehjcr/ytab374
3. Suetani Y, Arita Y, Marumoto A, Hasegawa S
Delayed-onset constrictive pericarditis associated with trauma
BMJ Case Rep. 2021 ; 14 (3) : e240235

【学会発表】

4. 丸本明彬
胸部ステントグラフト内挿術における術後脊髄障害の検討
第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2021/11/12-14, 名古屋国際会議場

脳神経外科

【学会発表】

1. 山際啓典
動眼神経麻痺を呈する未破裂脳動脈瘤に対してコイル塞栓術を行った5症例の報告
第37回日本脳神経血管内治療学会学術総会. 2021/11/25-27, 福岡(web)
2. 山際啓典
微小脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の報告
STROKE2022. 2022/03/17/20, 大阪(web)

糖尿病内分泌内科

【原著・総説・著書】

1. Tamaki S, Yamada T, Watanabe T, Morita T, Furukawa Y, Kawasaki M, Kikuchi A, Kawai T, Seo M, Abe M, Nakamura J, Yamamoto K, Kayama K, Kawahira M, Tanabe K, Fujikawa K, Hata M, Fujita Y, Umayahara Y, Taniuchi S, Sanada S, Shintani A, Fukunami M
Effect of Empagliflozin as an Add-On Therapy on Decongestion and Renal Function in Patients With Diabetes Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure: A Prospective Randomized Controlled Study
Circ Heart Fail. 2021 ; e007048
2. Katakami N, Mita T, Yoshii H, Shiraiwa T, Yasuda T, Okada Y, Torimoto K, Umayahara Y, Kaneto H, Osonoi T, Yamamoto T, Kuribayashi N, Maeda K, Yokoyama H, Kosugi K, Ohtoshi K, Hayashi I, Sumitani S, Tsugawa M, Ryomoto K, Taki H, Nakamura T, Kawashima S, Sato Y, Watada H, Shimomura I
UTOPIA study investigators. The Influence of Tofogliflozin on Treatment-Related Quality of Life in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus
Diabetes Ther. 2021 ; 12 : 2499-2515
3. Taya N, Katakami N, Mita T, Okada Y, Wakasugi S, Yoshii H, Shiraiwa T, Otsuka A, Umayahara Y, Ryomoto K, Hatazaki M, Yasuda T, Yamamoto T, Goshu M, Shimomura I, Watada H
Associations of continuous glucose monitoring-assessed glucose variability with intima-media thickness and ultrasonic tissue characteristics of the carotid arteries: a cross-sectional analysis in patients with type 2 diabetes
Cardiovasc Diabetol. 2021 ; 20 : 95. doi: 10.1186/s12933-021-01288-5

4. Katakami N, Mita T, Yoshii H, Shiraiwa T, Yasuda T, Okada Y, Torimoto K, Umayahara Y, Kaneto H, Osonoi T, Yamamoto T, Kuribayashi N, Maeda K, Yokoyama H, Kosugi K, Ohtoshi K, Hayashi I, Sumitani S, Tsugawa M, Ryomoto K, Taki H, Nakamura T, Kawashima S, Sato Y, Watada H, Shimomura I; UTOPIA study investigators
Effect of tofogliflozin on arterial stiffness in patients with type 2 diabetes: prespecified sub-analysis of the prospective, randomized, open-label, parallel-group comparative UTOPIA trial
Cardiovasc Diabetol. 2021 ; 20 : 4. doi: 10.1186/s12933-020-01206-1
5. Hata S, Mori H, Yasuda T, Irie Y, Yamamoto T, Umayahara Y, Ryomoto K, Yoshiuchi K, Yoshida S, Shimomura I, Kuroda A, Matsuhisa M
A low serum IGF-1 is correlated with sarcopenia in subjects with type 1 diabetes mellitus: Findings from a post-hoc analysis of the iDIAMOND study
Diabetes Res Clin Pract. 2021 ; 179 : 108998. doi: 10.1016/j.diabres
6. Mori H, Kuroda A, Yoshida S, Yasuda T, Umayahara Y, Shimizu S, Ryomoto K, Yoshiuchi K, Yamamoto T, Matsuoka TA, Shimomura I, Matsuhisa M
High prevalence and clinical impact of dynapenia and sarcopenia in Japanese patients with type 1 and type 2 diabetes: Findings from the Impact of Diabetes Mellitus on Dynapenia study
J Diabetes Investig. 2021 ; 12 : 1050-1059

【学会発表】

7. 馬屋原豊, 庄司繁市, 姜 信午, 村田佳織, 岡野理江子, 大西正芳, 吉内和富, 安田哲行, 久米田靖郎, 谷口敏雄, 川岸隆彦, 谷本吉造, 徳田好勇, 北川良裕, 小杉圭右, 橋本久仁彦, 武呂誠司
大阪市南部地区における病診連携の試み(第22報) 糖尿病と災害対策に関するアンケート調査より
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/22, 金沢(Web)
8. 渡邊裕亮, 高原充佳, 片上直人, 清水 成, 藤田洋平, 桂 央士, 久保典代, 馬屋原豊, 下村伊一郎
感染拡大下における、外来通院中の2型糖尿病患者の生活習慣の変化と血糖管理についての検討
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/22, 金沢(Web)
9. 久保典代, 清水成, 藤田洋平, 桂 央士, 馬屋原豊
2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬の肝保護作用の検討
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/22, 金沢(Web)
10. 森 博康, 黒田暁生, 吉田守美子, 安田哲行, 馬屋原豊, 清水彩洋子, 良本佳代子, 吉内和富, 山本恒彦, 松久宗英
2型糖尿病患者のサルコペニア合併に血清グリコアルブミン/HbA1cが関連する
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/22, 金沢(Web)
11. 桂 央士, 清水 成, 藤田洋平, 久保典代, 馬屋原豊
電話診療の糖尿病治療への影響の検討
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/23, 金沢(Web)
12. 藤田洋平, 清水 成, 桂 央士, 久保典代, 馬屋原豊
糖尿病透析予防指導で腎機能低下を抑制できるか 傾向スコアマッチングを用いた検討
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/23, 金沢(Web)
13. 上田彩加, 三田 梓, 梶本侑希, 中嶋玲那, 外川有里, 渡邊裕亮, 高原充佳, 畑崎聖弘
COVID-19流行下における当科外来通院中2型糖尿病患者の生活習慣の変化と血糖コントロールについての検討
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/23, 金沢(Web)
14. 梶本侑希, 三田 梓, 上田彩加, 是松望美, 中嶋玲那, 外川有里, 畑崎聖弘
抗PD-1抗体投与後に発症する1型糖尿病のCPR、膵外分泌酵素の推移
第64回日本糖尿病学会学術総会. 2021/05/23, 金沢(Web)
15. 馬屋原豊
インスリンボール(皮下硬結)の実臨床
第9回日本くすりと糖尿病学会学術集会. 2021/09/12, 奈良(Web)
16. 門澤莉菜, 上田彩加, 三田 梓, 桂 央士, 馬屋原豊
複数の経口血糖降下薬が腸管囊胞性気腫症の病状に関与したと考えられる1例
第58回日本糖尿病学会近畿地方会. 2021/10/30, 神戸(Web)

【学会講演】

17. 馬屋原豊
二次性高血圧の最大の原因 原発性アルドステロン症 および 糖尿病患者データベースからみた糖尿病腎症・DKD
地域で支える高血圧治療/地域の開業医. 2021/04/22, 大阪
18. 馬屋原豊
JCHO大阪病院における糖尿病 病診連携について
Incretin Online Conference(Web)/地域の開業医. 2021/06/03, 大阪
19. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～GLP-1受容体作動薬の位置づけ～
Incretin WEBセミナー/大阪市内の開業医. 2021/06/10, 大阪
20. 馬屋原豊
糖尿病診療のパラダイムシフト
中河内 糖尿病・腎ミーティング/大阪東部地区の開業医. 2021/06/12, 大阪
21. 桂 央士
糖尿病連携手帳について
糖尿病臨床Webセミナー/大阪市内の開業医. 2021/06/24, 大阪
22. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～GLP-1受容体作動薬の位置づけ～
糖尿病臨床Webセミナー/大阪市内の開業医. 2021/06/24, 大阪
23. 馬屋原豊
糖尿病の三大合併症 ～糖尿病神経障害および糖尿病腎症について～
高齢者糖尿病のTotal Care Seminar/大阪市内の開業医. 2021/07/02, 大阪
24. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～GLP-1受容体作動薬の位置づけ～
Diabetes & Incretin Seminar in 住吉/住吉区の開業医・糖尿病専門医. 2021/07/10, 大阪
25. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略と糖尿病医療連携
福島区医師会学術講演会/福島区医師会の先生方. 2021/07/20, 大阪
26. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～GLP-1受容体作動薬の位置づけ～
Diabetes & Incretin Web Seminar in 八尾/八尾市内の開業医. 2021/08/19, 大阪
27. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～欧米系ガイドラインを見据えて～
第1回 大阪市西部 湾岸糖尿病セミナー/大正区、港区、西区、此花区の先生方. 2021/08/25, 大阪
28. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～欧米系ガイドラインを見据えて～
KOWA WEB CONFERENCE/大阪市内の開業医. 2021/09/02, 大阪
29. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略 ～欧米系ガイドラインを見据えて～
循環器疾患と糖尿病について考える/大阪市西部地区の開業医. 2021/11/25, 大阪
30. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略と糖尿病腎症・糖尿病性腎臓病(DKD)の現状
中河内Diabetes Forum/大阪市東部地区の開業医. 2021/12/02, 大阪
31. 桂 央士
当院における糖尿病病診連携について
第2回大阪市西部湾岸 糖尿病セミナー/大正区、港区、西区、此花区の先生方. 2021/12/11, 大阪
32. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略および糖尿病データベースから見たDKDの特徴
第2回大阪市西部湾岸 糖尿病セミナー/大正区、港区、西区、此花区の先生方. 2021/12/11, 大阪

33. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略
Diamond Seminar in OSAKA/近隣の先生方. 2022/01/13, 大阪
34. 桂 央士
当院における病診連携について
DMネットワーク懇談会/福島区を中心に近隣の先生方. 2022/02/26, 大阪
35. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦 ～GLP-1受動態作動薬の位置づけ～
DMネットワーク懇談会/福島区を中心に近隣の先生方. 2022/02/26, 大阪
36. 馬屋原豊
2型糖尿病の薬物治療戦略 および コロナ禍における糖尿病診療 ～その傾向と対策～
第2回関西糖尿病看護ケアセミナー/関西地区の看護師・糖尿病療養指導士. 2022/03/13, 大阪
37. 馬屋原豊
2型糖尿病治療薬選択の傾向と対策 ～変わりつつある欧米系ガイドラインとメトホルミンの現在地～
メトホルミン ファーマシーセミナー/大阪府内薬剤師. 2022/03/17, 大阪
38. 馬屋原豊
2型糖尿病の治療戦略と糖尿病腎症・糖尿病腎臓病(DKD)の現状
此花区医師会学術講演会/此花区医師会の先生方. 2022/03/23, 大阪

内科

【原著・総説・著書】

1. Yamaguchi S, Hamano T, Oka T, Doi Y, Kajimoto S, Yasuda S, Shimada K, Matsumoto A, Sakaguchi Y, Inoue K, Matsui I, Suzuki A, Isaka Y
Electrocardiogram findings at the initiation of hemodialysis and types of subsequent cardiovascular events
Hypertens Res. 2021 May ; 44(5) : 571-580

消化器内科

【学会発表】

1. 中村弘樹
上部消化管ESD/EMRにおける残された課題と乗り越える工夫 当院における表在性非乳頭部十二指腸腫瘍(SNADET)に対する内視鏡治療の治療成績
第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会. 2021/07/10, 大阪
2. 杉丘裕基
粘膜下腫瘍様の形態を呈し、ESDにて診断しえた胃粘液癌の一例
第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会. 2021/07/10, 大阪
3. 武田梨里
Lenvatinib-TACE sequential療法による肝細胞癌治療を行った2症例
第44回日本肝臓学会西部会. 2021/12/09, 岡山
4. 山崎春香
肝細胞癌再発と鑑別が困難であった偽リンパ腫の一例
第44回日本肝臓学会西部会. 2021/12/10, 岡山
5. 三浦勇人
超高齢者に対する早期胃癌ESDの短期成績と長期成績についての検討
第101回日本消化器内視鏡学会総会. 2021/05/14, 広島
6. 杉丘裕基
腸重積を合併し、ESDで切除し得た回腸Peutz-Jeghers型ポリープの一例
第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会. 2021/12/11, 神戸

7. 上菌康平
EBV関連リンパ球浸潤癌の一例
第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会. 2021/12/11, 神戸
8. 山崎春香
肝炎ウイルスコントロール下における課題へのアプローチ 当院におけるHBs抗原消失例に関する臨床的検討
第116回日本消化器病学会近畿支部例会. 2022/02/05, 大阪
9. 岡部 悟
オーバーチューブによる食道穿孔に対して内視鏡的クリップ縫縮術にて保存的に対処しえた一例
第116回日本消化器病学会近畿支部例会. 2022/02/05, 大阪
10. 徳田有記
MRCPで診断しえた膵管非癒合13例の検討
第63回日本消化器病学会大会. 2021/11/04, 神戸
11. 日山智史
低亜鉛血症を伴う寛解期潰瘍性大腸炎患者の臨床経過の検討
第63回日本消化器病学会大会. 2021/11/04, 神戸
12. 伊藤敏文
SARS-CoV-2パンデミック下における上腹部酸関連疾患の入院症例の解析 ポノボラザン(BPZ)の使用状況からの考察
第63回日本消化器病学会大会. 2021/11/04, 神戸

【学会講演】

13. 山本克己
特殊型胃癌の診断
2021年安徽省中日消化道早癌诊治训练营. 2021/07/17, 安徽省合肥市

循環器内科

【原著・総説・著書】

1. Miho Kuramoto
Acute myocardial infarction due to coronary occlusion caused by a metastatic cardiac tumor arising from squamous cell lung cancer; Evaluation with 3-dimensional transthoracic echocardiography
Internal Medicine. 2022 ; 61 : 345-350
2. Yuto Suetani
Multiple Cardiac Calcified Amorphous Tumors
JACC Case Report. 2022 Jan 19 ; 4(2) : 91-93
3. Arita Y, Yamamoto S, Nagata M, Ogasawara N, Hasegawa S
Long COVID presenting with intermittent fever after COVID-19 pneumonia
Radiol Case Rep. 2021 Sep ; 16(9) : 2478-2481
4. Arita Y, Fukui T, Ogasawara N, Hasegawa S
Clinical implication of the brachial-ankle pulse wave velocity for endovascular treatment
Indian Heart J. 2021 Sep ; 73(5) : 650-652
5. 三好美和
心電図をはじめから 無敵のドクターになろう！
大阪府内科医会誌. 2021/12/20 ; Vol 30 2
6. Yamamoto S, Arita Y, Marumoto A, Okada M, Ogasawara N, Hasegawa S
Ventricular septal rupture with ventricular septal dissection and coronary artery fistula after acute myocardial infarction
Cardiovasc Interv Ther. 2022 Jan ; 37(1) : 225-227

7. Yamamoto S, Arita Y, Ogasawara N
Myocarditis Following the Second Dose of COVID-19 Vaccination in a Japanese Adolescent
Cureus. 2022 Mar 25 ; 14(3) : e23474

【学会発表】

8. 藏本見帆
冠動脈および側副血行路の走行を心エコーで捉えたBland-White-Garland症候群の1例
公益社団法人日本超音波学会 第48会関西地方会学術集会. 2021/10/16, ホテルグランヴィア京都
9. 廣瀬江祐
APTT管理下にヘパリン皮下注射で治療した妊娠7週目の深部静脈血栓症の一例
日本循環器学会近畿地方会. 2021/07/03, Web開催
10. 末谷悠人
可動性に富むCalcified Amorphous Tumor
循環器 研究会. 2021/12/03, 大阪リーガロイヤルホテル
11. 末谷悠人
13年前の交通外傷により収縮性心膜炎を発症した一例
循環器学会 地方会. 2021/07/03, Web
12. 末谷悠人
Urine Osmolality Predicts Worsening Renal Function in the Patients with Acute Decompensated Heart Failure
循環器学会 学術集会. 2022/03/11, Web
13. 三好美和
全身麻酔下BOX隔離術の有用性の検討
アブレーション研究会2021. 2021/09/24, WEB配信
14. Miwa Miyoshi
Rapid Atrial pacing and isoproterenol infusion test after cryo-balloon ablation (CBA)
2021不整脈学会. 2021/07/02, WEB配信
15. 佐伯 一
2020年COVID-19感染拡大初期における当院の通院心臓リハビリの結果についての考察
日本心臓リハビリテーション学会 第7回近畿支部地方会. 2022/02/11, オンライン開催

【学会講演】

16. 小笠原延行
当院での経皮的動脈弁狭窄症治療 TAVI 合併する冠動脈疾患のコントロールの重要性
～脂質管理も含めて～
医師. 2021/10/15, 大阪
17. 小笠原延行
当院での経皮的動脈弁狭窄症治療 TAVI 合併する冠動脈疾患のコントロールの重要性
～糖尿病管理も含めて～
医師. 2021/11/25, 大阪
18. 小笠原延行
閉塞性動脈硬化症の血管内治療
医療従事者. 2021/12/05, WEB
19. 小笠原延行
循環器疾患と最近の話題
消防署員、救急隊員. 2021/09/06, 当院
20. 飯田吉則
腎臓の観点から紐解く心不全診療
勤務医・開業医. 2021/12/09, 大阪(WEB)

21. 三好美和
超高齢者のアブレーション時代
イグザレトWEBカンファレンス, 2022/02/21, WEB M3講演会
22. 三好美和
心房細動～バルーンアブレーションで開く新しい治療展望
高齢者の抗血栓療法セミナー, 2022/01/18, WEB講演会
23. 飯田吉則
ARBからARNIへ変更することで、SGLT2阻害薬の浸透圧利尿が強化された一症例
勤務医・開業医, 2021/12/14, 大阪(WEB)

皮膚科

【原著・総説・著書】

1. 竹原友貴
帯状疱疹, 単純疱疹において血管炎との鑑別を要する特異な臨床像を呈した1例
臨床皮膚科, 2021; 75: 1011-1016

【学会発表】

2. 竹原友貴
壊血病の一例
第485回大阪地方会, 2021/05/18
3. 桑田由璃子
皮膚生検を行った神経核内封入体病の1例
第487回大阪地方会, 2021/10/02
4. 江田友香
真性皮膚結核との鑑別に苦慮したBCG接種後の丘疹状結核疹の1例
第488回大阪地方会, 2021/12/11
5. 桑田由璃子
下腿の紫斑を契機として診断されたキャッスルマン病の1例
第51回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会総会, 2021/11/26

泌尿器科

【原著・総説・著書】

1. 今村亮一, 小角幸人, 花房 徹, 西岡 伯, 東 治人, 上川禎則, 内田潤次, 花井 禎, 高尾徹也, 木下秀文, 高原史郎, 岡田卓也, 植村天受, 藤本宜正, 熊田憲彦, 阪口勝彦, 客野宮治, 野々村祝夫
大阪府下で行われた腎移植に関する実態調査
大阪透析研究会会誌, 2021; 38: 165-178
2. 伊藤拓也, 山口唯一郎, 藤本宜正, 渡部直史, 石津谷祐, 植村元秀, 野々村祝夫
前立腺癌陽子線治療後のPSA再発の局在診断にPSMA-PET/CTが有用であった一例
泌尿紀要, 2021; 67: 543-546

【学会発表】

3. 伊藤拓也, 山口唯一郎, 竹原友貴, 藤本宜正
カルシフィラキシスによる陰茎亀頭部潰瘍に対し陰茎部分切除術により疼痛コントロールを図った1例
第71回日本泌尿器科学会中部総会, 2021/11/09, 名古屋
4. 河嶋厚成, 山本致之, 佐藤元孝, 中田 渡, 角田洋一, 石津谷祐, 高田 剛, 山口唯一郎, 山本顕生, 加藤大悟, 波多野浩士, 植村元秀, 野々村祝夫
FANスコア(Fib-4, ALBI, NLR)は転移性尿路上皮癌に対するペンプロリズマブ治療の予後予測因子となる
第109回日本泌尿器科学会総会, 2021/12/07, 横浜

5. 奥田洋平, 河嶋厚成, 山本致之, 佐藤元孝, 高尾徹也, 高田晋吾, 藤本宣正, 岸川英史, 井上 均, 加藤大悟, 波多野浩士, 植村元秀, 野々村祝夫
年齢別転移性尿路上皮癌に対するペンプロリズマブ治療成績の比較検討：高齢者に安全に施行可能か？
第109回日本泌尿器科学会総会. 2021/12/08, 横浜
6. 河嶋厚成, 中田 渡, 石津谷祐, 山本顕生, 山口唯一郎, 吉田栄宏, 岩西利親, 吉永光宏, 金城孝則, 加藤大悟, 波多野浩士, 植村元秀, 野々村祝夫
ペンプロリズマブ治療導入は転移性尿路上皮癌の予後改善に寄与したか？～Real Worldデータから～
第109回日本泌尿器科学会総会. 2021/12/08, 横浜

産婦人科

【講演】

1. 大八木知史
遺伝性卵巣がんについて
第12回JCHO大阪病院公開医学講座. 2021/06/24-27, Web開催
2. 大八木知史
AYA世代の妊孕性温存について
第14回近畿小児血液・がん研究会看護部門講演会. 2021/07/11, Web開催
3. 繁田直哉
薬剤による子宮頸管熟化 ～プロウベスについて～
Expert Seminar in Osaka. 2021/08/19, Web開催

【学会発表】

4. 須賀清夏, 松村有起, 田中稔恵, 中尾恵津子, 繁田直哉, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
当院で実施した子宮動脈塞栓術症例における術後の卵巣機能への影響
第73回日本産科婦人科学会. 2021/04/22-25
5. 松村有起, 繁田直哉, 須賀清夏, 田中稔恵, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
当院におけるジノプロストン(PGE2)腔内留置用製剤(プロウベス®)の使用経験
第73回日本産科婦人科学会. 2021/04/22-25
6. 赤田 将, 森 禎人, 松村有起, 小林まりや, 田中稔恵, 谷口茉莉子, 中尾恵津子, 繁田直哉, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
当院の産科病棟における新型コロナウイルス感染症クラスターの発生について
第48回オープンクリニカルカンファレンス. 2021/06/05
7. 松村有起, 筒井建紀, 田中稔恵, 中尾恵津子, 繁田直哉, 清原裕美子, 大八木知史
子宮体癌再発に対するAP療法中に低Na血症をきたした1例
第144回近畿産科婦人科学会. 2021/06/19-20
8. 松村有起, 繁田直哉, 田中稔恵, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
当院におけるジノプロストン腔内留置用製剤の使用経験
第57回日本周産期・新生児学会. 2021/07/11-13
9. 繁田直哉, 松村有起, 田中稔恵, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
産科病棟における新型コロナウイルス感染症に対する取り組み
第57回日本周産期・新生児学会. 2021/07/11-13
10. 松村有起, 筒井建紀, 田中稔恵, 中尾恵津子, 繁田直哉, 清原裕美子, 大八木知史
子宮体癌再発に対するAP療法中に低Na血症による意識障害をきたした1例
第63回日本婦人科腫瘍学会. 2021/07/16-18

【邦論文】

11. 田中稔恵
若手の最新研究紹介コーナー
産と婦. 2021 ; 89(6) : 745-747

12. 栗谷 翠, 繁田直哉, 小林まりや, 前中隆秀, 張 良実, 坪内弘明, 鹿戸佳代子, 荻田和秀
妊娠後期に発症し、妊娠延長が可能であった絨毛膜下血腫の3例
産婦の進歩. 2021 ; 73(1) : 54-61
13. 服部瑞貴, 大八木知史, 金光麻衣, 田伏真理, 梅澤奈穂, 中尾恵津子, 清原裕美子, 筒井建紀
当院における retained products of conception (RPOC) に対する治療法の検討
産婦の進歩. 2021 ; 73(3) : 169-176

【英論文】

14. Mie Tanaka, Jumpei Kondo, Kensuke Kaneko, Hiroko Endo, Kunishige Onuma, Roberto Coppo, Masamune Masuda, Shoji Kamiura, Kiyoshi Yoshino, Yutaka Ueda, Hideaki Kakeya, Tadashi Kimura, Masahiro Inoue
Heterogenous chemosensitivity of a panel of organoid lines derived from small cell neuroendocrine carcinoma of the uterine cervix
Hum Cell. 2021 May ; 34(3) : 889-900
15. Hiroaki Itoh, Keisuke Ishii, Naoya Shigeta, Atsuo Itakura, Hiromi Hamada, Takeshi Nagamatsu, Tomohiko Ishida, Yasuaki Bungyoku, Ali Falahati, Miori Tomisaka, Mikiya Kitamura
Efficacy and safety of controlled-release dinoprostone vaginal delivery system (PROPESS) in Japanese pregnant women requiring cervical ripening: Results from a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase III study
J Obstet Gynaecol Res. 2021 Jan ; 47(1) : 216-225
16. Asami Yagi, Yutaka Ueda, Mariko Taniguchi, Sayaka Ikeda, Satoko Matsuzaki, Tsuyoshi Takiuchi, Hitomi Arahori, Ai Miyoshi, Kei Hirai, Tadashi Kimura
A questionnaire survey on a feeling of loneliness of the mothers raising children
J Obstet Gynaecol Res. 2021 Dec ; 47(12) : 4298-4305

【書籍】

17. 筒井建紀
妊孕性低下(挙児希望に備えて) —患者ごとに適切な妊孕性温存療法の選択を—
乳がん薬物療法副作用マネジメント プロのコツ 改訂第2版 メジカルビュー社. 2021
18. 筒井建紀
登録システム
妊孕性温存のすべて 中外医学社. 2021
19. 筒井建紀
卵巣組織の“緩慢凍結法”
新版 卵巣組織凍結・移植 新しい妊孕性温存療法の実践 医歯薬出版株式会社. 2021
20. Naoya Shigeta, Keiichi Kumasawa, Kaori Koga
Reproductive Immunology Basic concepts edited by Gil Mor volume1 chapter 12 "Autoimmunity, Regulatory T cells, and pregnancy: Maintaining the balance"
Elsevier. 2021

眼科

【学会発表】

1. 濱野結貴
視神経網膜炎を呈した感染性ぶどう膜炎の4症例
日本臨床眼科学会. 2021/10/29, 福岡
2. 祖父江茜
PICに対する低用量ステロイド治療の有用性の検討
日本眼科学会. 2021/04/09, 大阪
3. 祖父江茜
抗生剤治療で良好な経過をたどった急性網膜内層炎の2例
日本臨床眼科学会. 2021/10/29, 福岡

耳鼻咽喉科

【原著・総説・著書】

1. 増村千佐子, 是松瑞樹, 寺田理沙, 天野雄太, 福田雅俊, 小川 真, 猪原秀典
直接経口抗凝固薬内服中に甲状腺穿刺吸引細胞診を施行して頸部血腫を生じた1例
日耳鼻. 2021; 124: 1302-1308
2. 天野雄太, 福田雅俊, 増村千佐子, 小川 真, 細川清人, 猪原秀典
第XⅢ因子製剤投与が有効であった口蓋扁桃摘出術後出血反復症例
日耳鼻. 2021; 124: 1517-1524
3. de Hoop T, Ogawa M, Iwahashi T, Umatani M, Hosokawa K, Kato C, Inohara H
Humming facilitates a gradual increase in vocal intensity by alleviating the enhancement of vocal fold contact and supraglottic compression
J Voice. 2021; 35: 156.e1-156.e13
4. 小川 真
チャートでみる耳鼻咽喉科診療【症状から診断へ】声の異常
JOHNS. 2021; 37: 1005-1009

小児科

【原著・総説・著書】

1. Daisuke Harada, Kaoru Ueyama, Kyoko Oriyama, Yoshihito Ishiura, Hiroko Kashiwagi, Hiroyuki Yamada and Yoshiki Seino
Switching from conventional therapy to burosumab injection has the potential to prevent nephrocalcinosis in patients with X-linked hypophosphatemic rickets
J Pediatr Endocrinol Metab. 2021; 34: 791-798
2. 埴岡由樹, 原田大輔, 亀島こずえ, 上山 薫, 折山恭子, 阪本夏子, 近藤可愛, 泉井雅史, 長松有衣子, 柏木博子, 山室美穂, 神菌淳司, 難波範行, 山田寛之
一般小児科外来における小児早期警告スコアリングシステムの有用性の検討
小児科臨床. 2021; 74: 463-467
3. 木村美貴子, 原田大輔, 阪本夏子, 柏木博子, 北林愛理, 倉谷千尋, 中野真由, 福西志登美, 石浦嘉人, 大八木知史, 鈴木志帆, 浦上友江, 福永花子, 山田寛之
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」は子育て仲間の獲得に有用である
チャイルドヘルス. 2021; 24: 535-539
4. 原田大輔, 上山 薫, 折山恭子, 柏木博子, 清野佳紀
X染色体遺伝性低リン血症性くる病に対して従来治療からBurosumab治療への切り替えは腎石灰化を予防する可能性がある
成長科学協会研究年報. 2021; 44: 85-88
5. Kenji Hosoi, Kei Minowa, Mitsuyoshi Suzuki, Takahiro Kudo, Yoshikazu Ohtsuka, Takeshi Tomomasa, Hitoshi Tajiri, Takashi Ishige, Hiroyuki Yamada, Katsuhiko Arai, Atsushi Yoden, Kosuke Ushijima, Tomoki Aomatsu, Satoru Nagata, Keiichi Uchida, Kazuo Takeuchi, and Toshiaki Shimizu
Characteristics and Frequency of Pediatric Inflammatory Bowel Disease-Associated Pancreatitis: A Japanese Nationwide Survey
Journal of Pediatric Gastroenterology and Nutrition. 2022; 3(1): e162

【学会発表】

6. 石川達也
診断に難渋している慢性腎障害の合併を疑った46, XYDSDの一例
第124回日本小児科学会学術集会. 2021/04, WEB開催(京都)
7. 長松有衣子
ステロイド治療が奏功した特発性間質性腎炎の一例
第124回日本小児科学会学術集会. 2021/04, WEB開催(京都)

8. 阪本夏子
新型コロナウイルス感染拡大における子育て中の母親に与える影響への検討
第124回日本小児科学会学術集会. 2021/04, WEB開催(京都)
9. 埴岡由樹
一般小児科外来における小児早期警告スコアリングシステムの有用性の検討
第124回日本小児科学会学術集会. 2021/04, WEB開催(京都)
10. 原田大輔
成人X連鎖性低リン血症性くる病の臨床像 関節可動域制限と慢性疼痛
第94回日本内分泌学会学術集会. 2021/04, WEB開催(群馬)
11. 上山 薫
ゾレドロン酸による小児骨形成不全症の治療効果の検討
第94回日本内分泌学会学術集会. 2021/04, WEB開催(群馬)
12. 折山恭子
新型コロナウイルス流行拡大防止のための外出自粛によって発症したビタミンD欠乏性くる病の一例
第94回日本内分泌学会学術集会. 2021/04, WEB開催(群馬)
13. 原田大輔
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」オンライン版の開発
第68回日本小児保健協会学術集会. 2021/06, WEB開催(沖縄)
14. 阪本夏子
新型コロナウイルス感染症感染拡大による子育て中の母親への心理的影響について
第68回日本小児保健協会学術集会. 2021/06, WEB開催(沖縄)
15. 原田大輔
X染色体遺伝性低リン血症性くる病の成人は関節可動域制限と慢性疼痛によるQOL低下をきたす
第39回日本骨代謝学会学術集会. 2021/07, WEB開催(岐阜)
16. 原田大輔
X染色体遺伝性低リン血症性くる病の成人は関節可動域制限と慢性疼痛によるQOL低下をきたす
第54回日本小児内分泌学会学術集会. 2021/10, WEB開催(栃木)
17. 柏木博子
ARSE 遺伝子にミスセンス変異を認めたX連鎖性点状軟骨異形成症(CDPX1)の男児例
日本人類遺伝学会第66回大会. 2021/10/13-16, パシフィコ横浜
18. 上山 薫
治療により甲状腺腫大を抑制したサイログロブリン異常症の小児例
第31回臨床内分泌代謝Update. 2021.11, WEB開催
19. 折山恭子
骨年齢促進と低身長症を認めACAN 遺伝子異常症を疑った幼児例
第31回臨床内分泌代謝Update. 2021.11, WEB開催
20. 岸本加奈子
川崎病に合併した可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎脳症(MERS)の1例
第35回近畿小児科学会. 2022/02/27, 大阪
21. 原田大輔
簡易検査で早期発見しえた1型糖尿病の幼児例
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2022/03/10, WEB開催(大阪)
22. 近藤可愛
COVID-19ワクチン接種後より遷延する心身症状を訴える14歳男児
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2022/03/10, WEB開催(大阪)
23. 長松有以子
不明熱で紹介いただいた13歳男児例
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2022/03/10, WEB開催(大阪)

24. 阪本夏子

生後1カ月でミルクアレルギーによりアナフィラキシーを来した1例
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2022/03/10, WEB開催(大阪)

【学会講演】

25. 柏木博子

FGF23関連低リン血症性くる病の病態・診断・治療 —小児科の立場から—
第94回日本内分泌学会学術集会LS-3-4. 2021/04/24, WEB開催(群馬)

26. 柏木博子

ファブリー病の遺伝と遺伝カウンセリング
JCR岡山Webセミナー. 2021/06/23, WEB開催

27. 原田大輔

GH自動注入器連動スマホアプリを併用した1例
めろん日記全国Web講演会. 2021/08/28, WEB開催(大阪)

神経精神科

【原著・総説・著書】

1. Kashiwagi H, Matsumoto J, Miura K, Takeda K, Yamada Y, Fujimoto M, Yasuda Y, Yamamori H, Ikeda M, Hirabayashi N, Hashimoto R
Neurocognitive features, personality traits, and social function in patients with schizophrenia with a history of violence
J Psychiatr Res. 2022.3:147:50-58
2. Yamamoto K, Kuriu T, Matsumura K, Nagayasu K, Tsurusaki Y, Miyake N, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Fujiwara M, Baba M, Kitagawa K, Takemoto T, Gotoda-Nishimura N, Takada T, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Ago Y, Kida S, Takuma K, Ono F, Matsumoto N, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T
Multiple alterations in glutamatergic transmission and dopamine D2 receptor splicing in induced pluripotent stem cell-derived neurons from patients with familial schizophrenia
Transl Psychiatry. 2021.10:11(1):548
3. Kikuchi M, Nakazawa T, Kinoshita M, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hashimoto R, Numata S
Methylation Analysis in Monozygotic Twins With Treatment-Resistant Schizophrenia and Discordant Responses to Clozapine
Front Psychiatry, section Schizophrenia. 2021.9:12:734606
4. Takahashi J, Hirano Y, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Shishido E, Okazaki K, Shiino T, Nakao T, Kasai K, Hashimoto R, Onitsuka T
Eye Movement Abnormalities in Major Depressive Disorder
Frontiers in Psychiatry, section Neuroimaging and Stimulation. 2021.8:12:673443
5. Takahashi J, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Miyata S, Okazaki K, Matsumoto J, Hasegawa N, Hirano Y, Yamamori H, Yasuda Y, Makinodan M, Kasai K, Ozaki N, Onitsuka T, Hashimoto R
Effects of age and sex on eye movement characteristics
Neuropsychopharmacol Rep. 2021.6:41(2):152-158
6. Ito S, Matsumoto J, Sakai Y, Miura K, Hasegawa N, Yamamori H, Ishimaru K, Kim Y, Hashimoto R
Positive association between insight and attitudes toward medication in Japanese patients with schizophrenia: Evaluation with the Schedule for Assessment of Insight (SAI) and the Drug Attitude Inventory - 10 Questionnaire (DAI-10)
Psychiatry Clin Neurosci. 2021.5:75(5):187-188

7. Idemoto K, Niitsu T, Hata T, Ishima T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kameno Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Hashimoto K, Iyo M
Serum levels of glial cell line-derived neurotrophic factor as a biomarker for mood disorders and lithium response
Psychiatry Res. 2021.4 ; 301 : 113967

脳神経内科

【学会発表】

1. 北川由華, 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦, 上田周一
冠状断拡散強調MR画像が診断に有用であった視床外側ラクナ梗塞の一例
第120回日本神経学会近畿地方会. 2021/12/11, 大阪国際会議場
2. 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦, 上田周一
高齢者メトロニダゾール脳症の一例
第120回日本神経学会近畿地方会. 2021/12/11, 大阪国際会議場
3. 上田周一, 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦
Arterial Spin-Labeling MR画像を用いた血栓性M1閉塞に関連する分水嶺梗塞の病態解析
第62回日本神経学会学術大会. 2021/05/19, 国立京都国際会館

放射線診断、IVR科

【原著・総説・著書】

1. 大倉隆介 他
腸間膜静脈ガス血症・門脈ガス血症を呈した症例の治療方針決定に有用なCT所見
臨床放射線. 2021 ; 66 : 697-705

【学会発表】

2. 小林彰太郎 他
肝類上皮血管内皮腫の1例
第330回日本医学放射線学会関西地方会. 2022/02/05, 大阪

麻酔科

【学会発表】

1. 亀田明希, 堀 泰雄, 西田宙夢, 八木真実
手術の進行に伴ってFiO₂が低下し麻酔器のリークが明らかになった一例
日本臨床麻酔学会第41回大会. 2021/11/05, 札幌 & WEB hybrid

放射線室

【学会発表】

1. 山口裕祐
心筋外集積の検討
大阪心臓核医学講演会. 2021/10/25, 大阪病院講堂2 (Web併用)

臨床工学室

【原著・総説・著書】

1. 松本景史
房室ブロック症例における至適房室伝導の検討
日本臨床工学技士会誌. 2022 ; 74 : 101-107

【学会発表】

2. 松本景史
肺静脈隔離術におけるアブレーションカテーテル安定性の比較
第67回日本不整脈心電学会. 2021/07/01, WEB開催

【学会講演】

3. 松本景史
遠隔モニタリングの運用方法について考える
遠隔モニタリングwebセミナー. 2021/04/26, WEB開催
4. 松本景史
SmartSync活用術
東北エリアCE向けセミナー. 2021/06/25, WEB開催
5. 松本景史
遠隔モニタリングのカタチ
日本心臓植込みデバイスフォローアップ研究会. 2021/07/17, WEB開催
6. 松本景史
第一回Meet the Co-medical Expert -AF Course-
Meet the Co-medical Expert. 2021/08/21, WEB開催
7. 松本景史
CIEDs業務のタスクシフト・タスクシェア
広島県臨床工学技士会 第17回循環器セミナー. 2022/01/22, WEB開催
8. 松本景史
Meet the Co-medical Experts 2022 ー冬の陣ー
Meet the Co-medical Experts 2022 ー冬の陣ー. 2022/02/24, WEB開催

看護部

【原著・総説・著書】

1. 中村明美
調べただけで満足しない！ 実践につなげる！ 文献レビューの看護実践への活かし方
隔月刊 重症集中ケア. 2021 ; 19 : 65-68
2. 谷岡美佐枝
COVID-19対応病棟におけるサブステーション「出島」(分散看護拠点)の活用
病院設備. 2021 ; 4 : 36
3. 谷岡美佐枝, 門野香織, 高橋有美, 金森恵子, 森田玲子
副看護師長会によるヘルシーワークプレースの取り組み
日総研・主任看護師Style. 2022 ; 1・2 : 2-32

【学会発表】

4. 志方優子
A病院におけるがん看護外来の実際 ー開設初年度の総括と今後の課題ー
第36回日本がん看護学会学術集会. 2022/02/19, 横浜

5. 青木 萌
医療者へ怒りを表出する下肢麻痺のある終末期乳がん患者に関わる看護師の態度の変化
第36回日本がん看護学会学術集会. 2022/02/19-20, パシフィコ横浜ノース
6. 谷口智子, 中野美佳, 谷岡美佐江
教育体制の再考に向けた取り組み ～新人看護職員における配属部署研修の試み～
第23回日本医療マネジメント学会学術総会. 2021/06/12
7. 前田結香, 細井きみ江, 猪子弘美, 谷岡美佐江
副師長会におけるヘルシーワークプレースの取り組み ～多職種協働を目指した活動～
第23回日本医療マネジメント学会学術総会. 2021/06/12
8. 高橋 唯, 藤澤千穂, 谷岡美佐江
副看護師長会におけるヘルシーワークプレースの取り組み ～職員と共に白衣リニューアル～
第23回日本医療マネジメント学会学術総会. 2021/06/12
9. 高橋良知, 野田亜由美, 村上博美, 谷岡美佐江
副看護師長会におけるヘルシーワークプレースの取り組み ～ニーズに沿った理想の勤務表～
第23回日本医療マネジメント学会学術総会. 2021/06/12
10. 中野美佳, 谷岡美佐江, 福西志登美
副看護師長会におけるヘルシーワークプレースの取り組み ～看護職員の離職予防～
第23回日本医療マネジメント学会学術総会. 2021/06/12

【学会講演】

11. 谷岡美佐枝
コロナ禍における病院経営のサステナビリティ
看護管理者. 医療安全実践教育研究会. 2021/10/18, WEB(大阪)

病 院 年 報 第 6 卷

2022年10月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構 大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島4丁目2-78

TEL：06-6441-5451(代表)

<http://osaka.jcho.go.jp>

■印刷■

共進社印刷株式会社

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央2丁目9-5

TEL：06-6941-8881